

從三位子爵清岡公張君題辭  
判事試補樋山廣業君註解



大日本  
帝國憲法釋義

法屬附 附

岡島寶文館藏

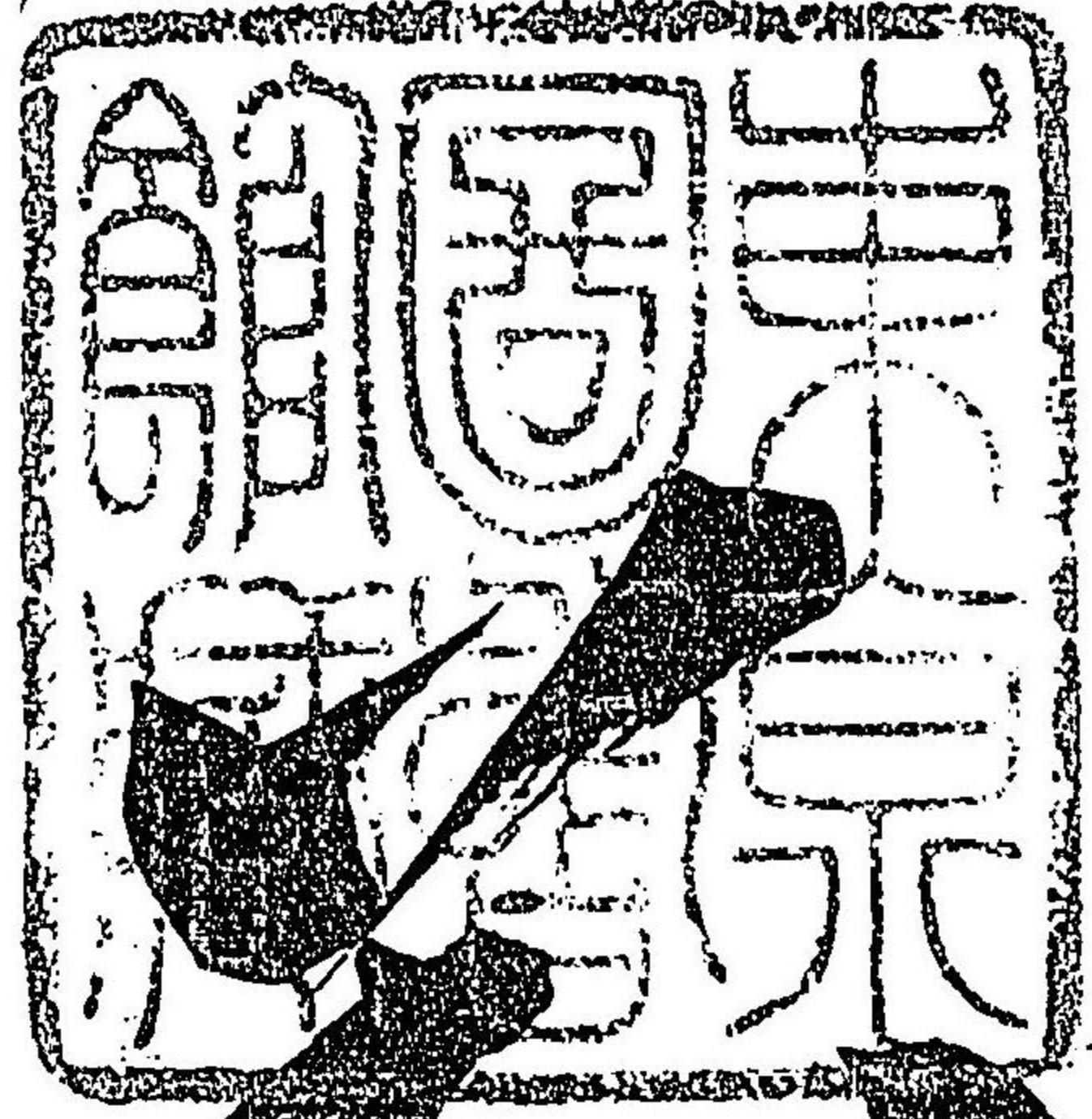


從三位子爵清岡公張君題辭  
判事試補樋山廣業君註解

大日本  
帝國憲法釋義

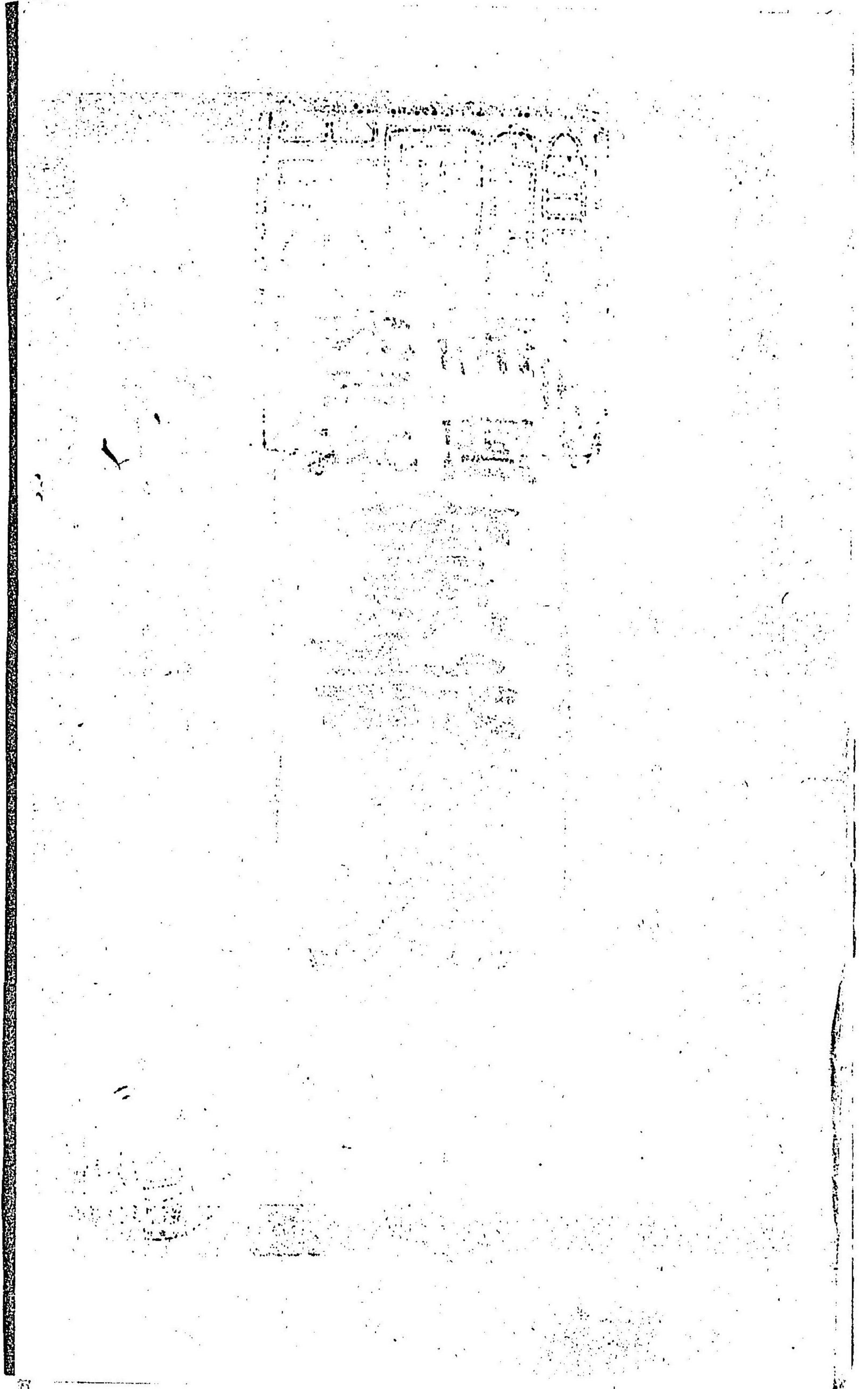
岡島寶文館藏





藏

明





犯

逐

不



# 東望居士題

大日本憲法釋義

凡例

一本書ハ左ノ法律ヲ釋義シタルモノトス

明治二十二年二月十一日御發布ノ大日本憲法

同日發布ノ法律第二號

同日發布ノ法律第三號

同日發布ノ法律第四號

同日發布ノ勅令第十一號

同日奉勅ノ宮内省達第二號

一釋義ハ可成的簡明ニシテ何人モ解シ易ク讀ミ易ク爲シタルモノナリ  
一本書ハ前項ノ如ク婦女子ト雖モ此大典ヲ知ラシムルノ方法ナレハ事皆俗ニ  
シテ解シ易キヲ主意トス故ニ大方君子ノ愛讀ヲ受クルモノニハアラヌ其杜  
撰ナル所ハ諸學士ノ斧正ヲ煩サハ幸甚々々

明治二十二年二月

著者識

638 No. 16199



大日本憲法釋義總目錄

告文

大日本憲法發布勅語

大日本憲法

議院法

衆議院議員選舉法

衆議院議員選舉法附錄

會計法

貴族院令

皇族列次



大日本帝國憲法釋義目次

緒言

憲法發布式次第

青山練兵場觀兵式

大日本帝國憲法

第一章

第二章

第三章

第四章

第五章

第六章

第七章

天皇

臣民權利義務

帝國議會

國務大臣及樞密顧問

司法

會計

補則

自第一條至第十七條

自第十八條至第三十二條

自第三十三條至第五十四條

第五十五條及第五十六條

自第五十七條至第六十一條

自第六十二條至第七十二條

自第七十三條至第七十六條

一 丁

三 丁

七 丁

九 丁

十二 丁

二十五 丁

三十九 丁

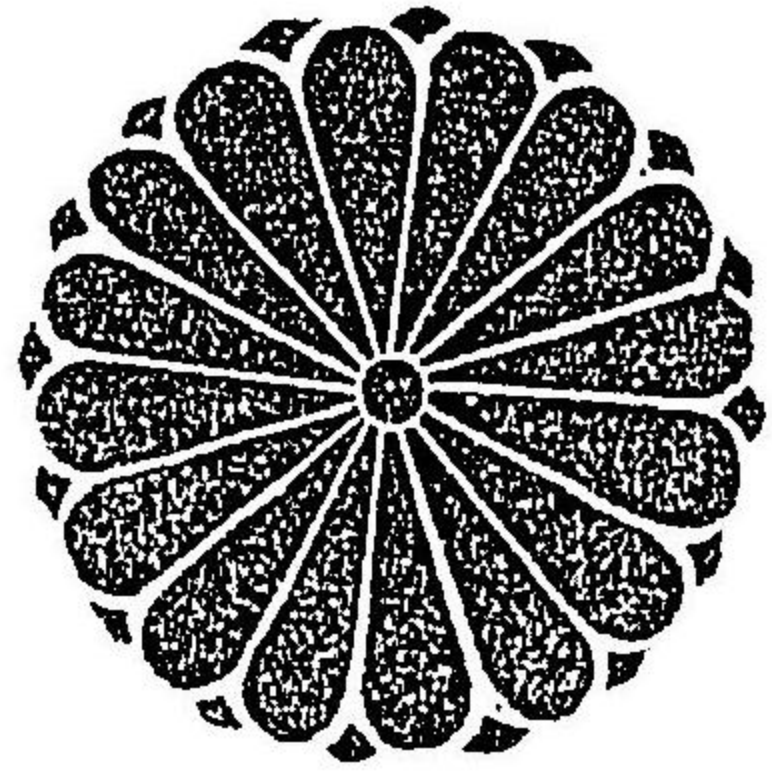
五十四 丁

五十五 丁

六十 丁

七十 丁





告 文

皇朕ノ謹ミ畏

皇祖

皇宗ノ神靈ニ詣ケ白サク皇朕ノ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ  
惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト  
無シ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ  
以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翬贊ノ道ヲ  
廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ不基ヲ鞏固ニシ八洲  
民生ノ慶福増テ進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス  
惟フニ此ノ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外



ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スル  
トヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民

ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムユトヲ誓フ庶

幾クハ

神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承ク  
ルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス  
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇  
造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ  
忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽  
シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想  
シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝  
國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望  
ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルユトヲ疑ハサルナリ



# 大日本帝國憲法釋義

大和 樋山 廣業 著

## ○緒言

凡ソ天地間ニ於テ物アレハ必ラス法アリ即チ形ノ無有ト生死ノ別ナク森羅萬象一トシテ遵フヘキ守ルヘキノ法アラサルハナシ此法ヲ稱シテ萬物法ト云ヒ人類生活シテ集合チナシ其間ニ於テ双方ノ關係ヲ定メ權義ヲ明ラカニスルモノ之ヲ法律ト云フ故ニ法律ニハ種々アリ左ノ如ク區別スルヲ得ヘシ

一 國ト一個人間トノ關係ヲ規定スルモノ

一 人民相互契約ノ事ヲ規定スルモノ

一 國ト國トノ關係ヲ規定スルモノ

以上三種中第一第三ノ如キ法律ヲ指シテ公法ト云ヒ又國法ト云ヒ第二ノ如キ法律ヲ指シテ私法ト云ヒ殊ニ第三ノ如キモ又國際法ト云フ

今之ヲ大別セハ公法ト云ヒ私法ト云フヲ以テ足レリトス而シテ公法ハ國家ト一個人トノ關係ヲ規定スルモノナレハ彼ノ憲法ノ如キモノニシテ之ニ反スル私法ハ即チ一個人相互ノ間權利義務



ナ規定スルノ法律ナルコトヲ記憶ス可シ  
 併シ乍カラ公法ハ單ニ憲法ニ止マラス彼ノ刑法ノ如キ行政法ノ如キモ亦然リト大然レトモ  
 余ハ今憲法ヲ説クノ初メニ一言スルヲ以テ敢テ刑法行政法及ヒ私法ノ事ニ關シテハ之レカ一言  
 ナ費ヤサス蓋シ無用ニ屬スルヲ以テナリ  
 公法タル憲法トハ何ソヤ歐米諸國ノ博士學士等ノ定義種々ノ差異アリト雖モ到底主トスル處ハ  
 政權ノ組織、其職分、權力、國家ニ對スル人民ノ權利義務、等ヲ規定スルモノニシテ即チ主トシテ治者、  
 被治者ノ關係行爲ヲ明カニスルノ基法ナリ  
 我國古昔以來憲法ナルモノアリト雖モ常ニ人民ニ示サス故ニ人民未タ憲法ナルモノ、有無ニ付  
 テ世論喧々タリシカ今ヤ明治二十二年二月十一日ノ紀元節ニ於テ帝國憲法ヲ發布セラル、ニ至  
 ル吾國開闢以來未曾有ノ大典ニシテ千載一遇ノ盛事タリ殊ニ其發布式タル實ニ人民ニ在テハ一  
 大紀念トシテ須臾モ忘ルヘカラサルノ事ナレハ余ハ憲法ヲ解クノ緒ニ於テ之ヲ叙列シ常ニ憲法  
 ナ講スルニ際リテ當日ノ盛典タリシヲ惹起セシム  
 ○明治二十二年二月十一日午前第八時ヨリ紀元節御親祭遊ハサセラレ續テ憲法發布式ヲ行ハセ  
 ラル其次第

○憲法發布式次第 (明治二十二年二月宮内省告示第四號拔萃)

- 期ニ先ツテ
  - 神宮へハ掌典長公爵九條道孝ヲ
  - 神武天皇御陵へハ式部次官男爵高崎正胤ヲ
  - 孝明天皇御陵へハ掌典子爵竹屋光昭ヲ
  - 勅使トシテ發遣シ奉幣セラル
  - 官國幣社へハ地方官ヲ
  - 勅使トシテ奉幣セラル
- 入場諸員左ノ如シ
  - 内閣總理大臣
  - 樞密院議長
  - 各大臣
  - 現任官



公爵

勳一等

勅任官

府縣知事

縣香間祇候

侯爵

伯子男爵總代各一名

控訴院檢事長

始審裁判所長

始審裁判所上席檢事

勳三等以上內國人

在京奏任官三等以上

奏任官 內閣樞密院各省 四等以下每等總代各一名

北海道廳各府縣奏任官四等以下ノ總代三名(即每等各一名)

府縣會議長

次出御

此間奏樂 君カ代

御列

舍人

式部官

式部長官

侍從長

劍璽 勅任侍從之ヲ奉ス

宸儀

侍從

親王

內大臣

憲法ヲ納メタル筥ヲ奉ス



天皇御璽

侍從之ヲ奉ス

宮内大臣

近衛將官佐官

關係官内官

次高御座ニ

着御扈從ノ親王諸官左右ニ侍立ス

次内大臣憲法ヲ奉ル

次勅語アリ

憲法ヲ内閣總理大臣ニ下付シ給フ内閣總理大臣進テ之ヲ奉受ス

此間祝砲執行

次入御

此間奏樂

君カ代

次退出

御式中

皇后陛下ハ

高御座ノ右側ニ別ニ

御座ヲ設ケテ參觀シ給フ

各國公使公使館員ハ左側ニ參列シテ陪觀ス

勅任取扱雇外國人

勳三等以上外國人

右正殿廊下ニ於テ拜觀ヲ許サル

○青山練兵場觀兵式 臨御次第

午後第一時 御出門

鹵簿

國儀式

皇帝

皇后兩陛下御同車

親王御息所内閣總理大臣樞密院議長各大臣親任官供奉

次式場 着御天幕内ニ 入御

次閱兵式



分裂式

右畢テ 還幸

發布式參列拜觀ノ諸員ハ先著參觀ス

一午後第七時親王内閣總理大臣樞密院議長各大臣外國公使親任官等ノ諸員ヲ召シ豐明殿ニ於テ宴會ヲ催サル

一午後第九時發布式參列拜觀ノ諸員ヲ召シ正殿ニ於テ舞樂 天覽

舞樂目錄

大和歌

久米舞

舞樂

太平樂

打球樂

春庭花

胡蝶 童舞

長慶子

以上

大日本帝國憲法

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シ給ヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其康福ヲ増進シ其懿德良能ヲ發達セシムムコトヲ願ヒ又其翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タルモノヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ

先知ラシム



國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及ヒ之ヲ保護シ此憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其享有シ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス  
 帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ  
 將來若此憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ  
 朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フ可シ

御名 御璽

- 内閣總理大臣伯爵 黒田清隆
- 樞密院議長 伯爵 伊藤博文
- 外務大臣 伯爵 大隈重信
- 海軍大臣 伯爵 西郷從道
- 農商務大臣 伯爵 井上馨
- 司法大臣 伯爵 山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣 伯爵 松方正義
- 陸軍大臣 伯爵 大山巖
- 文部大臣 子爵 森有禮
- 遞信大臣 子爵 榎本武揚

明治二十二年二月十一日



二十六 日本帝國憲法

「註」大日本帝國憲法ハ七章七十六箇條ニシテ其第一章ニ於テハ天皇ノ統治權アルヨリ其行フヘキ權利ヲ規定シ玉ヒ十七箇條ニシテ第二章ハ臣民權利義務ヲ規定シ其條十五第三章ハ帝國議會ノ成立、組織、開閉及ヒ議會ノ權利義務ヲ規定シ其條二十二箇ニシテ第四章ハ國務大臣及ヒ樞密顧問ノ責任ヲ定メ第五十五、第五十六ノ二箇條、第五章ハ司法ニシテ司法權ヨリ裁判官ノ終身官タルヲ及ヒ裁判ノ公行、司法裁判所ノ權限ヲ定メ其條五箇ナリ又第六章ハ會計ニシテ租稅ノ徵收ヨリ歲出歲入、皇室經費、決算報告、帝國議會ニ附スル等其規定十一箇條、第七章ハ補則ニシテ此憲法ノ條項ヲ改正スル場合、及ヒ憲法ト他ノ法律規則命令ト矛盾セサルト効力如何等ヲ規定スルモノニシテ四個條タリ以上通計七章、七十六箇條ヲ以テ大日本憲法ヲ結了セリ其關係スル議院法、會計法、議員選舉法等アレトモ先ツ憲法ヨリ解釋ヲ下ス可シ

第一章 天皇

「註」本章ハ天皇ノ統治セラル、事ヨリ皇位、陸海軍ノ統帥、及ヒ天皇ノ行ハル、處ノ事柄ヲ定メラレタルモノナリ

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

「註」本條ハ帝國ノ統治權ヲ定メラレタルモノナリ  
大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇陛下ノ統治セラル、處ナリ我大日本國ハ其古昔ヨリ皇統連續トシテ一モ變更アルナシ實ニ外國ニモナキ神國ニシテ他ヨリ之レヲ侵スコト能ハス否侵スヘカヲサルモノニシテ萬世實ニ一系トス本條ノ如キハ我々臣民ノ神武天皇以來ノ統治シ玉フ處ノ成跡ニ於テ一モ疑ハサル處ナレハナリ即チ我大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇陛下ノ統治シ玉フ處ナリトス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

「註」本條ハ皇位ノ繼承シ玉フ方々ヲ定メラル  
皇位トハ天皇ノ御位ニシテ天皇ノ御相續遊ハサル、チ云フ其皇位ハ天皇陛下ノ皇男子孫ニシテ即チ皇男子孫ノ御順序ヲ以テ皇室典範ノ定ムル所ニ據リ御相續遊ハサル、モノトス而シテ本條皇男子孫トアルチ以テ考ヘ奉ルニ將來ハ男子ニアラサレハ繼承遊ハサセラレサルカ如シ故ニ昔時ノ女皇ハ向後皇位ヲ繼承カサセ玉ハサルト解スヘシ

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

「註」本條ハ實ニ原則ニシテ我 天皇陛下ハ實ニ神聖ナリ決シテ侵スヘカラサルノミナラズ



侵スコト能ハサルモノナリ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

「註」本條ハ天皇陛下ノ統治權ヲ行ハセラル、事柄ヲ定メラル

天皇ハ國ノ元首即チ大日本帝國ノ首ニシテ統治權ヲ總攬シ玉フ之レ第一條ニ於テ萬世一系ノ

天皇ハ大日本帝國ヲ統治セラル、ノ原則ニ對等スルモノナリ而シテ其總攬シ玉フヤ此憲法ノ

條規ニ據リ之ヲ行ハセ玉フ假令ハ第八九條ノ如キ時ニ或ハ法律ニ代ユルヘキ勅令ヲ發セラ

レ又ハ必要ナル命令ヲ發セラル、カ如キ類ニシテ皆憲法ノ條規ニ據リ之ヲ行ハセラル、モノ

ナリトス

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

「註」本條ハ天皇陛下ノ立法權ヲ行ハセラル、事柄ヲ定メラル

帝國議會トハ本法第三十三條以下ニアルカ如ク貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立シ第三十七

條ニアルカ如ク法律ハ總テ協賛ヲ經テ第三十八條ニアルカ如ク政府ノ提出スル法律案ヲ議決

シ及ヒ各法律案ヲ提出スルヲ得ルモノニシテ尙ホ詳密ノ事ハ第三十三條以下ニ於テ之ヲ解

ク而シテ立法權ハ天皇陛下ノ行ハセラル、モノニシテ彼ノ帝國議會ノ協賛ヲ以テ行ハル、モ

ノナリ故ニ天皇陛下ハ立法權ヲ行ハセラル、ニ當リ先ツ帝國議會ノ協賛ヲ以テセラル、モ

ナリ而シテ立法權トハ如何ナルモノナルヤチ一言ス可シ

立法權トハ法律制定ノ權ニシテ行法權ノ執行スル原因タリ之ヲ假令フレハ立法權ハ頭腦ノ如

ク行法權ハ手足ノ如シ立法權ハ之ヲ命シテ行法權ハ之ヲ執行チ司ル故ニ一言セハ法律ヲ制定

スルノ權力之レチ立法權ト云フ此立法權ハ天皇陛下ノ行ハセラル、モノニシテ單ニ帝國議會

ノ協賛ヲ以テセラル共行法權ニ於テハ其執行チ司トル處、行政權又ハ司法權ナリトス尙以下

ニ於テ一々之ヲ説ク可シ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及ヒ執行ヲ命ス

「註」本條ハ法律裁可ノ權及ヒ公布執行ノ命令權ヲ示サル

法律ハ帝國議會ニ於テ議決シ其法案ハ或ハ政府ヨリ提出シ或ハ議會ヨリ提出スルモノナレト

モ第三十七條第三十八條ニ於テハ總テ帝國議會ノ議決スル處トナルモノナリ

斯ノ如ク法律ヲ議決シタルモノチ上奏シ裁可チ得サレハ法律トシテ効力ヲ有セス之レ第五條

ニ於テ定メラル、カ如ク立法權ハ天皇陛下ノ行ハセラル、處ノモノナレハ其裁可セラル、ハ

該權ノ効力ナリト云フ可シ



而シテ其法律ハ帝國臣民ニ公布シ及ヒ其法律ヲ執行セシメラル、モ亦天皇陛下ノ命令ヲ仰ク  
モノトス此命令ナキハ法律ノ効ナク從テ帝國臣民ノ之レヲ遵守スルノ義務ナキモノトス  
公布及ヒ執行ハ行政權司法權ノ職分ニシテ殊ニ司法權ノ與ル場合ニ於テハ其法律ニ制裁力ア  
ルカ如キ又ハ法律ニ背反シタルカ爲メニ其直曲ヲ決シ是非ヲ斷セサルヘカラサルカ如キ場合  
ニアリトス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ命ス

〔註〕本條ハ帝國議會ニ對スル天皇陛下ノ權力ヲ定メラル

天皇陛下ハ帝國議會ヲ召集シ玉フ其召集ノ期ハ第四十一條ニアルカ如ク毎毎之レヲ召集シ玉  
ヒ其第四十二條ノ如ク其會期ハ二ヶ月タリ併シナカテ第四十三條ノ如ク臨時緊要ノ場合ハ臨  
時召集シ玉フ到底帝國議會ハ天皇陛下ノ召集シ玉フモノナリトス  
從テ帝國議會ハ左ノ事項ヲ場合ニ依リ命セラル可シ

- 一 帝國議會ノ開會
- 二 帝國議會ノ閉會
- 三 帝國議會ノ停會

四 衆議院ノ解散

以上四個中三個ハ帝國議會トアリテ貴族院、衆議院ノ兩院ヨリ組成スルコトハ第三十三條ニ依  
リテ明瞭ニシテ常ニ兩院ハ帝國議會ニ包含ス故ニ第一ノ場合ハ貴族院衆議院ノ開會ト云フガ  
如シ以下第三ニ至ルモ亦然リトス尙ホ第四十四條ニ從ヒ兩院同時ニ之ヲ行ハセラル、コトヲ  
以テモ知ル可シ

解散ハ衆議院ニ限ルモノトス何ントナレハ第三十五條ニ於テ衆議院ノ議員ハ選舉法ヲ以テ公  
選セラル、モノニシテ臣民ノ代議士タリ之ニ反シ貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ據リ皇族華  
族及ヒ勅任ノ議員ヲ以テ組織セラル、コトハ第三十四條ニ依リテ明ラカナルモノニシテ常ニ  
天皇陛下ノ命ニ依リテ組織スル議院ナレハ之レヲ解散セラル、コトナシトス

其衆議院ノ解散セラレタルトキハ第四十五條ニ依リ新クニ議員ヲ選舉召集ス尙ホ同條ニ於テ  
之ヲ解ク可シ

以上帝國議會ハ其召集、開會、閉會、停會、衆議院解散ハ 天皇陛下ノ御命ニ依テ定メ玉フモノ

トス之レ 天皇陛下ハ統治權ヲ總攬シ玉フヲ以テノ故ナリトス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由



リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代フルヘキ勅令ヲ發ス  
此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出ス可シ若シ議會ニ於テ承諾セサル  
時ハ政府ハ將來ニ向ヒテ其効力ヲ失フ事ヲ公布スヘシ

「註」本條ハ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發セラル、場合ト其勅令ノ効力如何ヲ定メラル

天皇陛下ハ畏レ多クモ臣民公共ノ安全ヲ保持シ玉フ爲メ又ハ其災厄ヲ避ケシメ玉フ爲メ法律

ニ代ルヘキ勅令ヲ發セ玉フアル可シ而シテ此勅令ヲ發セ玉フヤ左ノ場合ノ要件ヲ必要トス

一 緊急ノ必要ニ依ル

二 帝國議會閉會ノ場合ニ際スル

以上ニシテ其緊急ノ必要ナキトキハ毎年召集シ玉フ帝國議會マテ見合ハセ玉フヘク又帝國議

會開會ナレハ第二十八條ノ如ク法律案ヲ議會ニ提出セシメ玉フナル可シ故ニ法律ニ代リ勅令

ヲ發シ玉フヘキ場合ハ以上ノ二要件アル時ト知ル可シ

其公共ノ安全ヲ保持スル場合又ハ其災厄ヲ避クル爲メノ場合ハ種々アリテ今一々特ニ其例ヲ

示サス

以上ノ發布セラレ玉ヒシ勅令ハ帝國議會ヲ經タルモノニハアラサレハ第三十七條ニ該當セス

故ニ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ玉ヒテ以テ一ノ法律ト爲サシメ玉フナル可シ若シ議會

ニ於テ協賛セズ即チ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其勅令ノ効力ヲ失フタルコトヲ公布

ス故ニ將來ノ効力ヲ失ヒタルモノニシテ既往ニ遡リテ其効力ヲ失ハス即チ之レカ勅令ハ有効

ナルモノトス之レ 天皇陛下ノ公共ヲ保持シ玉ヒ又ハ其災厄ヲ避ケシメ玉フカ爲メニ臣民ノ

爲メニ發セ玉ヒシ勅令ナレハ臣民タルモノ之レカ遵守セサルヘカラス只議會ノ承諾セサルハ

臣民ニ於テ最早勅令ヲ煩ハスニ至ラサルカ又ハ會期ニ際シ其危難既ニ去リタルカノ爲メナル

カ臣民ニ於テ既ニ要セサル時ノ場合ニ於テハ將來ニ向ヒテ尙ホ之レカ効力ヲ有セシムルハ無用

トシ政府之レカ効力ヲ失フ事ヲ公布スルモノト考フ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民

ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但命令ヲ以テ法

律ヲ變更スル事ヲ得ス

「註」本條ハ法律ヲ執行スル爲メニ發シ又ハ發セシメ玉フ命令ノ事ヲ定メラル

法律ハ帝國議會ノ議決ヲ經テ 天皇陛下ノ裁可シ玉ヒタルモノニシテ其法律ヲ執行スル爲メ

ニ必要ナル命令ヲ發シ玉ヒ又ハ發セシメ玉フ之レ法律ニハ各執行アリテ始メテ活用ヲ爲ス其



命令ヲ發シ玉フヤ第六條ニ於テ 天皇陛下ノ命シ玉フ執行ノ部分ニ屬スルモノナリ其他公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進セシメラル、爲メ必要ナル命令ヲ發シ玉ヒ又ハ發セシメ玉フ

此命令ナルモノハ第八條ノ勅令トハ違フモノニシテ法律ヲ執行スル爲メニ必要ナル處分タリ勅令ハ法律ニ代ルヘキモノニシテ議會ノ承諾アレハ立派ナル法律トナルモノナリ故ニ第八條ニ於テハ次ノ會期ニ議會ニ提出シ後タル此命令ハ議會ノ與知スルモノニアラスシテ行政權ニ屬スルモノナリ故ニ其事ナシトス

故ニ其効力上大ニ異ナルモノナリ法律ノ執行上必要ノモノナルヲ以テ法律アリテ始メテ命令アリ法律アラサレハ命令ナシ茲ヲ以テ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得サルモノトス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及ヒ文武官ノ俸給ヲ定メ及ヒ文武官ヲ任免ス但此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ル

〔註〕本條ハ文武ノ官制、文武官ノ俸給、任免ノ事ヲ定メラル

行政各部ノ官制トハ明治十九年二月勅令第二號ヲ以テ既ニ定メラレタル行政各部ノ職務權限ニシテ文武官トハ上内閣總理大臣ヨリ下判任官ニ至ルマテ政府ノ官吏ナリ其文武官ノ俸給ヲ

定メサセテ及ヒ其文武官ヲ任免等ハ 天皇陛下ノ爲サセテ玉フ處タリ之大日本帝國ヲ統治シ玉フハ行政權ヲ行ハセ玉フ可キニ付此行政權ニ必要ナル文武官ハ天皇陛下ノ任免シ玉フハ當然タルモノニシテ從テ其文武官ノ俸給モ亦之ニ隨伴スルモノナリ假令ハ今日行ハセ玉ヒタル陸海軍々人軍屬ノ俸給、裁判官ノ俸給、文官總テノ俸給ノ如シ去リナカラ此憲法ニアル議員ノ如キ裁判官ノ如キ其他ノ法律ニ特例ヲ掲ケテアルモノハ其條項ニ據リ職務、權限、任免等ハ爲シ玉フモノトス

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

〔註〕本條ハ陸海軍ノ統帥シ玉フコトヲ定メラル

天皇陛下ハ陸海軍ヲ統帥シ玉フ蓋シ陸海軍ハ統治權ノ主タルモノニシテ大日本帝國ヲ統治シ玉フトキハ陸海軍ヲ統帥シ玉フハ勿論ニシテ昔時ニ於テハ天子之レカ元帥タリトノ事アリ且我國ノ如キハ神武天皇ノ親テ東征シ玉フ以來天子ハ皆親征タリ我國ノ憲法本條ヲ記載セラル、又我國ノ我國タル所以ナリ

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ム

〔註〕本條ハ第十一條ノ統帥シ玉フ結果ヲ定メラル



天皇陛下ハ陸海軍ヲ統帥シ玉フヲ以テ其編制及ヒ常備兵額ハ是亦 天皇陛下ノ定メ玉フ處ナ

リトス

其編制トハ徵兵令ノ如シ尙ホ徵兵令ニ付テハ余カ著シタル新舊對比徵兵令釋義ヲ一讀スヘシ

### 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ諸般ノ條約ヲ締結ス

〔註〕本條ハ宣戰講和條約ノ事ヲ定メラル

天皇ハ陸海軍ヲ統帥シ玉ヒテ大日本帝國ヲ統治シ玉フヲ以テ大日本帝國ニ對シ外國ヨリ戰ヲ開クカ又ハ諸般ノ條約ヲ求ムルトキハ戰ヲ宣シ又ハ和ヲ講シ又ハ其條約ヲ締結シ玉フ蓋シ統治權ヲ總攬シ玉フカ故ナリトス

### 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及ヒ効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔註〕本條ハ戒嚴宣告ノ事ヲ定メラル

戒嚴ヲ宣告スルトハ明治十五年八月第卅六號布告ノ戒嚴令ニシテ即チ戒嚴ノ要件及ヒ効力ハ法律ヲ以テ別段之ヲ定メ玉フ即チ其法律ハ前掲ノ布告ヲ云フモノトス

### 第十五條 天皇ハ爵位勳章及ヒ其他ノ榮典ヲ授與ス

〔註〕本條ハ諸般ノ榮典ヲ授與シ玉フヲ定メラル

天皇ハ臣民ニ對シ爵位、勳章其他ノ榮典ヲ授與シ玉フ之レ統治權 天皇陛下ノ有シ玉フ處ナレハ我々臣民ハ其統治シ玉フ 天皇陛下ヨリ之レカ榮典ヲ受ク實ニ難有キ次第ニシテ之レヲ拒ムノ理由ナキモノナリ其爵位、勳章、其他ノ榮典ハ皆天皇陛下ノ有シ玉フモノナレハ之レヲ授與シ玉フ實ニ勿論タリ而シテ本條別ニ區別ナキヲ以テ今日ノ如ク外國人ト雖モ此榮典ヲ受クルノ榮アリト知ル可シ

### 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命ス

〔註〕本條ハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命シ玉フヲ定メラル

大赦ト特赦トハ大ニ其差異アルモノナリ大赦トハ罪跡ヲ湮滅セシムルノ性質ヲ有シ特赦ハ刑ヲ減輕スルニ過キス之ヲ他ニ依テ云フトキハ大赦ハ其犯罪ノ性質ニ因リテ之ヲ與ヘ特赦ハ其犯人ニ就テ之ヲ與フルモノナリ例ヘハ國政變更ニ際シ國事犯ニ付テ大赦ヲ行フカ如ク又今般憲法發布ニ際シ公益ニ關スル罪、靜謐ヲ害スル罪、陸海軍ニ在テハ反亂ノ罪、抗命ノ罪、擅權ノ罪、侮辱ノ罪、違令ノ罪、保安條例、集會條例、爆發物取締罰則、新聞紙條例、出版條例等ノ犯則者等ノ類是ナリ又犯罪人ニ就テ之ヲ與フルトハ其各人ニ付テ情狀如何ヲ斟酌シテ與フルモノ



ナリ

以上特赦ノ事ニ付テハ治罪法第四百七十七條以下ニ規定シアルモ大赦ノ事ハ絶テ之レカ明文  
 ナシ尤トモ大赦屢々アルモノニアラサレハ特ニ之レカ明記セサルモ特赦ト同シク我 天皇陛  
 下ノ勅裁ニ委ネタルモノナリ茲ヲ以テ其減刑ト復權ト共ニ 天皇陛下ノ之レヲ命シ玉フ外他  
 ニ之レヲ與フモノナシトス而シテ復權ノ事ハ刑法第六十五條ニアリテ勅裁ニアラサレハ得ヘ  
 カラスト定メアリ本條ヲ以テ未タ明記ナキ大赦減刑ト共ニ 天皇陛下ノ命シ玉フヲ明ラカ  
 ニ示サレタリ

第十七條

攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

「註」本條ハ攝政ヲ置カル、時ノ事ヲ定メラル  
 凡ソ攝政ヲ置クハ 天皇陛下ノ御幼冲ニ在ル時ニ限ルカ如シ蓋シ皇室典範ニ於テハ如何定メ  
 ラル、カ未タ典範ヲ讀マサルヲ以テ知ル能ハスト雖モ古昔大抵斯ノ如シトス  
 其攝政ヲ置カレ玉ヒタルトキニ攝政ノ行フヘキ大權即チ統治權其他ノ諸權利ハ 天皇ノ名ニ  
 於テ之ヲ行フモノト定メラル

天皇ノ名ニ於テ云々ト抑モ名ニ於テト云ヘル如何ナル意義ナルヤト思考スルニ彼ノ名ヲ以テ  
 ト云ヘル事トハ差異アルカ如シ 天皇陛下ノ御名ヲ以テ大權ヲ行フト云ヘハ攝政ハ天皇陛下  
 ノ御名ヲ以テスルトセハ取モ直サス 天皇陛下ノ大權ヲ統治シ玉フモノニシテ決シテ攝政ヲ  
 置カレタルハ其効ナキカ如シ故ニ名ニ於テトハ 天皇陛下ノ御名ニ依リテ攝政大權ヲ行フモ  
 ノト云フ可シ下ノ第五十七條ニモアルカ如ク裁判所ノ司法權ヲ行フハ 天皇陛下ノ御名ヲ以  
 テ爲サスシテ 天皇陛下ノ御名ニ依リテ裁判所之ヲ行フト云フニ外ナラスト解セハ本條モ亦  
 其意ナリト解ス可シ併シナカラ未タ曾テ著者ノ慣レサル文字ナレハ聊カ疑ニ存スルナリ

第二章 臣民權利義務

「註」本章ハ日本臣民タルモノ、權利義務ヲ規定セラレタルモノニシテ其何レカ權利ニ屬  
 スルヤ義務ニ屬スルヤハ各本條ニ據テ解ク可シ

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

「註」本條ハ日本臣民タルノ要件ヲ示サレタリ  
 日本臣民タルニハ何々ノ要件カ必要ナリトノ事ハ此憲法ニ據テハ之ヲ載セス他ノ法律ノ定ム  
 ル所ニ之レ據ラシム



此法律トハ民法ナル可シオランダイカクコソ 歐米各國皆臣民タルノ身分ハ民法ニ於テ之ヲ規定ス故ニ我大日本帝國臣民ノ要件モ亦民法ニ之レヲ規定セラル可シ  
各國ノ例ニ依リ臣民タルノ要件ヲ失フハ左ノ諸件ニアリ故ニ之レヲ失ハサルモノハ皆臣民タルモノナリ

第一 外國ノ戶籍ニ入ル事

第二 天皇陛下ノ允許ナク外國政府ヨリ官職ヲ受クル事

第三 歸國スルノ意ナク外國ニ居住ヲ定ムル事

右ハ只余ノ私見ニシテ敢テ定マレルモノニハアテス法律ヲ待一定ムルモノナリトス

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均シク文武官ニ任セ

ラレ及ヒ其他ノ公務ニ就ク事ヲ得

「註」本條ハ日本臣民ノ權利義務ヲ規定セラレタル所ノ一ニシテ官吏ニ任セラレ又ハ他ノ公務ニ就ク事ヲ示ス

凡ソ文武官ニ任命セララル、ハ皆法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應セサル可カラズ例ヘハ高等官トナルニハ規定ノ試験ヲ要シ試験ヲ受クルニハ又規定ノ資格アルヲ必要トス然ラサレハ試験

ヲ受クルノ資格ナク 隨テ高等官トナルノ資格ナキモノナリ又文武官ニ任セララル、ノ外其他ノ公務ニ就ク事ヲ得例ヘハ帝國議會ノ議員トナルカ如シ

均シクトハ日本臣民タルモノハ皆何人モ同一ニ文武官ニ任セララル、トノ主意ニシテ文武官ニ任セララル、ニ臣民中決シテ等差アル事ナシト云フニアリトス故ニ平民ト雖モ資格アレハ文武官トナルコトアリ華族ト雖モ資格アレハ文武官トナルコトアリ資格ナクハ共 文武官トナルコトヲ得サルノ類トス

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

「註」本條ハ臣民ノ義務ヲ定ムル一ナリ

日本臣民ハ徵兵令ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス同令第一條ニ曰フ

日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳マテノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

トアリテ兵役ハ臣民ノ義務中殊ニ一位ヲ占ムルモノナリ何ントナレハ國ノ爲メ我同胞ノ爲メ愛スルノ志ヲ有スルモノナレハ此義務ナクシテ可ナランヤ尙ホ徵兵令ノ義務ニ付テハ余カ著ク改正徵兵令釋義ヲ一讀セララル可シ



此法律トハ即チ改正シタル徵兵令ヲ指スモノトス明治二十二年一月二十一日法律第一號參看  
ス可シ

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

〔註〕本條ハ臣民義務中第二ニ位スル納税ノ義務ヲ定メラル  
日本臣民ハ兵役ノ義務ヲ有スルノ次ニハ納税ノ義務ヲ有ス納税トハ種々アリテ先ツ租税、所得税、府縣稅、町村稅、特別稅ノ如ク政府ヨリ徵收スル國稅、府縣稅、市町村稅、市町村稅ヨリ徵收スル市町村稅又ハ特別稅ノ如キモノヲ云フ

其法律トハ第六十二條以下ノ規定、地租條例、所得稅法、營業稅規則、市制、町村制等總テ納税スヘキ法律規則ハ皆之ヲ包含ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及ヒ移轉ノ自由ヲ有ス

〔註〕本條ハ臣民ノ權利ノ一ヲ示サレタルモノナリ  
日本臣民ハ日本國內ニ於テ何地ヲ問ハス居住スルノ自由ヲ有シ又諸所ニ移轉スルノ自由ヲ有ス然レトモ其自由タルヤ法律ノ範圍内ヲ出スヘカラス此法律トハ戶籍ニ關スル法律規則ノ如キ或ル場合ニ於テハ徵兵令ノ如キヲ云フ例ヘハ北海道ヘハ云々ノ事ヲ守ラサレハ居住スルヲ

ナ得ス又ハ移轉スルヲ得サルカ如ク之ヲ制限シ又徵兵令ノ如キ何月何日マテハ戶籍ヲ移轉スルヲ差止ムカ如キ制限ヲ設ケラレタルカ如シ此法律ノ範圍内ニ於テアレハ日本帝國内何レノ地ト雖トモ自由ニ居住シ及ヒ移轉スルヲ得可シ

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クル事ナシ

〔註〕本條ニ於テモ臣民ノ權利ノ其一ヲ示サレタリ  
本條中ニ逮捕、監禁、審問、處罰ノ四種アリ左ニ一々之ヲ示サン

第一ノ逮捕トハ犯人タリ刑事被告人タリト嫌疑上ヨリ其被告人ヲ逮捕スルモノニシテ是人ノ自由ヲ束縛スルモノナリ法律ニ據ルノ外漫リニ之レカ處爲ヲ行フヘカラス即チ法律トハ治罪法ニ據リ勾引狀又ハ逮捕狀ヲ發シ其執行者タル巡查、又ハ憲兵卒ノ之レヲ携帶シテ執行スルカ如ク又其令狀ハ司法警察官タル官吏又ハ豫審判事、檢事等ヨリ發シタルモノナルヲ等皆治罪法ニ據リテ發シ執行シタルトキニアラサレハ逮捕ヲ受クルノ事ナシトス故ニ右ノ令狀ノ式ニ違フトキハ其逮捕ヲ拒ムノ權利アリトス但シ現行犯アレハ直ニ逮捕セラル可シ  
第二ノ監禁トハ是亦被告人トシテ勾留狀收監狀ヲ治罪法ニ據リ發セラレ巡查、憲兵卒、監守等



ノ執行スルモノニシテ人身ヲ拘禁シ自由ヲ束縛スルモノナレハ是亦法律タル治罪法ニ依リ式ニ從ヒ發セサル以上ハ之レニ從フノ事ナク之ヲ拒ムノ權利アリトス其令狀ヲ作ルハ司法警察官吏、豫審判事等ナリトス

第三ノ審問トハ警察官吏ノ審問ヨリ檢事、豫審判事、公判判事ニ至ルマテ總テ其人ノ行爲ニ對シ審問スルモノナリ此審問タル是亦法律即チ治罪法ニ據リ相當ノ手續ニ依リテ審問ヲ受クルニアラサレハ決シテ應スルノ義務ナシ若シ法律ニ據ラストセンカ審問ヲ拒ムノ權利アリトス

第四ノ處罰トハ行爲ノ制裁ヲ受クルモノニシテ金額ヲ以テ罰セラル、アリ身体ノ束縛ヲ以テ罰セラル、アリ而シテ處罰ニハ刑法上アリ取締法タル單行法律アリ彼ノ竊盜ノ如キハ刑法上ノ處罰ニシテ新聞條例、質屋取締條例、酒造稅則ノ如キハ取締上單行法律ノ處罰タリ皆各其處罰ヲ受クルニハ各其法律アリテ其制裁ヲ受ク故ニ法律ニ據ラサル以上ハ處罰ヲ受クル事ナシトス刑法ノ總則第二條ニ曰ク

法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖也之ヲ罰スルコトヲ得ス  
ト其第五條ニ曰ク

此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサルモノハ此刑法ノ總則ニ從フ

ト此條文ハ本條ト同一ノ意義ヲ有スルモノニシテ一個ノ原則ナリトス

### 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル

事ナシ

「註」本條ハ臣民ノ權利ノ其一タリ

民刑事事問ハス裁判官タルモノハ下ノ第五十八條ニアルカ如ク法律ニ定メタル資格ヲ具フルモノヲ以テ裁判官ニ任スルモノトスト故ニ裁判官タルモノハ一ノ法律ニ定メタル資格ヲ具ヘタルモノニシテ又法律上此裁判官ハ此事件ヲ裁判スルノ任アリトノ事ヲ定ム可シ故ニ日本臣民タルモノハ其裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、事ナシ之レ日本臣民ノ權利ナリ例ヘハ初審裁判ヲ受ケ之レニ不服ヲ唱ヘ控訴スルニ當リテヤ原ノ裁判官之ヲ裁判シ又ハ其裁判官ヨリ下級ナル裁判所ノ裁判官ニ裁判ヲ受クルノ義務ナシ即チ其控訴ノ判決ヲ爲スヘキ控訴院ノ裁判官ニ裁判ヲ受クルノ權ヲ有ス決シテ此權ヲ奪ル、事ナシトス况ンヤ裁判官ニアラサルモノ又ハ裁判官ノ資格ヲ具ヘサルモノニ裁判ヲ受クルノ理アラサルニ於テチヤ



三第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索セラル、事ナシ

〔註〕本條モ亦一ノ權利ヲ示サレタリ

凡ソ人ノ住所ハ一ノ城廓ナリ其家ノ者ノ許諾ナクシテ漫リニ侵入スルヲ得ス及ヒ其家ヲ搜索スルヲ得サルナリ之レ刑法上家宅不侵罪ノ設ケアル所以ナリ

刑法第七十一條ニ曰ク

晝間故ナシ人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

同第七十二條ニ曰ク

夜間故ナシ人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

同第七十三條ニ曰ク  
故ナシ皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタルモノハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ  
ト以上皆家宅又ハ邸宅ノ侵入ヘカテ示スモノナリ

然レトモ法律ニ定メタル場合即チ治罪法第百三十三條ニ曰ク  
令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其地ノ戸長又其差支アルキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ

又治罪法第百六十二條ニ曰ク  
豫審判事ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スルノ疑アル者ノ住所ニ臨檢スルヲ得

被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住所ニ在ラサル時ハ同居ノ親屬若シ其在ラサル時ハ戸長ノ立會アルヲ要ス

トアリ其他此臨檢家宅搜索ハ治安裁判所判事又ハ司法警察官ニ囑托スルヲ得又收税ニ關スル場合ニ於テハ收税官直ニ家宅ヲ搜索スルコトヲ得ル等皆之レカ許諾ヲ得シテ住所ニ侵入シ搜索セラルヘシ之レハ公益上ト一ハ罪跡ヲ隠滅セシムルノ患アルカ爲メナリトス

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、事ナシ

〔註〕本條モ亦權利ノ一ヲ示サレタリ



信書ノ秘密ヲ侵スハ是レ亦家宅ヲ侵スト同一ノ權衡ニシテ他人ノ決シテ侵スヘカラスナルモノナリ既ニ郵便條例ニ於テ之レヲ定ム

然レトモ法律ニ定メタル場合即チ治罪法第百六十九條ニ曰ク

豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ

被告人又ハ豫審ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ是等ノ者ニ對シ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受

取開披スルヲ得但受取證書ヲ渡ス可シ

ト其他郵便條例違反ノ信書電信條例違反ノ電報ハ其法律ニ依リ之レヲ開披シ改ムルノ權アリ

之レ亦公益上又ハ被告ハトナリテ罰狀ニ關係スル處ナレハナリ

### 第二十七條

日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、事ナシ

公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

〔註〕本條ニ於テモ亦一ノ權利ヲ示ス

本條ハ民法ニ於テモ喋々論スル所ノ所有權ハ侵スヘカラスナルノ原則ヲ掲ケラレタルモノニシ

テ大ニ論スル所ノモノナリ

夫レ所有權ハ社會ノ基礎ナリ若シ此所有權ヲ充分ニ保護シサレハ社會ノ進歩國家ノ福利ハ之

レカ望ムヘキニアラス若シ然ラストシテ強弱互ニ相侵スヲ自由ナリトセハ人々己レカ衣

食住ニノミ必要ナルヲ得テ外ニ餘裕ヲ求ムルニアラスシテ貯蓄ノ如キハ地ヲ拂フテ去リ各

々其志ヲ懷カサルニ至リ國家社會ノ富ヲ増スヲ得ス富ヲ増サ、レハ國家社會ノ基礎ヲ建ル

ヲ得ス故ニ各人ノ所有權ハ確乎トシ之ヲ保護シ臣民相互ニ侵スヲ得サシム之レ民法上

ノ一大原則ニシテ本條モ亦同一ノ主意ニ外ナラス

然リト雖モ公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ據リ所有權ノ剝奪ヲ受クルヲアル可

シ蓋シ之レ所有權ハ侵スヘカラスナルノ大原則ニ例外ヲ付シタルモノナリ

夫レ鐵道ヲ敷設スルカ如キ國道ヲ設クルカ如キ電信柱ヲ設クルカ如キ國家防衛ノ爲メ城堡ヲ

築クカ如キ政府公務ノ廳ヲ設クルカ如キ皆其事業タル國家社會ノ公益ヲ謀リ利益ヲ計リ總テ

幸福ヲ増スニアリ然ルニ其入用ナルモノハ第一ニ土地ナリ然シテ其土地タル一私人ノ所有權

ヲ保護スル点ヨリシテ之レヲ其所有者ニ謀ルニ當リ直ニ之レカ承諾セハ事充分ナリト雖モ若

シ承諾セサルトキニ於テハ其國家社會ノ幸福タル事業ハ一私人ノ爲メニ行フヲ得ス即チ公

益ヲ謀ルヲ能ハサルニ至ル茲ニ於テ強制剝奪ヲ行ヒ以テ公益ノ事業ヲ起サ、ルヘカラス格言

アリ曰ク私益ハ公益ヲ害スルヲ得スト本條此格言ヲ以テ所有權侵スヘカラスナルトノ原則ヲ



調和シタルモノト謂フ可シ

然シテ此剝奪タルヤ政府公益ノ爲メ決シテ無價ヲ以テ奪フニハアラス相當ノ報酬ヲ以テ之レ

ヲ讓渡セシムルニアリ

此法ハ即チ現行ノ明治八年七月二十八日太政官第三百二十二號ノ布告タル公用土地買上規則ナリトス故ニ所有權侵スヘカラストノ一大原則ハ公用土地買上規則ニ依テ例外アルモノト知ル可シ

第二十八條

日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ臣民タルノ義務ニ背カサル限

ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

〔註〕本條モ亦一ノ權利ヲ示サレタリ

本條ハ彼ノ喋々スル宗教自由ノ原則ヲ示サレタルモノナリ

宗教ハ自由ナリ其何ノ宗教ヲ信スルモ臣民ニ於テハ自由ナリト雖モ日本臣民ハ其信教ヲ自由ニスル以上ニ於テハ左ノ二要件ヲ遵守セサル可カラズ

第一 安寧秩序ヲ妨ケサルヲ

第二 臣民タルノ義務ニ背カサルヲ

以上ノ二要件ヲ遵ヒ守リテ爲ス以上ハ如何ナル宗教ヲ信スルモ憲法ハ之レヲ咎メス而シテ余

ハ此二要件ニ付テ説カントスルモ右ハ讀者諸君ノ感覺ニ任シテ敢テ一言セス讀者ニシテ信教

ヲ爲スモノニ要件ヲ服膺シ決シテ日本臣民タルニ背カサル様島ム可シ

第二十九條

日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及ヒ結社ノ自

由ヲ有ス

〔註〕本條ニ於テモ亦一ノ權利ヲ示サレタリ

日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論ナリ、著作ナリ、印行ナリ、集會ナリ、結社スルノ自由アリトス

其言論集會ニ於テハ集會條例アリ著作ニハ出版條例アリ板權條例アリ印行ニハ新聞紙條例アリ

結社ニハ結社ニ關スル規則アリ皆各其法律規則ニ規定セル範圍内ニ於テ運動スヘシ若シ其

範圍外ニ涉ルトキハ各其條例ニ於テ處分ヲ受クルハ勿論タリ例令ヘハ著作新聞紙等ニ成法ヲ

誹毀シタル文ヲ載セルガ如ク、人ノ惡事ヲ摘發公布スルガ如キハ法律ノ範圍外ニ出テタルモノナリトス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ請願ヲ爲



ス事ヲ得

「註」本條ニ於テハ請願スル權ヲ定メラル  
 請願スルニハ各其順序アリ即チ議院法第六十二條以下ニ請願ノ規則アリ其規則ニ依テサル請  
 願ハ之レヲ受理セラレタルハ勿論ダリ  
 其相當ノ敬禮トハ請願スルノ順序ヲ守ルト時ニ或ハ直ニ國務大臣ニ到リ又ハ畏レ多クモ  
 天皇陛下ニ上書ヲ奉ルカ如キ不敬ノ處爲チ爲スモノアリ故ニ其順序ヲ經ルニ於テハ請願スル  
 ノ權利ハ充分日本臣民ニ於テアルモノトス

第三十一條

本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權  
 ノ施行ヲ妨クル事ナシ

「註」本條ハ本章タル臣民ノ權利義務ハ變更アルヤ否ヲ定メラレタルモノナリ  
 本章ニ掲ケタル臣民ノ權利義務ノ條項ハ總テ假令戰時ナリ又ハ國家ニ事變ノアル場合ニ於テ  
 モ 天皇陛下ノ大權ヲ施行シ玉フ上ニ就テハ決シテ少シモ妨ケチ與ヘス即チ妨クル事ナクシ  
 テ變ルモノテハアラサルナリ之レ勿論ノ事ニシテ假令國家事變アリ又ハ戰時タリトモ兵役、  
 納税ノ義務ヲ免ルヘカラス言論結社ノ自由ヲ法律ノ範圍外ニマテ及ホスヘガラズ信教自由ナ  
 リト雖モ決シテ第二十八條ノ要件ハ守ラサル可カラサルモノトス

第三十二條

本章ニ掲ケタル條項ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セサルモノ  
 ニ限り軍人ニ準行ス

「註」本條ハ本章ノ各條項ハ軍人ニ準行スルヤ否ヲ定メラル  
 陸海軍々人ノ守ルヘキ法令又ハ規律ハ實ニ常人ノモノトハ異ナリ軍人ハ軍紀ヲ嚴正ニスルノ  
 主意ヨリ出ルチ以テナリ故ニ其軍人ニノミ守ルヘキ法令又ハ規律ニ抵觸セサルモノニ限り軍  
 人ニ準行ハル、モノナリ蓋シ軍人モ亦日本臣民ナレハナリ

第三章 帝國議會

第三十三條

帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス  
 「註」本章ハ帝國議會ノ成立組織、議會ノ權限、開閉、議決等ヲ規定セラル、モノナリ  
 帝國議會ハ左ノ二院ヨリ成立ス

一 貴族院

二 衆議院



一 貴族院トハ第三十四條ニ示サレタル人々ヨリ組織シタルモノニシテ貴族院令ニ於テ詳解スルカ如キモ其大畧ハ皇族、公侯爵、伯子男爵各同爵中ヨリ選舉セラレタルモノ、國家ニ勳勞アリ又ハ學識アルモノヨリ特ニ勅任セラレタルモノ、各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ就キ多額ノ直接國稅ヲ納ムルモノ、内ヨリ一人ヲ互撰シテ勅任セラレタルモノ等ヲ以テ組織セラル

二 衆議院ハ第三十五條ニ於テ示セルカ如キ議員ヲ以テ之ヲ組織ス

尙ホ詳悉スルハ兩條ニ於テ之ヲ讓ル

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及ヒ勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

〔註〕本條ハ貴族院ノ組織ヲ示サル

貴族院ノ組織ハ左ノ方々ヲ以テ成立ツモノトス

一 皇族

二 華族

三 勅任セラレタル議員

而シテ尙ホ詳細ナルコトハ貴族院令ニアリト雖モ其第二ナル華族トハ公侯爵、伯子男爵各同

爵中ヨリ選舉セラレタルモノ

勅任議員トハ二種アリテ一ハ國家ニ勳勞アリ又ハ學識アルモノヨリ特ニ勅任セラレタルモノ

一ハ各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ就キ多額ノ直接國稅ヲ納ムルモノ、内ヨリ一人ヲ互撰

シテ勅任セラレタルモノ

以上ノ方々ヨリ組織シタルモノニシテ其詳悉ハ勅令第十一號ノ貴族院令ニ於テ解クヘシ就テ

知ラレヨ

第三十五條 衆議院ハ撰舉法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

〔註〕本條ハ衆議院ノ議員ヲ以テ組織スルヲ示サル

衆議院ハ公撰シタル議員ヲ以テ組織ス其撰舉法タルヤ法律第三號ヲ以テ衆議院撰舉法ヲ定メ

ラレタルヲ以テ同法ノ解釋ニ依リ明瞭ヲ知ラル、可シト雖モ其畧ハ

一 撰舉人ノ資格ハ左ノ如シ

イ 日本臣民ノ男子ニシテ年齢滿二十五歳以上ノモノ

ロ 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣内ニ本籍ヲ定メ住居シ猶引續キ住居ス



ルモノ

ハ 前同斷ニテ直接國稅十五圓以上ヲ納メ猶引續キ納ムルモノ

所得稅ニ就テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三ヶ年以上之ヲ納メ引續キ納ムルモノニ限  
ル

二 被選舉人ノ資格ハ左ノ如シ

イ 日本臣民ノ男子滿三十歲以上ノモノ

ロ 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納  
メ引續キ納ムルモノ

所得稅ハ滿三年以上納メ續テ納ムルモノ

而シテ宮内官、裁判官、會計檢査官、收稅官、警察官ハ被撰人タル事ヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其職務ニ妨ケアラサル限りハ議員ヲ兼スル事ヲ得

華族當主ハ衆議院議員ノ撰舉權及ヒ被撰人タル事ヲ得ス

以上ノ大畧ニシテ尙詳細ハ該法ニ依リテ知ラルヘシ

### 第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タル事ヲ得ス

〔註〕本條ハ一人ニシテ兩議院ノ議員トナルヲ得サル旨ヲ定メラル

貴族院衆議院ハ第四十四條ノ如ク開會、閉會、延會、停會等同時ニ之ヲ行ハル、モノニシテ常ニ  
離レテ故ニ一人ニシテ兩院ノ議員ヲ兼スルコトヲ得サルノミナラス場合ニヨリ兩院ノ異見反  
對スル時ノ如キアルニ際セハ甚ダ不都合ナルヲ以テ兩院ノ議員タル事ヲ得スト規定セラレタ  
リ

若シ一時ニ兩院ノ議員ニ撰舉セラレタルトキハ之レ本條ノ明文ニ背キタルモノナレハ當然無  
効ナリトス

### 第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

〔註〕本條ハ法律ノ帝國議會ヲ經ルヲ示サレタリ

凡テ大日本ノ法律トシテ公布ナルヘキモノハ皆帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス  
協賛トハ協議、賛成スルノ注意ナルヘシ而シテ次條タル第三十八條ニ於テ法律案ヲ議決スル  
トアルハ本條ノ此法律ト同一ノ法律ナル可シ蓋シ一ハ協賛ト云ヒ一ハ議決ト云フ別ニ之レカ  
ラズ

區別アルカ如シ猶次條ノ註解ヲ參看ス可シ

### 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及ヒ各法律案ヲ提出ス



ル事ヲ得

〔註〕本條ハ兩議院ノ議決權及ヒ法律案提出權アルコトヲ示ス  
 兩議院ハ法律ノ協賛ヲ經ル處ナレハ政府ノ提出スル法律案之レヲ議決スルノ權利アリトス其  
 議事ヲ開クハ總議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議決スルコトヲ得ス其議事モ過半數ヲ  
 以テ決シ可否同數ハ其決スルノ權ハ議長ニアリ  
 又政府ハ既ニ提出シタル議案ハ何時タリトモ修正シ又ハ之ヲ撤回スル事ヲ得  
 又議員ノ修正ヲ爲サントセハ二十人以上ノ賛成アルヲ要ス  
 以上皆議院法ニアリトス其詳細ハ同法ニ讓ルモノトス  
 又各議院ハ法律案ヲ提出スル事ヲ得可シ

本條ニ之レカ議決ノ文字アリテ第三十七條及ヒ第五條ニ於テハ協賛ノ文字アリ蓋シ此區別ア  
 ルハ 天皇陛下ヨリ兩議院ニ對セ玉ヘル場合ニ有テハ之レカ協賛ト云フナル可シ何トナレハ  
 天皇陛下ハ兩議院ノ議決ヲ求メ玉ヘル事少シモ無ク第五條ニ於テハ單ニ協賛ヲ以テ立法權ヲ  
 行ハサセ玉ヘルモノナリ而シテ兩院ニ於テハ一旦其議院ノ手ニ入りタル上ハ充分之レヲ討議  
 シ其院ノ議決ヲ爲シ之レヲ上奏スルモノニシテ第二十八條以下各條項中議決ノ文字ハ議院ニ

於テ唱フヘキ言詞ナリト解スルヲ以テ判然區別ヲ立ツモノトス故ニ一言セハ協賛トハ 天皇  
 陛下ノ勅語ニシテ議決トハ兩議院ノ言語ナリト解スヘシ

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出  
 スルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ提出シタル議案ノ否決シタルキノ場合ヲ示サル  
 法律案ヲ議スルハ常ニ兩議院ヲ經ルモノナルコトハ第三十七條ニ於テ明瞭タリ而シテ第三十八  
 條ニ於テ政府ノ提出シタル法律案及ヒ各院ノ法律案ニシテ之ヲ提出シタルキ一ノ議院ニ於テ  
 否決シタルキハ同會期中ニ於テ再ヒ之レヲ提出スルコトヲ得サラシム例ハ此會期中ニ或ル條  
 例ヲ政府ヨリ提出シタルニ際シ衆議院ハ之ヲ可決シテ貴族院ハ之レヲ否決シタリトセンニ此  
 場合ニ於テハ貴族院ノ否決シタル彼ノ或ル條例ハ其會期中再ヒ之レヲ政府ヨリ貴族院ニ提出  
 スルコトヲ得ス何トナレハ之レ一度兩院中ニ於テ否決シタルモノハ此期ニ於テハ兩院到底一致  
 可決スル事ナシトシ且ツ之レカ可決ヲ得ントナレハ數度出スモ際限ナキニ依ル可シ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付キ各其意見ヲ政府ニ建議スル事

而シテ同會期中トアルヲ以テ次會ニ之レヲ提出スルハ何ノ妨ケカ之レアララン



ヲ得但其採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スル事ヲ得ス

〔註〕本條ハ建議スルコトヲ得ヘキコトヲ定メラル

兩議院ハ法律其他ノ事件ニ付各其意見ヲ政府ニ建議スル事ヲ得可シ之レ法律上其他ノ事件ニ付臣民ノ爲メ又ハ公益ノ爲メ必要ト見認ムルトキノ如キハ之レヲ爲スコトアル可シ

而シテ此建議ヲ勸議ヲ爲スハ三十人以上ノ賛成ヲ得テ議題トナシ而シテ建議ヲ爲スモノトス其建議ヲ採納セラレサルトキハ同會期中再ヒ建議ヲ爲スコトヲ得サルモノトス之レ前第三十

九條ト同一ノ意ニアリトス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

〔註〕本條ハ議會ヲ召集スルノ期ヲ定メラル、モノトス

天皇陛下ハ帝國議會ヲ召集シ玉フ事ハ第七條ニアリテ本條ハ其期ヲ定メサセ玉ヒテ毎年之レヲ召集シ玉フモノトス而シテ其召集ノ勸諭ハ集會ノ期日ヲ定メラレ少クモ四十日前コ之レ

ヲ發布シ玉フ之レ各議員ニ於テ準備スル東京マテ出掛ルトノ日限猶豫アルヲ以テナリ

第四十二條 帝國議會ハ三個月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ

以テ之ヲ延長スル事アル可シ

〔註〕本條ハ帝國議會ノ期ヲ定メラル

帝國議會ハ毎年之レヲ開カセ玉ヒテ其會期ハ三個月ヲ以テ短期トセラル併シナカラ議ス可キ事件夥多ニシテ又ハ事件少ナキモ日時遷延シ三箇月ヲ以テ終了スルノ見込ナク必要ト認メ玉

フ場合ニ於テハ勅命ヲ以テ其會期ヲ延長シ玉フ事アルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集ス可シ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

〔註〕本條ハ臨時會ヲ召集シ玉フ場合ヲ示サル

臨時會ナルモノハ緊急ノ必要アル場合ニアラサレハ召集シ玉ハス又臨時會ハ常會ノ外ニ召集シ玉フモノナレハ其事件ノアルニ際リ開會スルヲ以テ其會期ノ如キモ勅命ヲ以テ定メサセ玉

フ

又假令緊急ノ必要ナル場合ニ於テモ第八條ノ如ク法律ニ代ユルヘキ勅命ヲ一時發シ玉ヒテ臨

時會ヲ開カセ玉ハサル場合モアルヘシト想像シ奉ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ之レヲ行

フヘシ



衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ貴族院ハ同時ニ停會セラル可シ

〔註〕本條ハ兩院ノ分離セサル事ヲ定メラル

帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヨリ成立スルモノニテ常ニ其開會、閉會、會期ノ延長及ヒ停會モ亦同時ニ之レヲ行ヒ玉フ可シ之レ議スル事件同一ニシテ常ニ兩院ノ議決ヲ必要トスルヲ以テノ故ナル可シ第七條第三十九條第四十條第四十一條ニ依リテモ明了ナリ  
衆議院ノ解散ヲ命セラル、ハ第七條ノ明記シ玉フ處ニシテ此場合ニ於テノ貴族院ハ同時ニ停會セラル可シ何ントナレハ本條ニハ同時ニ開閉延長停會ヲ行ハセ玉フモノナレハ一方ノ衆議院之レカ解散セラルレハ一方ノ貴族院之レカ獨立スル事ナキヲ以テノ故ナリ

第四十五條

衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之レヲ召集スヘシ

〔註〕本條ハ衆議院ノ解散シタル後ノ手續ヲ定メラル

衆議院ノ解散ヲ命セラル、ハ勅命ニシテ第七條ニ明文アリ其解散ノ勅命ノ降リタル時ハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ玉ヒ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之レヲ召集シ玉ヒ兩議院更ニ議事ヲ開カセ玉フモノトス其改選ノ方法手續ハ選舉法ニアルヲ以テ同法ニ就テ知ラルヘシ

第四十六條

兩議院ハ各其總議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナス事ヲ得ス

〔註〕本條ハ議事ヲ開キ議決ヲナス事ヲ得サル場合ヲ定メラル

兩議院ハ各其總議員ノ數三分ノ一以上ノ出席アラサレハ議事ヲ開カレズ從テ議決ヲナス事ヲ得サルモノナリ

故ニ兩議院共ニ三分ノ一以上ノ議員出席アルヲ要ス何ントナレハ兩議院中一ノ議院開カサルトキハ一方之ヲ開クモ其効ナキカ如シ而シテ又議事ヲ開キ議決ヲナス事ヲ得サルモノニシテ議決ヲナサレハ議事ヲ開クモ差支ナキカト云フニ議事ヲ開クモ差支ナキカ如シト雖モ議決ヲナス事ヲ得サレハ議事ヲ開クモ其効ナキカ如シ殊ニ次條ニ於テハ過半數ノ議決トナスノモノナレハ到底議事ヲ開カサルニ優ルモノナリトス

第四十七條

兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル

〔註〕本條ハ議事ノ決法ヲ定メラル

兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ據ルト之レ會議法ノ定



則ナリ而シテ過半数トハ出席議員ノ過半数カ又ハ總議員ノ過半数カト云フニ本條明文ナキモ出席議員ノ過半数ナル可シ何ントナレハ第四十六條ニ於テ總議員三分ノ一以上出席アレハ議事ヲ開キ議決ヲナス事ヲ得ルノ規定ナリ然レハ總議員總出席ヲ要セサルナリ故ニ出席ナキ議員ヲシテ過半数ノ計算ニ入ルノ道理ナケレハ三分ノ一以上ノ出席員アル場合ニ於テハ其出席員ノ過半数ヲ以テ決スルヲ得ヘシ假令ハ衆議院議員百五十人トシ三分ノ一以上ナル六十人出席シアルトキハ其過半数三十人以上ノ同意アルトキハ可否何レニナリトモ決スルヲ得ルノ法ナリトス

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會トナス事ヲ得

〔註〕本條ハ會議ハ公開ナリト定メ其例外ヲモ定メラル、ナリ  
兩議院ノ會議ハ公開ナリ實ニ我政府ノ法律ヲ議スルヲ傍聽スルノ聖代ニ遭遇セリ故ニ遠方ノモノハ新聞紙其他ニ依リ帝國議會ノ傍聽筆記ヲ讀ムヲ得テ實ニ歡ヒ極マリナシ  
然レトモ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ據リ秘密會トナス事ヲ得ルハ蓋シ事件ノ事柄ニ之レ據ルナル可シ之レ又又公益ヲ謀リ安寧ヲ維持スル爲メニ必要ナル可シ

政府ノ要求アルトキハ必ス秘密會トセサルヘカラスカ明文ニ依リテ解スルトキハ「得」トアリテ命令法タル「可シ」ニアラサレハ假令政府要求スルモ其院ニ於テ秘密會ヲ必要トセサルトキハ之レカ要求ヲ用ヒサルコトアル可シト考フ

第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スル事ヲ得

〔註〕本條ハ兩議院ノ上奏スルヲ得ヘキヲ定メラル  
各議院ノ上奏セントスルニハ三十人以上ノ賛成ヲ以テ議題トナシ議シタルノ後文書ヲ以テ奉呈スルカ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スル事ヲ得ルモノトス  
故ニ上奏ハ必ラス三十人以上ノ賛成アリテ一ノ議題トナラサルヘカラス又必ス文書ナラサルヘカラス

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルヲ得

〔註〕本條ハ兩議院ハ請願書ヲ受理スルヲ定メラル  
臣民タルモノハ相當ノ敬禮ヲ守リタル時ニ於テ別段ノ規定ニ依リ請願スルノ權アリトスルハ第三十條ニ規定セラレタリ本條ニ於テハ尙ホ其別段ノ規定ヲ守リ敬禮ヲ守リテ請願書ヲ呈出スルトキハ兩議院ハ之レヲ受クルヲ得ヘシ又事件ニ依リ賛成ヲ得ハ一ノ議題トナルヲアル



可シ(議院法第六十二條以下ヲ見ヨ)

第五十一條 兩議院ハ此憲法及ヒ議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムル事ヲ得

〔註〕本條ハ諸規則ヲ定ムルコトヲ議院ニ與ヘラレタルモノナリ

兩議院ニ於テハ此憲法及ヒ議院法ニ掲ケアルモノヲ除クノ外ニ於テ内部即チ議院ノ整理上ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得ヘシ之レ議事整頓及ハ諸般取締法ヲ設クルハ必要ナレハ此必要ハ一々勅令ヲ俟タズ其院限リテ定ムルコトヲ許セリ

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フ事ナシ但議員自カラ其言論ヲ演説刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタル時ハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

〔註〕本條ハ院内議事上發言シタル事ハ責任ヲ負ハサルコトヲ定メラル

議員ハ議事中心ニ在テハ充分意見ヲ陳述シ飽クマテモ自己ノ主義ヲ擴張セシメテ謀ル故ニ或ハ集會條例ニ違反スルノ言語アリ又ハ常ニ發言ヲ禁シタル事柄ヲモ發言スル勢ヒアリ又ハ黨派上表決ニ付大ニ異ナルコトアル可シ然レトモ之レ其事件ヲ議スルニ際リテ勢ヒ止ムヲ得サル

ニ出テタルモノナレハ議事中ニ在テハ之レヲ問ハス院外ニ於テ其責ヲ負フ事ナシトス然レトモ其議員自カラ其言論ヲ演説シ刊行シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ世ニ公布シタルトキハ一般ノ法律ノアルアリ一々其法律ニ依テ處分ヲ受クルハ當然トス

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除クノ外會期中其院ノ許諾ヲクシテ逮捕セラル、事ナシ

〔註〕本條ハ議員ノ會期中逮捕セラル、場合ヲ示サレタリ

議員ハ其會期中ハ其院ニ束縛ヲ受ケ其會期中ノ議事ヲ終ラサル以上ハ自由ノ身体ニハアラヌ且ヤ議員ハ勅任セラレ又ハ地方ノ公選ヲ得テ出席シタルモノニシテ重任者ナリ故ニ其議員ノ事ニ付テハ其院皆之レヲ處辨スルモノナリ即チ會期中犯罪者トシテ逮捕シ來ルモ其院ノ許諾ヲ必要トス然シテ其犯罪現行犯又ハ内亂外患ニ關ル罪ハ之レカ許諾ヲ必要トセス之レ現行犯ハ現ニ罪ヲ犯シタルモノナレハ之レヲ逮捕セサル時ハ大ナル弊害アリテ會期中議員罪ヲ犯スモ現ニ目撃シナカラ之レヲ遁スニ至リ議員ハ會期中罪ヲ犯スモ自由ナリトノ不都合ヲ來ス又内亂外患罪ノ如キハ國事犯罪ナレハ其議場ニアルヘカラサルノ性質アル犯罪ニ付之レハ例外トセリ



第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及ヒ發言スル事ヲ得

〔註〕本條ハ議院ニ出席シ發言スルヲ得ヘキ方ヲ示サレタリ  
國務大臣トハ即チ各省大臣ニシテ第五十五條ニアル大臣ナリ其國務大臣及ヒ政府委員ハ何時  
ニテモ各議院ニ出席シ及ヒ發言スルノ權アリトス何トナレハ大臣ナリ委員ハ執行者ニシテ常  
ニ法律勅令等ニ就テ其責任アリ且ツヤ兩院ニ對シテハ辨明スルノ責任アルモノナレハ自由ニ  
何時ニテモ出席シテ發言シ又ハ發言スルヲナキモ出席スルヲ得ヘシ其公開ト秘密會トハ之  
ヲ問ハサルカ如シ  
政府ノ委員トハ内閣總理大臣ノ命ヲ受ケテ答辨又ハ説明スルノ委員ナリトス

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

凡テ法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副書ヲ要ス

〔註〕本條ハ國務大臣ノ責任ヲ定メラル  
國務各大臣ハ 天皇陛下ヲ輔弼シ奉リテ其責ニ任スルモノトス故ニ政治上ノ利害得失ニ付テ

ハ國務大臣ハ 天皇陛下ニ對シ奉リテ責任アリ茲ヲ以テ法律勅令其他國務ニ與ル詔勅ハ國務  
大臣ノ副書ヲ要シテ責任アルコトヲ常ニ示スモノトス而シテ國務大臣ニ下ノ各ノ字ナキハ其  
關係スル大臣副書スルヲ以テ之レナキナリ

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要  
ノ國務ヲ審議ス

〔註〕本條ハ樞密顧問ノ職務ヲ示ス  
樞密顧問ハ其職務タル樞密院官制ノ定ムル所ニ依リテ 天皇陛下ノ御諮詢ニ奉答シ且重要ノ  
國務ヲ審議スルノ職務タリ  
本條ニ依リテ見レハ樞密院ハ 天皇陛下ノ御諮詢ニ答ヘ奉ル爲メ設ケ置ル、カ如シ然シテ其  
院ノ議長モ亦樞密顧問ノ中ニ包含スルモノナル可シ即チ樞密院ハ憲法ノ外ニアリテ其實務ヲ  
云ヘハ政府ノ法律ヲ立案シ又ハ政府ヨリノ法律案ヲ審議スル所ナルカ如シ樞密院官制ニテハ  
職務ニ種々アルカ如キモ單ニ概シテ謂フトキハ本條ノ如ク 天皇陛下ノ御諮詢ニ奉答シ重要  
ノ國務ヲ審議スル所トス

第五章 司法



「註」本章ハ行政權ノ一部タル司法權ノ事ヲ定メラレタルモノトス

第五十七條 司法權ハ天皇ノ各ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ  
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

「註」本條ハ司法權ハ何レカ行フヘキヤヲ定メラル

司法權ハ行政權ノ一部ニシテ之レヲ行政權ト同一ノ人ニ委セスシテ獨立シタル裁判所ニ於テ之ヲ行ハシメ全ク行政權ヨリ分離セシメタルモノナリ而シテ之ヲ行フヤ 天皇陛下ノ御名ニ於テ法律ニ依ルモノトス其御名ノ事ニ付テハ第十七條既ニ之レヲ解ケリ故ニ同條ヲ參觀ス可シ

裁判所ノ構成ハ別段ノ法律ヲ以テ之ヲ定メ憲法上之ヲ載セズ蓋シ時世ノ變遷ニ從ヒ時ニ變更スルヲアレハナリ

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フルモノヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラル、事ナシ  
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

「註」本條ハ裁判官ノ資格及ヒ終身官タルヲ示ス

裁判官ハ法律ニ定メラレタル資格ヲ具フルモノニアラサレハ之レニ任セラレサルナリ此法律トハ高等官試験規則又ハ官制ニ於テ其科目又ハ要件ヲ示サレタルモノヲ云フ

裁判官ハ刑法ノ宣告ヲ受クルカ又ハ懲戒處分ニ由ルカノ外裁判官タルノ職ヲ免セラル、事ナシ蓋シ裁判官ハ不羈獨立ナラサル可カラヌ何ントナレハ黨派ノ爲メ又ハ職務ノ轉免ノ爲メ自己ノ意ニ反シ又ハ法律ノ條項ニ背キ裁判スルヲアリテハ實ニ司法權ヲ擴張スルヲ能ハサルノミナラス大日本帝國ノ威嚴ヲ傷ケ甚シキニ至リテハ曲直正邪ヲ曲クルニアリ故ニ裁判官ハ終身官トシテ何人モ故ナシ其職ヲ免ルスヲ得サラシメテ其位置ヲ保タシメ法律ニ從ヒ曲直正邪ヲ判別シ司法權ヲ發達セシムルニアリトス

懲戒ノ條規ハ是亦特ニ法律ヲ以テ之レヲ定ム現今尙ホ此條規ナシ更ニ定マルヲ俟テ罷シ可シ

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞

アル時ハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムル事ヲ得

「註」本條ハ裁判ハ公開スルノ原則ヲ示サレタリ

裁判ハ其事件ノ民事刑事事ヲ問ハズ審判判決ハ之ヲ公開スルハ現行法ニ於テ別ニ異ナルコトナシ尤トモ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルモノハ法律上即チ治罪法上之レヲ公開セズ又裁



判所ノ決議ヲ以テ之レヲ停止ムル事是亦現行法ト異ナルコトナシ  
而シテ其公開ヲ停止ムルヤ只單ニ對審ニ止マリ判決ニ至リテハ公開ヲ停止セズ是亦現行法ニ於  
テ判決言渡ハ公開ヲ禁スル事件ト雖トモ公開シテ之ヲ言渡スモノトス到底本條ノ原則ハ皆現  
行法ト異ナルコトナシトス

即チ民事刑事ニ付公聽ヲ許スノ法文ハ左ノ如シ

明治八年二月二十二日第三十號布告

民事訴訟審判ノ義人民一般傍聽差許候條此旨布告候事

但男女ノ間ニ起リシ風儀ニ關スル訴訟ハ此限ニアラス

治罪法第二百六十二條

重罪輕罪違警罪ノ訊問辨論及ヒ裁判言渡ハ之ヲ公行ス否ヲサルトキハ其言渡ノ效ナカル可シ

同第二百六十四條

被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ涉リ風俗ヲ害スル恐アル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因

リ又ハ職權ヲ以テ其訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スルヲ得其裁判言渡ヲ爲スニ當テハ傍聽ヲ許

ス可シ

### 第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔註〕本條ハ特別裁判所ノ場合ヲ示サレタリ

憲法上記載セラレタル司法裁判所ノ外ニ特別裁判所アリ彼ノ陸海軍裁判所ノ如キ商法裁判所

ノ如キモノトス右等ノ特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別段ノ法律ヲ以テ之レヲ定メラル

蓋シ司法裁判所ノ如キハ人民一般ニ及フヘキモノニシテ他ノ特別ナル裁判所ハ其特別ナル人

種ニノミ適用スルモノナレハ之レカ別段ノ法律ニ讓ルモノトス

### 第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ障害セラレタリトスルノ訴訟

ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁

判所ニ於テ受理スルノ限ニアラス

〔註〕本條ハ行政裁判所ト司法裁判所トノ管轄スヘキ場合ヲ區別シタリ

行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ行政官廳ノ違法處分ニ據リ權利ヲ障害セラレタリトスル

訴訟ニシテ此等ノ管轄、權限等ハ皆別段ノ法律ヲ以テ定メラレタリ彼ノ今日ニ在テハ市制町

村制ニ於テ双方又ハ人民トノ間ニ於テ權利ノ消長ニ關スル場合ニ在テ府縣參事會ノ裁決ニ不

服アル所之レカ行政裁判所ニ出訴スルカ如シ其詳密ナルコトハ余カ著シタル市町村制釋義ニ



就テ知ラル可シ

而シテ行政裁判所ハ未ダ開設ナシ故ニ市町村制ニ在テハ其職務ハ内閣ニ於テ之レヲ行ハル蓋  
シ内閣ハ行政官廳ノ總轄スル所ナレハナリ  
以上ノ如ク別段ノ法律ヲ以テ行政裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ハ司法裁判所ノ管理スル處ニ  
アラサレハ決シテ受理スルノ權ナシ若シ受理スルトキハ之レ越權ノ處分ニシテ其裁判ハ無効  
ナルコト勿論ナリ

併シナカラ今日現行ノ法ニ在テハ未ダ行政裁判所ノ設ケナシ市町村制ニ就テハ内閣之ヲ行ハ  
ル、モ其制法外ノモノハ今尙ホ司法裁判所ニ於テ之ヲ受ケ司法大臣ノ許可ヲ得テ受理シ審理  
ノ後内閣ノ裁可ヲ經テ司法裁判所ニ於テ裁判ヲ爲スノ例ナリト知ル可シ

### 第六章 會計

「註」本章ハ會計ノ事ヲ記載セラレタリ會計トハ租稅徵收法ヨリ國家ノ歲入出ニ至ルマテ

帝國議會ノ協賛ヲ求メ玉フ等ヲ列記セラレタリ

### 第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及ヒ稅率ヲ變更スルニハ法律ヲ以テ之ヲ定ム可

但報償ニ屬スル行政上ノ手数料及ヒ其他ノ收納金ハ前項ノ限ニアラス  
國債ヲ起シ及ヒ豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ  
爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

「註」本條ハ新規ニ租稅ヲ課シ稅率ヲ變更スル時ノ場合ト國債ヲ起ストキノ場合ヲ示サレタリ  
新規ニ租稅ヲ課セラレ又ハ現行ノ稅率ニ變更ヲ生セシメラル、ニ於テハ法律ヲ以テ之レヲ定  
メラル例令ヘハ現今租稅ヲ課セサル營業又ハ所得或ハ行爲ニ付テ租稅ヲ課スルカ如ク又ハ現  
行地租ノ二分五厘ヲ變更スルカ如ク所得稅ノ等級ヲ改ムルカ如ク酒造稅ノ石ニ付其稅高ヲ變  
更スルカ如キ等ハ皆法律ヲ以テ定メラル故ニ法律ハ第三十七條ニ依リテ總テ帝國議會ノ協賛  
ヲ經玉ヒ帝國議會ハ第三十八條ニ依リ議決ヲ爲シ 天皇陛下ハ第六條ニ依リ裁可シ及ヒ公布  
執行ヲ勅命シ玉フモノトス

而シテ報償ニ屬スル行政上ノ手数料其他ノ收納金ハ法律ヲ以テ之レヲ定メラレシテ行政上  
ノ處分ヲ以テ新規ニ之レヲ徵收セラル之レ蓋シ一部ノ行政上執行命令ヲ爲スニ於テノ徵收金  
ニシテ決シテ租稅トナルヘキモノニハアラサルナリ故ニ法律ヲ以テ之レヲ定メテ隨テ帝國議  
會ノ議決ヲ爲スヲ要セサルモノナリ



國債ヲ起シ及ヒ豫算ニ定メタルモノヲ除クノ外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス等此二個ノ  
 場合ニアリテハ帝國議會ノ協賛ヲ經玉フ可シ蓋シ特ニ此項ニ於テ明記セラレタルモノハ國債  
 ナ起スノ如キ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ノ如キハ之レカ法律トナルヘキモノニアラサレハ總  
 テ帝國議會ノ協賛ヲ經ルトノ外ニアルヲ以テ之レカ疑ヲ解ク爲メ更ニ此二個ト雖モ矢張帝國  
 議會ノ協賛ヲ經ル旨ヲ定メ玉ヒシナリ  
 豫算ニ定メタルモノハ如何ナルヤノ疑アリ蓋シ豫算ニ定メタルモノハ第六十四條ニ明記アル  
 カ如ク無論帝國議會ノ協賛ヲ經ルモノトス尙ホ同條ニ於テ之ヲ説ク

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

〔註〕本條ハ現行ノ租稅徵收方ヲ示サレタリ

現行法ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限リハ假令帝國議會ノ實施アルモ敢テ變ルコト  
 ナク依然トシテ舊法ノ如ク即チ現今ノ如ク徵收セラレ可シ假令ハ賣藥營業稅ハ一方ノ藥劑  
 ニ付金貳圓ノ稅金ナルキハ明治二十三年ノ後帝國議會ノ行ハレタルト雖モ矢張現行ノ如ク  
 方ニ付金貳圓ニシテ敢テ異ナルコトナシトス

更ニ法律ヲ以テ云々トハ第六十二條ノ法律ト同一ノモノニシテ到底第六十二條ノ法律ヲ以テ  
 變更セサル限リハ舊法ノ如ク徵收スルト云フニ過キサルモノトス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アル時ハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

〔註〕本條ハ歲出歲入ノ豫算ヲ帝國議會ニ付スルコトヲ定メタル、ナリ

國家ノ歲入トハ租稅及ヒ諸手續料其他總テ國家ニ納ムル處ノ諸金額ニシテ歲出トハ各官廳ノ  
 經費ヨリ俸給事業ノ仕拂等一切政府ヨリ支出スル處ノ諸金額ヲ云フ其ノ歲出歲入ハ毎年豫算  
 チ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經玉フ之レ蓋シ歲入歲出モ其原因ハ臣民ヨリ納ムル處ノ稅金ヨリ起  
 ルモノナレハ帝國議會ハ之レヲ視テ其不足ヲ生スルトキハ新規ニ租稅ヲ課セサル可カラサル  
 ノ必要ヲ生シ過上ヲ生スルトキハ國家安寧休戚ヲ計ル爲メ常ニ國庫ニ準備セサルヘカラサル  
 ノ必要ヲ生スレハナリ

若シ豫算ノ款項ニ超過シテ其年支出シ又ハ豫算ノ外ニ支出スルノ必要ヲ生シタルトキハ臨時  
 夫レカ爲メニ帝國議會ヲ召集セラル、カ又ハ次會ノ召集ニ當リテ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ



要セラルナリ之レ其支出タル帝國議會ノ協賛後ニ係ルモノナレハナリ  
承諾トハ既ニ支出シタル額ナルヲ以テ帝國議會ニ承諾ヲ求ルノミニテ敢テ彼是議スルコトナシ  
以上帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セサルトキハ第七十一條ニ依リ政府ハ前年度ノ豫算ヲ以テ施行セラル

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

〔註〕本條ハ豫算ハ衆議院ニ提出セラル、コトヲ定メラル、ナリ  
帝國議會トハ貴族院、衆議院ノ兩院ヨリ成立スルコトハ前既ニ屢々之レヲ解ケリ即チ第六十四條ニアル帝國議會ニ豫算ヲ差出サル、ハ兩院ニ差出サレテ議定セシメラル、モノナルコト明瞭タリ而シテ本條特ニ前ニ衆議院ニ提出スルハ蓋シ國家ノ財政ヲ知シムルニ外ナラス何ントナレハ衆議院ハ各府縣ノ撰舉人ノ公撰ヲ以テ差出サレタル代議士ヲ以テ組織セラレタルモノナレハ人民ノ代表者ナリ故ニ前ニ之レカ人民ニ財政ヲ議セシムルカ爲メナリトス其他ノ案ハ兩院或ハ前トナリ或ハ後トナル可キコトアリトス

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

〔註〕本條ハ皇室經費ノ事ヲ定メラル、ナリ  
皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之レヲ支出シ玉ヒ將來増額ヲ要スル場合ヲ除クノ外ハ決シテ帝國議會ノ協賛ヲ要シ玉ハサルハ勿論ナリトス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ケル規定ノ歳出及ヒ法律ノ結果ニ因リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スル事ヲ得ス

〔註〕本條ハ歳出ノ議定スルニ當リ帝國議會ニ制限ヲ設ケラレタルモノトス  
帝國議會ハ左ノ場合ニ於テハ政府ノ同意ナクシテ之レヲ廢除シ又ハ削減スルノ權ナキモノトス  
大何ントナレハ政府ノ關係責任タル歳出ナレハ之レヲ彼是スルニ於テハ到底政權ヲ充分ニ行フコトヲ得サルハ勿論、國家ノ爲メ臣民ノ爲メ幸福ヲ増進シ公益ヲ保持スルコト能ハサルニ之レ據ルモノトス

- 第一 憲法上ノ大權ニ基ケル規定ノ歳出
- 第二 法律ノ結果ニ依ル歳出
- 第三 法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出



以上中第二ノ如キハ假令ハ監獄費ノ如キ其他法律ノ結果ヨリ生スル費用ニシテ歳出トナル  
モノ第二ノ如キハ假令ハ公債年金恩給金ノ如キ歳出其他政府ノ義務ニ屬スル總テノ歳出ト  
云フヘシ

第六十八條 特別ノ須要ニ由リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會  
ノ協賛ヲ求ムル事ヲ得

〔註〕本條ハ繼續費ノ事ヲ定メラレタリ

政府ニ於テ特別ノ須要ニ由リ豫メ年限ヲ定メテ繼續費トシ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトアル  
可シ

其特別ノ須要トハ如何ナル事カ余ハ之レカ今豫言スルコト能ハサルナリトス

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メニ又ハ豫算ノ外ニ生シタ  
ル必要ノ費用ニ充ル爲メニ豫備費ヲ設クヘシ

〔註〕本條ハ豫備費ノ事ヲ定メラレタリ

前條ハ繼續費ノ事ヲ規定シタルモノニシテ本條ハ豫備費ノ事ヲ定ム蓋シ豫備費ヲ設ケラル  
ハ左ノ場合ニアリト知ル可シ

第一 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メ

第二 豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ル爲メ

而シテ右第二ノ場合ハ第六十四條ニアル豫算ノ外ニ生シタル支出アル云々ノ場合ト同一ニシ  
テ本條ノ豫備費ハ必ラス之レヲ設ケ置クヘキモノトス  
避クヘカラサル云々豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用云々ノ如キ種々アリテ今ヨリ豫言シ能ハ  
サルモ或ハ流行病ノ爲メニ俄カニ衛生費ヲ國庫ヨリ支辨スルカ如ク或ハ萬國ニ於テ會議俄ニ  
起リ使節ヲ遣ハサレサルヘカラサル費ノ如キ又ハ一揆ヲ起シ鎮定スルノ費ヲ生シタルカ如キ  
場合モ亦本條ニ包含スルト考フナリ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形  
ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スル事能ハサル時ハ勅令ニ依リ財政上必要ノ

處分ヲナス事ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要  
ス

〔註〕本條ハ緊急ノ場合ニ於テ財政上ノ處分ヲ爲スヘキ時ノ場合ヲ定メラレタリ



天皇陛下ハ公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ必要アル場合ニ亘リテハ帝國議會閉會ノ時ニ當  
 レハ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發シ玉フコトアルヘキハ第八條ニ明記アル處ナリ而シテ斯ノ如キ  
 場合ニ於テ政府ハ財政上ニ大ニ影響ヲ及ボスモノナリ何ントナレハ其緊急ノ需用アルトキハ  
 之レカ臨機應變ノ處分ヲ爲サ、レハ勅令ト對比スルコト能ハス勅令ヲ空シクスルノ恐レアレハ  
 ナリ故ニ政府ニ於テモ此場合ニ於テハ内外ノ情形ニ因リ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲ス  
 コトヲ得ルモノトス尤トモ此時ニ於テモ帝國議會ノ召集スルコト能ハサル時ニアリトス  
 右ノ如キ處置ヲ爲シタルトキハ政府ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シテ處分シタルコトノ承  
 諾ヲ求ムルヲ要ス而シテ此承諾ト云ヘルコトハ既ニ第六十四條ニ於テ陳述シタルカ如キヲ以テ  
 再説セズ

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラサル時ハ政  
 府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

〔註〕本條ハ帝國議會ノ豫算ヲ議定セサル時ヲ定メラレタリ  
 帝國議會ハ國家ノ歳出入ノ豫算ヲ議定スルモノナリ之ヲ議定セズ又ハ豫算ノ未ダ成立セサル  
 時ハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

豫算ヲ議定セストハ政府ヨリ豫算案ヲ提出スルモ之レヲ議定セサルモノヲ云フ或ハ常ニ議員  
 少數ニシテ會期中ニ議定セサルカ又ハ議院於テ政府ヲ信任シテ少シモ異論ナク豫算案ヲ満足  
 シテ議定セサルカ如キ事アルヘシ又豫算案ハ先ツ前ニ衆議院ニ提出シ其院ノ豫算委員於テ審  
 査シ議院ニ報告シ議定ノ上之レヲ貴族院ノ議ニ付スルノ順序ナルニ審査セズシテ未ダ豫算ノ  
 成立セサル時ノ場合ノ如キコトアル可シ尙ホ其事ハ議院法第四十條第四十一條ニアリトス同條  
 ニ付テ之ヲ知ラル可シ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其檢  
 査報告ト具ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ  
 會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔註〕本條ハ決算ノ事ヲ定メラル  
 國家ノ歳出歳入ノ豫算ヲ爲シ又其決算ヲ爲スハ所謂始アリテ終リアルモノニシテ決算ハ豫算  
 ヨリ來ル處ノ手續ナリ而シテ之レヲ豫算案ヲ作りタルモノニ任シテ爲サシメ之レヲ確定トナ  
 サンカ所謂俗ニ自畫自讚ニシテ己レヨリ出テ、己レニ歸シ決シテ正當ナル處分ト云フヲ得ス  
 之レ必ス其豫算ヲ爲シタルモノ其決算シタルモノトノ以外ノ人ニ委シテ之ヲ検査セシメサル



ヘカラス是レ政府ノ別ニ會計検査院ヲ設ケテレ以テ本條ノ決算ヲ検査セシムル所以ナリ  
 會計検査院ハ其法律ニ定メタル職權ニ從ヒ國家ノ歳出歳入ヲ検査シ之レヲ確定シ政府ハ之ヲ  
 報告スルノ任アリトス  
 政府ハ其検査確定ヲ受ケ決算ト具ニ之ヲ帝國議會ニ提出シ之レヲ報告スルモノトス  
 其會計検査院ノ組織權限職務ハ別段ノ法律ニ之ヲ定メラル可シ

第七章 補則

〔註〕本條ハ憲法諸條項ニ補フ規則ヲ列記セラル、モノトス

第七十三條 將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アル時ハ勅命ヲ以テ議案ヲ  
 帝國議會ノ議ニ付スヘシ  
 此場合ニ於テ兩議院ハ各其總員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ  
 開ク事ヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ改正ノ議決  
 ナラス事ヲ得ス

〔註〕本條ハ憲法ノ條項中ヲ改正スル場合ヲ示サレタリ  
 將來此憲法ノ條項ヲ改正セラル、ノ必要アル場合ニ於テハ 天皇陛下ハ勅命ヲ降シ玉ヒテ其

改正ノ議案ヲ帝國議會ニ下付シ玉ヒ以テ議會ハ左ノ規定ニ從ヒ議決スルモノトス

第一 憲法中條項ノ改正ノ議案ハ兩議院各其總議員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事  
 ナ開ク事ヲ得サルモノトス

第二 議事ヲ開クト雖モ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ改正ノ議決ヲ爲ス  
 コトヲ得ス

斯ノ如ク實ニ憲法中ノ或ル條項ノ改正ヲ議決スルハ大切ナルモノニシテ鄭重ノ上ニ鄭重ヲ加  
 ヘ以テ議決スルノ外決シテ紛更ヲ試ミルコトヲ得ヘカテサルモノナリトス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス  
 皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スル事ヲ得ス

〔註〕本條ハ皇室典範ト憲法トハ別ナルコトヲ示サレタリ

皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セサルモノナリ何ントナレハ皇室典範ハ皇室ノ事  
 ナ明記シ玉フモノニシテ帝國議會ノ議スヘキモノニアラス與ルヘキモノニアラストス又皇室  
 典範ト憲法トハ之レ別種ノモノニシテ緒言ニモ一言シタルカ如ク其性質大ニ異ナルモノナレ  
 ハ相互ニ條規ヲ變更スル事ヲ得サルハ勿論ナリトス



第七十五條

憲法及ヒ皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スル事ヲ得ス

〔註〕本條ハ兩法ノ攝政ヲ設ケラレタル場合ヲ定メラレタリ

攝政ヲ置カル、ハ 天皇陛下御幼冲ノ場合ニ於テ然ルカ如シ之レ既ニ第十七條ニ一言解キタ

ルカ如シ而シテ攝政ヲ置カル、間ハ 天皇陛下ノ御名ニ於テ大權ヲ行フニ過キサレハ憲法及

ヒ皇室典範ハ之ヲ變更スル事ヲ得ス蓋シ此兩法ノ變更ハ第七十三條ノ如ク 天皇陛下ノ勅命

ヲ以テ議會ニ付セラル、モノナレハ御幼冲ナル 天皇陛下親ヲ勅命ヲ降シ玉ハサルヲ以テノ

故ナル可シ

第七十六條

法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヒタルニ拘ラス此憲法ニ矛盾

セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

〔註〕本條ハ憲法ト他ノ法規トノ關係ヲ示サレタリ

法律規則命令其他其名稱ノ何タルニモ拘ラス此憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効

力ヲ有スルモノニシテ決シテ新ラタニ法令ヲ發セラルモノニハアラサルナリ何ントナレハ皆

政府ヨリ發セラレタルモノナレハナリ現今ニ在テハ法令ノ名稱種々アリテ法律、勅命、閣命、

省令、訓令、達、告示、内訓等ノ別アリ然レトモ憲法ト矛盾セサレハ皆効力アルモノナリ

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令假令ハ外債ノ如キ又ハ年々若干圓ノ補助金ヲ

下付スルカ如キ命令ノ類ハ第六十七條ノ例ニ依 政府ノ同意ナクシテ帝國議會ノ之ヲ廢除シ

又ハ削除スル事ヲ得サルモノトス



議院法目次

第一章	帝國議會ノ召集成立及開會	一
第二章	議長書記官及經費	五
第三章	議長副議長及議員歳費	十
第四章	委員	十
第五章	會議	十七
第六章	停會閉會	二十二
第七章	秘密會議	二十五
第八章	豫算案ノ議定	二十六
第九章	國務大臣及政府委員	二十七
第十章	質問	三十一
第十一章	上奏及建議	三十三
第十二章	兩議院關係	三十四
第十三章	請願	四十



第十四章	議院ト人民及官廳地方議會トノ關係	四十五丁
第十五章	退職及議員資格ノ異議	四十七丁
第十六章	請暇辭職及補欠	五十一丁
第十七章	紀律及警察	五十三丁
第十八章	懲罰	六十丁

○議院法

「註」議院法トハ憲法第三十三條以下ニ於テ規定シアル處ノ帝國議會ノ成立タル貴族院、衆議院ノ兩議院ニ付テノ規定ニシテ議會ノ召集ヨリ議長等ノ權限職務其他經費ヨリ兩議院ノ關係紀律警察、懲罰マテヲ規定シタルモノナリ

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

「註」本章ハ先ツ帝國議會ノ召集、成立、開會ヲ規定シタルモノニシテ帝國議會トハ憲法第三十三條ノ規定ノ如ク貴族院、衆議院ヲ合稱スルモノニシテ而シテ本法ハ重ニ衆議院ノ事ヲ記載ス蓋シ貴族院ノ事ハ別ニ貴族院令ノアルヲ以テナリ

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布ス可シ

「註」本條ハ帝國議會召集ノ勅諭ヲ發セラル、期ヲ定メタルモノナリ  
天皇陛下ハ帝國議會ヲ召集シ玉フハ憲法第七條ノ明定スル處ニシテ議會ハ每年之ヲ召集シ

玉フハ同法第四十一條ノ規定スル處ナリ  
而シテ本條ニ於テハ其召集シ玉フ勅諭ハ集會スルノ期日ヲ定メ玉ヒテ其期日ヨリ少クトモ



二 四十日前ニ之レヲ發布シ玉フ蓋シ兩議院ノ議員カ次條ノ如ク期日ニ集會スルノ準備ヲ爲サ  
ルヘカラサルナレハ此日數ノ猶豫アルモノトス

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會ス可

〔註〕本條ハ議員ノ集會スヘキ場所ヲ示サレタリ

議員ハ第一條ノ勅諭ヲ奉シテ指定シ玉ヒタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スルモノナリ

各議院トハ貴族院、衆議院ニシテ貴族院議員ハ貴族院ニ衆議院議員ハ衆議院ニ會スルモノナ  
リトス

斯ノ如ク同一ニ兩議院ノ議員ノ集會スヘキハ原來兩議院ハ分離スヘカラサルモノニシテ同時

ニ開閉スルルハ憲法第四十四條ノ明文アルヲ以テ常ニ召集モ同一ナリトス

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其  
中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラル。マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

〔註〕本條ハ衆議院ノ議長副議長ノ選舉任命ヲ定メラレタルモノナリ

衆議院ノ議長副議長ハ其衆議院ノ議員中ヨリ各三名ノ候補者ヲ選舉シ各三名ノ中ヨリ議長一  
名副議長一名ヲ勅任シ玉フモノナリ故ニ其議長副議長ハ勅任ニシテ總テ其官等相當ノ取扱ヲ  
受ケルモノナリ

議長副議長ノ勅任セラル。マテハ書記官長其議長ノ職務ヲ行フモノナリ書記官長ノ事ニ付テ  
ハ第十六條ニ於テ説クヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中  
ニ於テ互選スヘシ

〔註〕本條ハ議員ノ部長ヲ定ムルコトヲ示サル

各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部ニ部長一名ヲ置キ其部長ハ其部員中ニ於テ  
互ヒニ選舉スルモノナリ

其部數ハ數部アリテ其數ノ定メナケレハ各議院ノ適宜ニ之レヲ定ムルヲ得ヘシ假令百五十  
名アリテ十部ニ分割セハ一部十五名ニシテ其中一名ノ部長アルカ如シ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ  
貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フ



「註」本條ハ兩議院ノ開院式ヲ行ハセ玉フヲ定メラルナリ

兩議院ノ成立ハ如何ナル要件ヲ必要トスルカヲ知ラサルヘカラス兩議院ノ成立シタルト云フヲ得ヘキ場合ハ左ノ事柄ヲ完了セサルヘカラス

第一 議長副議長ノ勅任アルコト

第二 議院ヲ數部ニ分割シテ每部ニ部長ヲ互撰スルコト

以上ヲ備ハリタルヲ以テ議院成立シタルト云フヲ得ヘシ

而シテ兩議院成立シタルノ後帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ハ貴族院ニ會合シ開院式ヲ行ハセ玉フ蓋ン皆勅命ヲ以テ之レヲ爲サ、ルモノトス

故ニ議院ノ會堂ニ集會シタルヤ直チニ開院式ニ至ラスシテ先ツ兩議院ヲ成立シタル後此式ヲ行ハセ玉フモノナリトス

### 第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

「註」本條ハ開院式ヲ行フトキノ議長ヲ定メラレタリ

開院式ノ節議長ノ職務ヲ行フモノハ貴族院ノ議長ナリトス夫レ貴族院ノ議長ハ貴族院令ニ規定シ玉ヒシ如ク高位ノ方々ニシテ常ニ該院ハ衆議院ノ上級ニ位スルモノナレハ兩議院會合ス

ルトキハ貴族院ノ議長ハ兩議院合併シタル上ノ議長ノ職務ヲ行ハセラル、ハ至當ノ事ナリトス

本法ニ於テ貴族院ノ議長其他該院成立ノ事ヲ規定シアラサルハ蓋シ貴族院令ヲ以テノ故ナリトス

### 第二章 議長書記官及經費

「註」本章ハ議長書記官等ノ員數職務及ヒ經費支出方法ヲ示サルモノトス

### 第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

「註」本條ハ議長副議長ノ人員ヲ定メラレタリ

各議院ノ議長副議長ハ各一員ナリ蓋シ二人以上アルカ如キハ到底諸般ノ取締上兩立スルヲ以テ理ニ於テ各一員ナラサルヘカラス

### 第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

「註」本條ハ議長副議長ノ任期ヲ定メラル

議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ト同一ニシテ即チ撰擧法ニ依ルトキハ四個年ナリトス

而シテ貴族院ハ議長副議長ハ貴族院令ニ依ルヘキモノニシテ茲ニハ關係ナキモノナリトス



又四ヶ年ノ任期モ次條ニ依リテ又制限アリト知ルヘシ

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其他ノ事故ニ由リ關位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍ホ前任者ノ任期ニ依ル

〔註〕本條ハ繼任者ノ任期ヲ定メラル、モノトス

衆議院ノ議長副議長ノ中辭職シタルモノアルカ又ハ其他事故即チ或ハ議員ノ資格ヲ失ヒタルカ又ハ死亡等ニ依リ關位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍ホ前任者ノ任期ト同一ニシテ四箇年ナリトス而シテ其起算ハ前任者ノ議長又ハ副議長ニ勅任セラレシ時ヨリ數フヘキナリ故ニ例令ヘハ茲ニ議長ノ勅任ヲ拜シ二年目ニ至リテ病死セリトセンカ繼任者ハ殘リノ二年ヲ勤ムルモノト知ルヘシ

第十條 各議院ノ議長ハ其議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

〔註〕本條ハ議長ノ職務ヲ示シタルモノナリ

各議院ノ議長ハ其議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シテハ其議院ヲ代表シ責任アリト云フ可シ即チ議長ノ爲シタル事柄及ヒ爲サ、ル事柄ハ議院ノ行爲不行爲ナリト云フヘシ

而シテ其院ヲ整理スル爲メ内部ノ必要ナル諸規則ハ院ニ向テ之ヲ定ムルコトヲ得可シ之レ憲法第五十一條ノ規定ナル所ナリトス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其議院ノ事務ヲ指揮ス

〔註〕本條モ亦議長ノ職務ヲ示シタリ

議長ハ議會ノ開會中ノミナラス閉會中ニ於テモ仍ホ其議院ノ事務ヲ指揮セサルヘカラス何ソトナレハ開會前ニ在テハ準備ヲ爲サ、ルヘカラス閉會後ニ在テハ終了ノ事務ヲ結局セサルヘカラス

第十二條 議長ハ常任委員會及ヒ特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但表決ノ數ニ預カラス

〔註〕本條モ亦議長ノ職權ノ一ナリトス

常任委員又ハ特別委員ト云フモノハ第二十條以下ニアリテ會議ヲ開クコトアリ之レ第二十二條ニアルカ如シ議長ハ其席ニ臨ミ發言スルノ權アリトス之レ議長ハ衆議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理スルノ權アレハ其議院中ニ於テ成立タル委員會ニ於テ發言スル何ソ妨ケアラン併シ表決ノ數ニ加フルコトハ能ハス蓋シ其委員ニアラサレハ其議事ヲ決スルニ於テハ局外ナルモ



第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

〔註〕本條ハ議長故障アルトキヲ示サレタリ  
議長差支チ生シ故障アリタルトキハ副議長之レカ代理スルハ當然タリ

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

〔註〕本條ハ議長副議長俱ニ故障アルトキヲ示サレタリ  
議長副議長俱ニ故障アルトキハ各議院ニ於テハ假議長ヲ選任ス併シ假議長ハ一時ノ補ヒニシテ純然タル議長ニアラサレハ別段勅命アルニアラス勅任アルニアラス只法律上ニ於テ議長ノ職務ヲ行ハシムルモノナリ故ニ假議長トナルヤ議長ト同シ第十條以下ノ職務ヲ行フノ權ヲ有スルモノトス

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルマテハ仍ホ其ノ職務ヲ繼續スヘシ

〔註〕本條ハ議長副議長ノ期限ノ後ノ職務ニ付テ規定セラレタリ  
各議院ノ議長副議長殊ニ衆議院ノ議長副議長ハ其任期ハ四箇年ニシテ滿限ニ達スルモノナリ尤トモ滿限ニ際シテ議院ハ候補者ヲ以テ後任者ノ勅任ヲ請フト雖モ或ハ其滿限ニ達スルヤ否ヤ後任者ノ勅任セラル、ト云フ都合ニ爲ラサル場合ナシトセス此時ニ際リテ前任者ハ滿限ニ達シタリトテ職務ヲ執ラサルニ於テハ事務ノ滯滞ヲ來シ或ハ秩序ヲ保持スルヲ能ハス議事ヲ整理スルヲ難シ故ニ法律上後任者ノ勅任セラル、マテハ矢張其職務ヲ繼續スヘキヲ命セラレタリ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク  
書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

〔註〕本條ハ書記官ヲ置クヲ示サレタリ  
書記官ヲ置クノ必要ハ第十七條ノ職務ヲナサシムルノ爲メナリ而シテ官等ハ書記官長ハ勅任ニシテ書記官ハ奏任トシ數人ヲ置カルモノナリ

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス  
書記官ハ議事録及其他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

先 書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス



〔註〕本條ハ書記官長書記官ノ職務ヲ規定セラレ、ナリ  
書記官長ノ職務ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名スルモノナリトス又書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ之ヲ任ス

書記官ノ職務ハ議院ニ於テ議事ヲ爲シタル筆記即チ議事録及ヒ其他種々ノ文案ヲ作り事務ヲ掌理スルモノトス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

〔註〕本條ハ經費ノ事ヲ示サル、ナリ  
兩議院ノ經費ハ國庫ノ支出トス即チ各官廳ト同一ノ資格ナリトス

第三章 議長副議長及議員歳費

〔註〕本章ハ議院ノ議長及議員ノ歳費旅費等ノ事ヲ定メラレタリ

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス  
議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

〔註〕本條ハ歳費旅費手當等ヲ規定セラレタル法條ナリ

第一項 各議院ニハ二級ノ歳費アリトス左ノ如シ

- 一 議長 四千圓
- 二 副議長 二千圓
- 三 被選及勅任議員公撰議長 八百圓

其他別段ニ定メタル所ノ旅費ヲ受クルモノナリ而シテ此歳費ハ即チ一歳ノ費用トシテ示サレタルモノナレハ先ツ會期ハ三個月ニシテ召集セラレタル日ヨリト閉會後歸郷スルマテノ日ト

チ合シテ先ツ五個月分ヲ得ルノ筈ナルヘキカ然ラハ三種ヲ十二分シテ其五個ヲ得ルノ算當ニシテ月額ニスレハ左ノ如シ

第一ノ分ハ 三百三十三圓三十三錢三厘半

第二ノ分ハ 百六十六圓六十六錢六厘半



第三ノ分ハ 六十六圓六十六錢六厘非

而シテ召集ニ應セサルモノハ之レヲ受クルコトヲ得サルハ當然ニシテ到底議會ニ出席シ居ル間ノ日當手當ト同一ノモノニシテ出席セサレハ之レヲ得ル能ハス故ニ俸給トセスシテ歳費トシ且官吏ト區別シテ其名目ヲ異ニス

第二項 歳費ヲ辭スルコトヲ得サルノ理ハ何レニアルカ蓋シ歳費トシテ國庫ヨリ支出シ豫算ヲ以テ歳入歳出ヲ定メ又議院ノ議員ハ名譽員ニアラサレハ故ナク之レヲ辭スルノ理ナク或ハ考フルニ得ヘキ歳費ヲ辭シテ歳入ニ影響ヲ生セシメント謀ルカ如キ場合アラサルヤ到底歳費トシテ政府ヨリ受ク收テ辭スルノ理ナシトス

第三項 官吏ハ別ニ官吏ノ職務ニ於テ相當ノ俸給ヲ政府ヨリ受クルヲ以テ別ニ歳費ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第四項 議院閉會ノ後ニ於テ委員タルモノ事務ヲ繼續シタルトキハ手當ヲ受クルハ當然トス元來開會中ニ於テハ單ニ議スルノミニ就テ第一項ノ歳費ヲ受ク假令閉會ノ後議事ナシト雖トモ議員ハ開會中ノモノナレハ閉會後ハ自己ノ事業ヲ爲スモノナリ左レハ之レヲシテ繼續シテ調査等ヲ爲サシムルニ於テハ本項ノ手當ヲ受ク又決シテ不當ニハアラサルナリ

第四章 委員

〔註〕本章ハ委員ノ類別及ヒ職務議會等ヲ規定セラレタリ

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及ヒ特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲メ

ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其任ニ在ルモノト

ス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノ

トス

〔註〕本條ハ委員ノ種類ト組織ヲ定メラレタリ

第一項 各議院ノ委員ハ三類アリ左ノ通りトス

第一 全院委員

第二 常任委員

第三 特別委員



而シテ第一ノ全院委員ハ第二項ニ於テ其組織ヲ解キ第二ノ常任委員ハ第三項ニ第三ノ特別委員ハ第四項ニ各其組織ヲ解ケリ

第二項 本項ニハ全院委員ハ其議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトセリ而シテ其職務ハ第二十八條ノ政府ヨリ提出シタル議案ヲ審査スルモノトス

第三項 本項ニハ常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲メニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其任ニ在ルモノトセリ而シテ之レハ職務上解クトキハ茲ニ政府ヨリ提出シタル議案ニ付審査スルニ際リ全院委員會ニテハ錯雜ヲ生シ纏マラサルヨリ各負擔ヲ定メテ其議案ヲ數科ニ分テ各々審査セシムルカ爲メニ第四條ニアル各部ニ於テ皆同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ其負擔ノ科ハ皆同數ノ委員又各部モ同數ノ委員ヲ出シテ審査セシメルニアリ而シテ一會期中ハ其人々ハ常任委員トナリテ其他ノ事務ヲ擔當スルニアリトス

第三項 本項ニハ特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲メ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付托シテ第二十八條ノ議案ヲ審査セシムルモノトス

以上ヲ以テ見レハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ審査スルニ際リ全院ニ於テ審査スルト、各部ヨ

リ同數ノ委員ヲ出シテ負擔ノ科ヲ分テ審査スルト、單ニ一事件ヲ審査スル爲メ僅少ナル人々ニ付托スルトノ三種ナリトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期毎ニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス  
常任委員長及ヒ特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互撰ス

〔註〕本條ハ前條ノ委員中ニ於テ委員長ヲ撰ムコトヲ定メラレタリ

全院委員長ハ一會期毎ニ開會ノ始ニ於テ之レヲ選舉シ置クモノトス

常任委員長及ヒ特別委員長ハ各其委員會ヲ開クトキニ於テ互ヒニ撰ミテ定ム

以上其委員長ヲ定ムルハ蓋シ議事審査ノ整理ヲ計ル爲メニアリトス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及ヒ特別委員會ハ其委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

〔註〕本條ハ委員會ヲ開クヘキ場合ヲ示ス

全院委員會ハ議院ノ議員三分ノ一以上ノ出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得スシテ其外ノ常任委員會特別委員會ニ在テハ其委員カ半數以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得サルナリ



右ノ差異アルハ蓋シ全院委員會ニ於テハ多人數ニシテ他ノ二會ノ如キハ少人數ノミナラズ其議事タルヤ煩雜ナルモノ多シ何トナレハ煩雜ナレハコソ常任委員會ニ負擔セシメ特別委員會ニ付托スルナリ故ニ半數以上ト三分ノ一以上トノ差異アリト考フ

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

〔註〕本條ハ委員會ノ傍聽ヲ禁スル場合ヲ示サレタリ

元來委員會ヲ爲スヤ議會ヲ爲サ、ルニ先チ審査スルニアレハ議員ノ外傍聽ヲ禁スルハ當然ナリトス然レトモ事件ノ模様ニ依リ議員ト雖モ傍聽ヲ禁スルコトヲ得ルモノトス

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

〔註〕本條ハ委員長ノ職務ヲ規定シタルモノナリ

各委員長トハ全院委員長、常任委員長、特別委員長ニシテ各委員長ハ各委員會ノ經過即チ會議ノ手續及ヒ結果即チ如何ニ議決シタルカヲ議院ニ報告スルモノトス之レ素ヨリ議院ヨリ負擔ヲ定メラレ又ハ付托セラレテ審査ヲ爲シタルモノナレハ勿論ナル譯ナリトス

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

〔註〕本條ハ閉會ノ間ニ在テ審査スル場合ヲ示セリ

各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得ヘキモノナリ而シテ委員ハ閉會後ニ在テモ斯ノ如ク審査ヲ爲シタルヲ以テ第十九條ノ末項ニ於テ一日五圓ヨリ多カラサルノ手當ヲ受クルハ勿論ナリトス又繼續トアルヲ以テ場合ニ於テハ到底開會中ニ行フコト能ハサルコトアル可シ故ニ閉會ノ間之レヲ繼續シテ審査スルコト、スルモノナリ

### 第五章 會議

〔註〕本章ハ各議院ノ會議方法ヲ規定セラレタリ

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス  
議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

〔註〕本條ハ議事ノ日割ヲ定メラレタルモノナリ

議事ノ日程ハ議長於テ之ヲ定メ議院ニ報告スルモノトス其議員ハ議事ニ取掛ルニ就テ皆覺悟



ヲ爲スナ以テノ故ナリ且ヤ順序ニ於テ最モ關係アルモノトス  
 議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先キニスルモノトス之レ其主タルモノニシテ其開會タル政府ノ法律ヲ議スルニアレハナリ而シテ後チ或ハ動議起リテ議題トナリタルモノヲ議スルヲ以テ順序ナリト大然レトモ政府ヨリ提出セラレタル議案ノ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テハ其事ヲ政府ニ申シ同意ヲ得テ先後ニ爲スナ得ヘシ若シ同意ヲ得サルトキハ無論前掲ノ如ク政府ノ議案ヨリ議事ニ取掛ルモノトス

**第二十七條** 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議院十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省畧スルコトヲ得

「註」本條ハ法律ノ議案ヲ議決ノ方法ヲ示サレタリ  
 政府ヨリ提出シタル議案ニシテ法律ニ關スルモノハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スルモノナリ即チ三會討論シタル上ニテ確定ニ決議トス故ニ假令ハ第一讀會ニ於テハ可決トシ第二讀會ニ於テハ之レヲ否決トシ第三讀會ニ於テ之レヲ可決セハ之レ確定議ニシテ議院ノ議決トシテ可トス若シ第三讀會ニ於テ否決セハ之レ確定議ニシテ法律ノ議案ハ議院之レヲ否決セリト云フ

類トス

右ノ場合ハ之レ通常ノ時ニシテ此二讀會ヲ省畧シテ一讀會又ハ一讀會ニテ確定議ト爲スコトアル可シ即チ左ノ場合ニアリトス

第一 政府ノ要求

第二 議員十人以上ノ要求

以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ該議案ヲ可決シタルトキハ之レ議員三分ノ二以上ノ多數同意ニシテ其議案可決トナリタルカ如キハ假令三讀會ヲ經ルモ同一ニシテ又之レカ變更ナキノミナス又手數ノ煩チ省カンカ爲メナレハ決シテ不當ノ處置ニハアラサルナリ況ンヤ政府之ヲ要求シ議員十名以上ノ要求アルニ於テチヤ

**第二十八條** 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此限ニ在ラス

「註」本條ハ議案ノ議事ニ取掛ル以前ノ手續ヲ示サレタリ  
 政府ヨリ提出セラレタル議案ハ其法律ニ係ルト否トチ問ハス委員ノ審査ヲ先ツ經ルモノトス其委員ノ審査トハ第二十條ノ如ク三委員會ノ中ニ於テ審査スルモノナリ



右ノ審査終リテ後其委員會ノ經過及結果ノ報告ヲ受ケ議院ハ更ニ第一讀會ヨリ順次ヲ逐フテ  
議事ニ取掛リ議決スルモノトス

若シ右ノ手續ヲ經サル時ハ議決ノ効ナシ之レ本條ニ於テ議決スルコトヲ得ストノ禁令アル所  
以ナリ

然レトモ事、緊急ノ場合ニ在テ政府ヨリ特ニ委員會ノ審査ヲ要ス直ニ議事ニ掛ルヘキ旨ノ  
要求アルトキハ直ニ議決ニ取掛ルヘシ

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ  
發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題トナスコトヲ得ス

〔註〕本條ハ議題ト爲スヘキ場合ヲ示サレタリ

凡テ議員ヨリ議案ヲ發議シ及ヒ議院ニ於テ會議ヲ爲ス議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ  
二十人以上ノ賛成アルニアラサレハ議題ト爲スコトヲ得サルモノナリ之レ發議ナリ修正ノ動  
議ニシテ少數ノ人員ヨリ發言セシメ以テ議題トナスニ於テハ議事ノ整理ニ關シ煩雜ヲ來シ又  
ハ爲メニ議事ヲ淹滯ヲ生スル等ノ爲メ賛成員二十人以上アルニアラサレハ一場ノ議題トナサ  
シメサルモノトス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコ  
トヲ得

〔註〕本條ハ一旦提出シタル議案ハ修正又ハ撤回スルコトヲ得ヘキヤ否ヲ示サレタリ  
議案ノ政府ヨリ發セラレタルモノハ其何レノ時ヲ論セズ修正ヲ爲シ又ハ撤回スルコトヲ得ル  
ハ勿論ナリ何トナレハ原來政府ヨリ提出シタルモノナレハ政府之レヲ修正シ又ハ撤回スルモ  
亦自由ナリト云フヘシ若シ之レヲシテ一旦提出シタルモノハ之レヲ修正スルコトヲ得サレシ  
メハ議會ノ議事ハ無効ニ屬シ徒法トナリ却テ害トナルコトアリ又若シ撤回スルコトヲ得サレ  
シメハ必要ナキ議案ヲ貴重ナル議院ニ於テ議スルノ不都合ヲ生ス蓋シ本條ハ必要ナル條文タ  
リ

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シ  
テ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルト  
キハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

〔註〕本條ハ議決ノ上奏ヲ爲スヘキ手續ヲ示サレタリ



第一項 政府ヨリ提出セラレタル法律ノ議案其他ノ議案ハ貴族院、衆議院ノ議決ニ付スヘキ  
モノニシテ其付スルヤ其先後ハ散テ之ヲ決定メス事柄ニ依リ先後アル可シ之レ第五十二條ノ如シ  
故ニ其議事ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ上奏スルモノナリトス其  
方法ハ第五十一條ニ於テ之レヲ定メラル

第二項 兩議院ノ一議院ニ於テ提出シタル議案ニシテ一方ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ  
第五十四條第二項ノ規定ニ依リ即チ一方ノ提出シタル議院ト通知スルマテニシテ上奏スヘキ  
モノニハアラサルナリ尙ホ同條ニ於テ之ヲ詳密ニ解ク可シ

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セララル、モノハ  
次ノ會期マテニ公布セララルヘシ

〔註〕本條ハ議案ノ公布セララル、事ヲ定メラル

第三十一條ニ依リ兩議院ノ議決ヲ經テ之ヲ奏上シ 天皇陛下ハ憲法第六條ニ依リ裁可シ玉フ  
トキハ次ノ會期マテニ公布シ玉フ可シ之レ議院ノ議決シタル議案ハ何時公布シ玉フヤ否チ知  
ラシムルノ爲メトス

### 第六章 停會閉會

〔註〕本章ハ議院ノ停會閉會ノ事ヲ定メラレタリ

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ノ命スルコト  
ヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

〔註〕本條ハ停會ヲ命スル場合ヲ示ス且議事ヲ繼續スル場合ヲ規定セララル、ナリ

政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得ヘシ此日限ヲ規定アルハ諸準  
備ノ爲メニ此猶豫アリトス此停會ハ憲法第四十四條ノ一方解散ヲ命セラレタル場合トハ相異  
ナリトス

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ハ其儘繼續スルモノナリ何ントナレハ議事上  
此停會ハ妨害ヲ與フルモノニアラサルカ故ナリ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條  
第二項ノ例ニ依ラス

〔註〕本條ハ憲法第四十四條第二項ノ場合ヲ示サレタリ

衆議院ノ解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ニ停會ヲ命セララル、ハ之レ憲法第四十四條ノ如ク



開會ハ同時ニ之ヲ行フヨリ其閉會ニ於テモ亦同一ニシテ常ニ兩議院ノ分離セサルモノナレハ本條ノ如ク一議院ノ解散セル場合ニ在テハ貴族院ニ停會ヲ命セサルヘカラス其場合ニ於テハ第三十三條第二項ノ如ク前會ノ議事ヲ繼續スルコトナシ之レ前條ハ政府ノ都合上停會ヲ命シタル場合ニ適用スルモノナリトス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス

但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

〔註〕本條ハ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノ、處分ヲ示サレタリ

第二十五條ノ委員ノ審査中ニ係ル議案ヲ除クノ外ハ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ之ヲ繼續セズ即チ未ダ委員ノ審査ヲ經サルモノ、如キハ一例ナリ

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

〔註〕本條ハ閉會ノ舉行ヲ爲スヘキ時ヲ示サレタリ

議院ノ開會ハ第五條ノ如ク兩院議員會合シテ開院式ヲ行ハセ玉フコトヲ示サレタリ閉會ニ於テモ亦合會シテ閉會ヲ舉行シ玉フモノトス

第七章 秘密會議

〔註〕本章ニハ憲法第四十八條ノ但書ノ場合ヲ規定セラレタリ

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

〔註〕本條ハ公開ヲ停止スル場合ヲ規定セラレタリ

憲法第四十八條但書ニ於テハ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會ヲナスコトヲ得ヘキ旨ヲ定メラレタリ

本條ハ右ノ法條ヲ適用スヘキモノニシテ此條ノ二個トモ憲法ニ示サルモノ就中其院ノ決議云々トハ本條第一ノ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シ秘密會議トスルモノナリ蓋シ其方法ハ次條ニ之ヲ示シタレハ同條ニ讓ル

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討議ヲ用弗スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

〔註〕本條ハ秘密會議ヲ可決スルノ方法ナリトス



議長ナリ又ハ議員中十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ直ニ議長ハ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用非スシテ先ツ秘密會議ノ可否ヲ決スルモノトス蓋シ討論セサルハ原來秘密ニ爲スヘキ議事ナレハ之レヲ討論スルトキハ勢ヒ其議事ニ迄及フヲ以テ秘密トナラサル場合ニ至ルニ依リ只單ニ其可否ヲ決スルニ止マルモノトス

若シ否決數多數ナルトキハ更ニ傍聽人ヲ入場セシメテ議事ヲ繼續スルモノナリトス

### 第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

註、會議ノ議事ハ其發言演說等ヲ刊行スルモノナレトモ秘密會議ハ之ヲ刊行スルコトヲ許サルハ勿論ナリ會議ヲ秘密ニシテ其議事ヲ刊行スルトモハ秘密ニ爲シタルノ効ナシトス

## 第八章 豫算案ノ議定

「註」本章ハ憲法第六十四條以下ノ豫算案ヲ議定スルコトヲ定メラル

### 第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取りタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

「註」本條ハ豫算案ヲ審査スル事ヲ定メラル

豫算案ハ憲法第六十五條ノ如ク政府ハ前ニ先ツ衆議院ニ提出スルモノナリ故ニ衆議院ハ豫算

委員ニ付シ審査セシメ以テ議事ニ取掛ルモノトス其期限ハ豫算委員ハ衆議院ノ政府ヨリ受取りタル日ヨリ起算シ十五日以内ニ審査ヲ終ラサルヘカラス若シ此期ナキトキハ實際ナクシテ本會期ノ議決ヲ得ルコト難キノ患ヒアルカ故ナリ

豫算委員ハ審査ノ終リタル日ハ之レヲ議院ニ報告スルモノトス

### 第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

「註」本條ハ豫算案ニ付テノ動議アル場合ヲ示ス

本會議ニ於テ豫算案ヲ議スルニ當リ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニアラサレハ一ノ議題トシテ議院ニ於テ議スルコトヲ得ス蓋シ只財政ノ事ヲモ知ラス單ニ修正サヘ爲サハ然ルモノ、如キ誤アル者ナキニシモアラサレハ賛成者三十人以上ヲ以テセサレハ議題トスルヲ得サルノミ

第二十九條ニ於テハ二十人以上トアリ本條ニ於テハ三十八人以上トアリ之レ別ニ理アルニアラ

ズ財政上ノ議ヲ貴スルカ爲メナルヘシ

## 第九章 國務大臣及政府委員



〔註〕本章ハ大臣及ヒ政府委員ノ議院ニ對シテノ事ヲ規定セラル、モノトス

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ國務大臣及委員ノ發言スル場合ヲ示ス

國務大臣及政府委員ハ國政上之レカ責任アリ故ニ議院ニ於テハ發言ハ其何レノ時ヲモ問ハス之レヲ許サ、ルヘカラス收テ公開ト秘密會トヲ問ハサルナリ又委員會ト議會トヲモ問ハサルモノナリ然レトモ他ノ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得サルハ勿論ナリ假令國務大臣及ヒ政府委員ト雖モ議員ノ演說中ハ發言スルコトヲ得ス若シ之レカ發言ヲ爲サハ議長ハ之レヲ制スルノ權利アリトス故ニ議員ノ演說ノ終リタル後ニ於テ發言スルモノトス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

〔註〕本條ハ委員會ニ於テ意見ヲ述フル場合ヲ示セリ

本條モ前條ト同一ニシテ如何ナル時ヲ問ハス委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルモノナリ

第二十三條ノ委員會ニ傍聽ヲ禁スル場合ニ於テモ敢テ差支ナシトス

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

〔註〕本條ハ委員會ヨリ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得ル旨ヲ定メテレタルモノナリ併シ議長ヲ經由セサルヘカラス之レ議長ハ院ノ代表者ニシテ總テ其院ハ其議長之ヲ整理スルヲ以テナリ

又國務大臣ノ說明ヲ長ムルコトヲ得ルヤ否ト云フニ國務大臣ハ其關係セル議案ニハ責任アリテ主任ナルカ如シト雖モ其議案ニ付テノ說明ハ常ニ政府委員之ヲ掌ルモノナレハ其說明ハ委員ノ他ニ求ムルノ人ナシトス若シ質問ヲ要スルトキハ第四十八條ニ從ヒ之ヲ質問セハ第四十九條ニ依リ大臣之レニ答辨スルコトアルヘシ

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

〔註〕本條ハ表決スル場合ニ於テ大臣及ヒ委員ヲ數中ニ入ル、ヤ否ト云フヲ定メタルモノナリ國務大臣及政府委員ハ其議案ノ可否ニ付利害ヲ有シ責任アルモノナリ故ニ大臣ハ時ニ發言ヲナシ時ニ意見ヲ陳ヘ委員ニ於テモ尙ホ同様ニシテ時ニ或ハ說明スルノ任アルモノナリ斯ノ如



キ方々カ會議ノ決ヲ取ル數中ニ加入スルカ如キハ公平タルモノニハアラス會議ハ過半數ヲ以テ議決スルモノナレハ一人ノ加フルニ於テ大ニ可否ニ關係ヲ及ホス故ニ只發言又ハ説明スルニ止マリ其表決ノ數ニハ預カラサルナリ然レトモ國務大臣及ヒ政府委員ニシテ議員ノ資格ヲ有シ即チ議員ナルトキハ無論表決ノ數ニ入ルモノトス之レ其場合ニ在テハ資格ハ議員ニアレハナリ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

〔註〕本條ハ委員會長ヨリ國務大臣及政府委員ニ開會ヲ報知スルヲ規定ス  
主任國務大臣及ヒ政府委員ハ第四十三條ノ如ク何時タリトモ出席シテ意見ヲ述フルノ權アルモノナリ故ニ委員會ヲ開クトキハ其會毎ニ其委員長ヨリ其ノ議スヘキ事柄ノ主任ノ國務大臣及ヒ政府委員ニ報知スルモノトス

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

〔註〕本條ハ議事ノ日程又ハ報告ノ配付方ヲ示サレタリ  
議事日程及ヒ議事ニ關ル報告ハ之ヲ議員ニ分配スルハ之レ議員ノ議事上必要ナルモノナリ之ト同時ニ國務大臣及ヒ政府委員ニ於テモ亦必要ナリ何ントナレハ時ニ依リ意見ヲ述ヘ發言ヲ爲サ、ルヘガラサル場合アレハナリ

第十章 質問

〔註〕本條ハ政府ニ對シ議員ノ質問ヲ要スルトキノ規定ナリトス

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス  
質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

〔註〕本條ハ政府ニ對シテ質問スル方法ヲ示セリ  
議員ノ政府ニ對シ議案上ニ付質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス之レ  
第四十一條ノ解説ト同シク漫リニ事ヲ好ムヲ制スルニアリ且自己ノ意多クノ人ノ是認スル處ナルカチ知ルニ於テ必要ナリ

質問ハ口頭ヲ以テスルヲ許サス必ラス主意書ヲ作り三十人以上ノ贊成者之レニ連署シ贊成ヲ



三 表シ之ヲ議長ニ提出ス之レ議長ハ其院ヲ統轄スルヲ以テノ故ナリ

第二十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ

又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

〔註〕本條ハ質問ノ答辯ヲナス場合ヲ示セリ

第四十八條ノ質問主意書ハ議長於テ取捨ノ權利ナク之レヲ政府ニ轉送セサルヘカラス

國務大臣ハ其主意書ハ直ニ答辯ヲ爲スヘキトキハ之ヲ爲シ又ハ答弁スヘキ期日ヲ定メテ之レ

ニ回答シ若シ答辯ヲ爲サ、ルトキハ其爲サ、ルノ理由ヲ示明シ回答ス故ニ國務大臣ハ必ラス

答辦ススキノ義務アルニハアテサルナリ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員

ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

〔註〕本條ハ質問ノ件ヲ動議トスル場合ヲ示ス

前第四十九條ノ如ク國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルキニ於テ議員ハ其質問ノ事件ニ付

建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ既ニ二十人以上ノ賛成アルヲ以テ尙ホ建議ノ動

議ノ賛成ヲ得サル可ラサルカ既ニ賛成シタルハ質問ヲ爲サントスルノ賛成者ニノ動議シタル

ノ賛成者ニアラサレハ尙ホ更ニ二十人以上ノ賛成者ヲ必要トス第五十二條ヲ參看セヨ

### 第十一章 上奏及建議

〔註〕本章ハ上奏建議ノ二箇ノ事ヲ示サレタリ

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代

トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

〔註〕本條ハ上奏スルコト及ヒ建議スルトキノ方法ヲ定メラレタリ

憲法第四十九條ニ於テハ兩議院ハ各 天皇陛下ニ對シ奉リ上奏スルコトヲ得ルノ明文アリ本

條其明文ニ基キ定メラレタル法文タリ

上奏ハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ總代トシテ 天皇陛下ニ謁見ヲ請ヒ文書ヲ奉呈スルコトヲ得

ルモノトス

又建議スルトキハ之レヲ政府ニ呈出スルモノトス

以上何レノ場合ヲ問ハス皆文書ヲ以テセサルヘカラス而シテ政府ヘハ建議スルコトヲ得ヘキモ

天皇陛下ニ對シ奉リテハ上奏スルノミニ區別アリトス混同スル勿レ



三第五十二條 各議員ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非  
サレハ議題ト爲スコトヲ得ヌ

〔註〕本條ハ上奏又ハ建議ノ動議ハ賛成者アルニアラサレハ議題トナシ議決スルヲ得ヌ其人  
數ハ三十人以上ナリトス

之レ第四十八條ニ於テモ述ヘタルカ如ク輕々ニ爲スヘキモノニハアラス二十八以上ノ同意賛  
成ヲ得サルヘカラス

第五十條ノ建議ノ動議ヲ爲スモ本條ニ依ルモノト思考ス

### 第十二章 兩議院關係

〔註〕本條ハ兩議院即チ貴族院ト衆議院トノ關係ヲ規定セラレタルモノトス

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスル  
モ便宜ニ依ル

〔註〕本條ハ政府ノ議案ヲ付スル先後ノ事ヲ定ム

政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レニ先ニ下付スルヤ又ハ後ニスルヤハ便宜ニ依リ豫シメ  
法律上ニ之ヲ定メラレサルナリ即チ政府ノ都合ト又ハ事件ノ模様ニモ依ルナルヘシ

併シナカラ豫算案ニ於テハ本條ノ例外ニシテ前ニ衆議院ニ付スルハ憲法第六十五條ノ規定ニ  
ル所ナレハナリ其理由ハ同條ニ就テ詳知スヘシ

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキ  
ハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタ  
ルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ  
乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通  
知スヘシ

〔註〕本條ハ兩議院ノ關係ヲ解クモノナリ

假令ヘハ政府法律ノ議案ヲ貴族院ニ下付シタルニ於テ貴族院ニ於テ其法律議案ヲ可ナリト決  
スルカ又ハ修正シテ議決シタルトキハ之レヲ衆議院ニ移スヘシ其衆議院ニ於テ貴族院ノ議決  
ニ同意シタルトキ又ハ之ニ不同意ニシテ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ貴族院ニ其  
通知ヲ爲ス可シ

五十三 以上ノ奏上スルノ理由ハ第三十一條ニアルカ如ク最後ニ議決シタルモノ即チ衆議院ヨリ奏上  
スルモノニシテ又其通知スルハ之レヲ知ラシムルカ爲メナリ



又貴族院ニ於テ政府ノ下付議案ニアラスシテ提出シタル議案ヲ衆議院ニ於テ否決シタルトキハ之ヲ貴族院ニ通知スルニ止マリ奏上ノ手續ヲ爲スニ及ハス之レ原來政府ヨリ發セラレタル議案ニアラサレハナリ

若シ貴族院ノ提出議案ヲ可決シタルトキハ衆議院ヨリ上奏スルモノトス之レ兩議院一致同意シタルモノナレハ之レ第三十二條ニ依ルヘキモノナレハナリ

第五十五條

乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

〔註〕本條ハ前第五十四條ノ場合ニ於テノ修正シタルトキノ方法ヲ示サレタリ

前條ノ例ノ如ク貴族院ヨリ移シタル可決案又ハ修正案ニ對シ衆議院ニ於テ之レヲ修正シタルトキ即チ可決シタルモノヲ修正シタルトキ又ハ修正シタルモノヲ尙ホ修正シタルトキハ雙方トモ可決トモ否決トモ一致セルモノナレハ之ヲ更ニ衆議院ヨリ貴族院ニ回付スヘシ

貴族院ニ於テハ回付ヲ受ケタル衆議院ノ修正ニ同意シタルトキハ初メニ雙方一致シタルモノナレハ貴族院ヨリハ之レヲ奏上シ同時ニ衆議院ニ其旨ヲ通知スルモノトス之ニ反シ貴族院ノ同意セサルトキハ雙方調和スル爲メニ兩院協議會ヲ開クコトヲ衆議院ニ求ムルモノトス

其求メラレタル衆議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得スシテ貴族院ト協議會ヲ開クヘシ

以上ノ場合ハ前條第五十四條第二項ノ時ト雖同一ナリトス

第五十六條

兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

〔註〕本條ハ協議會ノ委員ヨリ成案ノ事ヲ示ス

第五十五條ノ如ク兩院一致同意アラサルヨリ協議會ヲ開クトキハ兩議院ヨリ各々十人以下兩議院同數即チ貴族院八人ヲ出セハ衆議院モ八名ヲ出シ其十六名ノ委員ハ會同シ委員ニ於テ協議案ヲ成立シ其案ヲ以テ先ツ最初ニ政府ヨリ議案ヲ受取り又ハ提出シタル議院ヨリ之ヲ議



シ次ニ修正シテ回付シタル議院ニ於テ之ヲ議スモノトス  
 前條ノ例ニテ云ヘハ貴族院ヨリモ八名衆議院ヨリモ八名出シ十六名ノ委員ヲ以テ會同シ協議  
 會ヲ第五十九條第六十條ノ如クニ爲シテ協議會ニテ成立案ヲ作り而シテ最初ノ貴族院ニ於テ  
 協議案ヲ先ツ議シ次ニ貴族院ヨリ衆議院ニ移シテ其協議案ヲ議セシメ其議シタル後上奏シ之  
 レト同時ニ貴族院ニ通知スルモノトス  
 其協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ兩議院トモ更ニ修正ノ動議ヲ爲スヲ許サズ蓋シ  
 初メニ選舉シテ委員ヲ出シ各代表者トナリテ協議案成立シタルモノナレハ尙ホ修正ノ動議ア  
 ルヘキ程ナシ其アルトスルモ斯クテハ際限ナキニ至ルヲ以テナリ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ  
 出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

「註」本條ハ既ニ屢々述ヘタルカ如ク責任アルモノ辨明ノ任アル者ナレハ勿論意見ヲ述フル  
 ヲ得ヘシ併シ議決ノ數ニハ加フルコトハ出來サルハ無論ナリ

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サズ

「註」本條ノ公開トセサルハ蓋シ内部ノ會議ニシテ傍聽シテモ其效ナク只兩議院ノ相談會ニ過  
 キサルモノトス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用井可否同數ナ  
 ルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

「註」本條ハ協議會ノ議決スル方法ヲ示サレタリ

協議會ニ於テ協議案成立ノ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用ユ之レ何人カ如何ナル方案ヲ維持  
 シタリト他ニ示サ、ルモノニシテ後ニ至リ何某ハ修正論ニ於テ可又ハ否テアルトカ知ラシメ  
 サルカ爲メナリ而シテ投票可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル之レ會議法ノ定則タリ

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互選シ每會  
 更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

「註」本條ハ協議會ノ議長選舉法ヲ示サレタリ

本會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員即チ貴族院協議委員ニテ一名、衆議院協議委員  
 ニテ一名、ヲ互ニ其委員ニ於テ選シ其議長席ニ就クハ每會更代シテ勸メ以テ再度同議長ノ席  
 ニ當ラシメサルモノトス蓋シ偏セサルヲ防クニアリ又每會トアルヲ以テ見レハ議會期中屢々  
 アルカモ知レサルヲ以テ協議會ヲ開キタル毎ニ更代スルトノ意ナリトス



其協議會ノ初メノ會ノ議長ハ何レヲ先キニスルヲ定ムルヲ難キニ依リ議長ハ抽籤ヲ以テ之レカ先後ヲ定ムルモノトス

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

「註」本章ニ定メタル所ヨリ以外ノ兩議院ニ交渉シタル事務ヲ規程スルハ其協議ニ依リ之ヲ定ムルヲ以テ至當トス何ントナレハ其委員ノ人員ヨリ議長ノ就席等皆同等ニシテ偏頗ヲキテ以テナリ

第十三章 請願

「註」本章ハ憲法第三十條、第五十條等ノ請願ノ事ヲ示スモノトス

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

「註」本條ハ請願書受取方ヲ定ムルモノナリ  
議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ直チニ議院ニ呈出スルヲ得ヌ又議院モ直チニ受取ルコトヲ得ヌ必ス各議院中ノ議員ノ紹介ニ依リテ其議院之ヲ受取ルヘシ蓋シ議院ハ人民ト直接ニ

ルモノトハアラサルカ故ナリ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

「註」本條ハ請願書ヲ審査スル場合ヲ示ス

各議院ニハ各請願委員ヲ適宜設ケテ請願書ヲ受クル毎ニ之ヲ其請願委員ニ付シ審査セシム而シテ請願委員ニ於テ其請願書ヲ審査シ規程ニ合ハスト認ムルトキハ之ヲ議長ニ差出スモノナリ

其規程ニ合ハストハ第六十六條以下ニアル處ノ制限ニシテ例ヘハ憲法ヲ變更セントスル請願書ノ如キハ之レ規程ニ合ハサルモノナリ

議長ハ請願委員ヨリ之レヲ受ケ紹介ノ議員ヲ經テ之レヲ差出シタル人民ニ却下スルモノトス

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ毎週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各



議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付ス可シ

〔註〕本條ハ請願書ノ報告及ヒ會議ニ付スヘキ場合ヲ示シタリ

請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ錄シテ毎週即チ一週間ニ一回議院ニ報告スルノ任アリトス

リトス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ議院ハ請願事件ヲ會議ニ付スヘキモノトス

一 請願委員ノ特別ノ報告ニ依レル要求

二 議員三十人以上ノ要求

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書

ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

〔註〕本條ハ前條ノ請願ヲ議決シタルトキノ場合ヲ示セリ

各議院ニ於テ前第六十四條ノ如ク二個ノ場合ニ於テ會議ニ付シ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決

シタルトキハ意見書ヲ附シテ其請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

此求ムルコトヲ得トハ政府ニ對シ意見ヲ附シタル請願ノ報告即チ採否ナリト知ル可シ

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テス

ル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ請願書受ケ付ノ規程ヲ示シタリ

總テ總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ之ヲ受付クルコトヲ得サルナリ必スヤ其一人ヨリ之レヲ願

ハサルヘカラス併シ多人數ニシテ皆請願ニ出頭スルコト能ハス其中ノモノ之レニ代リテ請願ス

ルトキハ其請願書ニ連署シタルカ又ハ別段委任狀ヲ副ヘタルカノ如キハ敢テ差支ナカルヘシ

假令總代人ノ名義ナルモ法律ニ依リ法人ト認メタルモノナレハ差支ナク受クルコトヲ得例ヘ

ハ商法上又ハ民法上ニ於テ認メタル會社結社ノ如シ今日ノ銀行、鐵道會社、日本郵船會社ノ

如シ

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

〔註〕凡ソ憲法ヲ變更セントスルノ事柄ハ甚ダ大切ニシテ憲法ヲ解スルニ際リテ 勅諭ヲ先ツ

掲ケ其中ニモ詔リ玉ヒタリ又憲法第七十三條ノ明文ノ如ク勅命アルニアラサレハ爲シ得ヘカ

ラサルモノナレハ人民ノ請願シ得ヘキモノニアラス無論受クルコトヲ得サルナリ

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ

其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス



〔註〕本條ハ請願書ノ式ニ違フタル場合ヲ示シタリ

抑モ請願タルモノハ文字ノ如ク請ヒ願フモノニシテ決シテ論述ケ間敷モノニハアラサルナリ  
故ニ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘクシテ決シテ他ノ事柄ニ係ルコトヲ用ウヘカラス若シ請願ノ名  
義ニ依ラスシテ或ハ建議トカ又ハ建白トカ名義トシ若クハ其請願ノ體式ニ違フモノハ是亦  
受クルコトヲ得サルナリ

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用井政府又ハ議院ニ對シ侮  
辱ノ語ヲ用井ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

〔註〕本條モ亦受クヘカラサル請願書ノ一ヲ示シタリ

假令哀願ノ體式ヲ用ヒ請願ノ名義ニ依ルトスルモ左ノ語ヲ用ヒタルモノハ之ヲ受ケ付ケサル  
モノナリ之レ相當ノ敬禮ヲ失シタルモノニシテ其實請願ニアラサレハナリ

- 一 皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヒタルモノ
- 二 政府ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヒタルモノ
- 三 議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヒタルモノ

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

〔註〕本條モ亦受付クヘカラサル事項ヲ示ス

司法ナリ又ハ行政ナリノ裁判事件ハ各其管轄アリテ右ニ干預スルノ請願ハ其筋々へ差出サ  
ルヘカラス之レヲ議院ニ出ス所謂其管轄外へ出シタルモノニシテ受クヘキモノニアラス若  
シ之レヲ受ケンカ之レ越權ナリ無効ナリト云ハサルヘカラス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

〔註〕本條ハ各議院ハ互ニ干預セサルコトヲ規定セラル故ニ一方ニ於テ請願ヲ却下スルモ一方ニ  
於テ之レヲ不當トシ提出スルカ如キ其他互ニ干預セス各議院々々ノ處置ニ任スヘキモノトス  
故ニ一ノ請願ニ付互ヒニ協議ハ勿論其請願書ト雖モ各別ニ之レヲ受ケ又各別ニ之レヲ却下シ  
各別ニ採擇スルモノトス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

〔註〕各議院ハ人民ヲ統轄スル所ニアラス只法律案其他ノ議案ヲ議スルノ處タリ故ニ人民ト直  
接セズ從テ人民ニ告示ヲ發スルノ權利ナキモノトス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス



「註」本條ニ於テモ各議院ハ審査ノ爲メニ人民ヲ召喚シ及ヒ議員ヲ派出シテ彼等調査スル等ノ事ヲ爲スコトヲ得ス之レ前條一言シタルカ如ク人民ヲ管轄スルノ權ナク只政府ト直接ニシテ必要アル場合ハ政府ニ向テ説明ヲ求ムルカ又ハ質問ヲ爲スノミトス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

「註」本條ハ政府ニ求ムル處ノ場合ニ於テ應スルカ否ヲ定ムルニアリトス  
政府ハ議院ヨリ審査ノ爲メ必要ナリトシ或ル事柄ノ報告ヲ求メ又ハ或ル文書ヲ求ムルトキハ必ス之レカ求ニ應セサルヘカラス何ントナレハ政府ニ於テハ議案ヲ下付シ議セシムルモノナレハ飽マテモ其材料ヲ與ヘサルヘカラス  
併シナカラ秘密ニ涉ルモノハ之レカ求ムルニ應セサルハ勿論ナリ即チ秘密ノ如キハ假令政府ノ吏員ト雖モ其主任ノ外ハ漫リニ爲サ、ル事柄ナレハ其求ニ應セサルハ至當トス茲ニ於テ秘密ナル事、必要ナルモノナリ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

「註」本條ハ政府ノ外ト往復スルコトヲ制限ス  
議院ハ政務ヲ執掌スル所ニアラス只單ニ政府ノ下付議案、議院ノ提出案、請願ノ採擇議決等ヲ掌ル處ナリ故ニ官廳又ハ地方議會ニ向テ照會往復スルノ必要ナシ若シ事件ニ依リ必要ナルハ國務大臣及ヒ政府委員ト往復シ事ヲ辨スルヲ得ヘシ例ヘハ政府委員ニ説明ヲ求ムルカ如ク主任ノ國務大臣ニ質問ノ答辨ヲ促スカ如シ  
地方議會トハ現今ニ在テハ府縣會町村會區郡部會ノ如ク市制町村制施行ノ後ニ在テハ市會町村會ノ如シ

第十五章 退職及議員資格ノ異議

「註」本章ハ議員ノ退職及ヒ議員ノ資格ニ付異議アルハ處分手續ヲ定メタリ

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

「註」本條ハ退職者トハ如何ナルモノナルヤヲ示シタリ  
退職者トスルニハ左ノ三種ニアリトス

第一 議員ノ貴族院議員ニ任セラレタルトキ



第二 法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキ

第三 議員ノ被選ノ資格ヲ失ヒタルトキ

以上ノ第一第二ハ本條ニ之レヲ記載シ第三ハ次條即第七十七條ニ明記スル處ノモノナリ

第一ノ分 憲法ニ於テハ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得サル旨明定アレハ一方タル衆議院

ノ議員ハ退職者トス

第二ノ分 法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務トハ宮内官裁判官収税官ノ如キ選舉法第九

條ノ官吏ノ類タリ是亦元來カ議員タルコトヲ得サルモノハ當然退職者トスルモノトス

第三ノ分ハ次條ニ至リテ説クヲ以テ茲ニ畧ス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタル

トキハ退職者トス

〔註〕本條ハ前條ニ於テ一言シタル第三ノ退職者トナスモノナリ

現ニ議員デ在リナカラ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルモノ即チ瘋癲白痴トナリタ

ルトキ、身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ辨償セサルトキ、重罪ヲ犯シテ公權ヲ剝奪セラレ

シモノ、輕罪ヲ犯シテ刑期中ノモノ、其他種々アリテ同法第十四條以下第十七條迄ノ分ハ被

選舉人トナル資格ナキモノナリトス尙ホ諸條ノ説ヲ見ラレヨ

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ

設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

〔註〕本條ハ議員ノ資格異論アル時ノ處分法トス

衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特別ノ委員ヲ設ケ其委員會ニ於テ時日即

チ幾日間又ハ何日マテニ之レヲ審査シ以テ委員ハ之レヲ議院ニ報告シ議院ニ於テ其資格ノ有

無ヲ議決シ第七十八條ノ退職者ト爲ルカ否ヲ定ムルモノトス

此審査ヲナスハ裁判所ニ於テ訴訟ノ起リタルモノニハ之レヲ及サストス之レ次條ノ定ムル所

ナリ尙ホ同條ニ依リニ知ルヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於

テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ一事ヲ再審セサルヲ示シタリ

當選訴訟トハ選舉法第七十八條以下ニアル手續ニシテ同條以下ノ解ニ依リテ知ラル可シ今

更ニ茲ニ喋々ヲ辨スルハ却テ煩雜ナリ而シテ何故其事件ヲ審査スルヲ得サルヤト云フ一旦



裁判所ニ於テ裁判手續ヲ爲シタルモノナリ故ニ同一ノ事件ヲ再度マテ之レヲ取調フルノ要ナシ殊ニ衆議院ハ控訴ヲ受ケテ覆審スル所ニモアラズ裁判所ハ裁判權ヲ以テ裁判ヲ爲シタルモノナレハ確乎動カスヘカテサルモノトシ之レヲ審査セシメヌ之レヲ尙ホ審査セシムルトモハ裁判所ノ處置ハ何ノ爲メニ之レヲ施シタルヤ畫餅ニシテ一方ニ對シテ云ヘハ實際ナシトス故ニ同一ノ事件ニ付テハ衆議院之ヲ審査スルヲ得スト規定セリ

第八十條 議員其ノ資格ナキユトヲ證明セラル。ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辨明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ議員ノ發言權ヲ失フヤ否ヲ定メタリ

議員ノ資格ナシト議決スルカ又ハ裁判上資格ナシト判決セラレタルカ迄ノ間ニ在テハ議員ハ資格ヲ有スルモノト看認ム之レ何人ニテモ現在ノ常態ニ反スルハ其證明ヲ必要トス假令ハ議員ハ現在ハ議員ノ資格ヲ有シ議員トナル即チ之レ常態ナリ之ニ反シ議員ニアラスト云フハ此議員ナリト云フ常態ノ反對ナリ故ニ之レヲ證明セサル以上ハ尙ホ議員ナリト云フヘシ丁度同一ノ例ニテ人ハ常ニ人ニ義務ヲ負ハス借金ハナシトハ常態ナリ此常態ニ反シ權利アリ金

ヲ貸付ケタリト云フモノアレハ之レ證明セサルヘカラス金ヲ貸タルノ證明ナキ上ハ常態タル義務ナキ立派ナル人ナリト云フヘシ

以上ノ理由ナルヲ以テ議員ハ其資格ナキコトヲ證明セラル。ニ至ルマテハ議員ノ有スル權利タル位列及ヒ發言ハ失ハス併シナカラ議員ノ自身ノ資格ヲ審査スルノ會議ニ於テハ其辨明スルハ差支ナキモ其表決ニハ加フヘカラス之レ表決ハ多數ヲ以テ決スルニ依リ一人ノタメニ公平ヲ曲ルニ至ルノ患アリ故ニ本條ノ如ク規定セルモノナリ

第十六章 請假辭職及補闕

〔註〕本章ハ議員ノ請假辭職及ヒ補欠ノ事ヲ示ス

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ議員ノ請假ヲ許可スル場合ヲ示シタリ

各議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可ス

各議院ハ一週間ヲ超ユル議員ノ請假ヲ許可ス



右ニ依レハ其許可ヲ爲スヘキ權ニ二種アリ蓋シ一週間以上ニ渉ルモノハ議事上ニ障害ヲ來タ  
 スニ依リ議院ニ於テ議員ノ決議ヲ以テ之レヲ許可スルモノトス  
 其期限ナキモノハ之レヲ許可スルコトナシ是レ亦議事上ニ係ルモノナルノミナラズ衆議院ノ  
 如キハ人民ノ代議士ナレハ之レカ人民ニ對シテモ亦之レカ濟マサルカ如シ  
 第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委  
 員會ニ關席スルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ議員ノ欠席スルコトヲ得ルコトヲ示サレタリ  
 議員ハ會議又ハ委員會ニ出席シ充分ニ國家ノ爲メ人民ノ爲メニ盡サ、ルヘカラズ然ルニ正當  
 ノ理由ナクシテ又ハ議長ニ届出スシテ其會ニ欠席スルコトヲ得サルハ勿論ナリ  
 而シテ正當ノ理由トハ實ニ其種類アリテ確定スヘキモノニハアテサルモ或ハ疾病等アリ此判  
 定ニ付テハ議長ノ認ムル所ニ依テサルヘカラス  
 欠席スルヲ得ルニハ二要件ヲ具フヘシ  
 第一 正當ノ理由ナルコト  
 第二 議長ニ届出ルコト

若シ一チ欠クトキハ能ハサルモノトス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

〔註〕本條ハ議員ノ辭職スルヲ許可スルハ衆議院ノ權内ナリ而シテ其辭職ノ爲メ欠員ヲ生シタ  
 ルトキハ次條ニ依ルモノトス

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨ

リ内務大臣ニ通牒シ補關選舉ヲ求ムヘシ

〔註〕本條ハ議員ノ欠員ヲ補フヘキ場合ヲ示ス

其如何ナル事由ニ拘ハラズ衆議院議員ニ欠員ヲ生シタルトキ即チ辭職ヲ許可シタルトキ又ハ  
 第七十六條、第七十七條ノ如キモノ等アル場合ニ於テハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シテ補欠  
 選舉ヲ請求スルモノトス蓋シ議院ニハ定員アレハ之レヲ關クトキハ組織ニ關スルヲ以テナリ  
 内務大臣ハ選舉法ニ依リテ補欠選舉會ヲ開クモノナリ尙ホ同法ニ之レヲ讓ル

第十七章 紀律及警察

〔註〕本章ハ議院ノ紀律及ヒ其紀律ヲ保持スル警察權等ヲ示ス

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律



及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

「註」本條ハ紀律ヲ保持スル警察權ハ何人ノ施行スル所ナルヤチ定メタリ  
議院開會中ハ議員出席シ辨明員出席シ又傍聽人アリ從テ種々ナル行為ヲ起シ制限セサルヘカ  
ラサルモノアリトス又議事ヲ整理シ議院ノ体裁ヲ亂ラサルカ爲ノニハ其紀律ヲ保持セサルヘ  
カラス此紀律ノ保持ハ警察權ノ爲ス所ナレハ之レヲ議院ノ總裁ナル議長ニ與ヘ之レヲ施行セ  
シメラレタリ

警察權ヲ行フニハ此法律及各議院ノ定ムル所ノ規則ヲ守ラサルヘカラス此法律トハ第八十七  
條以下ニ之レヲ明記シ議院ノ定ムル規則トハ憲法ニ於テ許サレタル内部ノ諸規則ニ從テ決シ  
タル取締法タリ

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮  
ヲ受ケシム

「註」本條ハ警察官吏ノ派出ノ事ヲ示ス  
議長於テ前條ノ如ク内部警察權ヲ施行スルノ權利アリト雖モ其手足トスル所ノ警察官吏ナカ  
ルヘカラス此官吏ハ警察權ヲ行フ所ノ政府ノ吏員タリ議長ニ警察權ノ一部ヲ與ヘタルトキハ

其機關タル官吏ヲ與ヘサルヲ得ス若シ然ラストセハ到底實地ニ行フヲ難シ故ニ本條於テ政府  
ハ警察官吏ヲ議院ノ要スル所ニ從テ派出セシメタリ

議長ニ警察權アリ此權ヲ施行スルニ要スル所ノ警察官吏ハ派出セリ之レヲ利用シテ實地ニ紀  
律ヲ保持セシムルハ議長ノ任ナレハ必要ノ時ニ當リテ之レヲ指揮スルノ權アリ又警察官吏ハ  
其指揮ヲ受ケテ諸般ヲ掌トルノ義務ヲ有スルモノトス

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊  
ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサル  
トキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシ  
ムルコトヲ得

「註」本條ハ警察權ノ一部ヲ定メタリ  
會議中議員ノ遵守セサルヘカラスモノアリ即チ此法律ニ規定シタル事、議院ニテ定メタル  
議事規則ヲ守ルコト、議場ノ秩序ヲ紊ラサル事

此法律トハ第九十一條第九十二條ノ如ク又ハ議長ノ處分ニ遵ハサルカ如キヲ云ヒ議事規則ト  
ハ議院ニ於テ規定シタル規則ヲ云フ



右等ノ事柄ヲ守ラズ違ヒタルトキハ秩序ヲ紊ルカ如キ事アルニ於テハ議長ハ紀律ヲ保持セシ  
カ爲メ本條ノ處分ヲ爲スノ權アリトス即チ左ノ如シ

- 一 警戒ケイカイ
- 二 制止セイジ
- 三 發言ノ取消サイゴンノトリケ

以上ノ三個ノ場合ハ其違ヒタル紊リタル時ニ於テ其順序ヲ異ニスルコトアルヘシ假令ハ最初  
ニ之レヲ警戒スルモ應セズ次ニ之レヲ制止スルカ如ク又ハ直ニ發言ヲ取消サシムルコトアル  
カ如シ又ハ警戒シテ用ヒサルニ於テ發言ヲ取消サシムルコトアルヘシ  
右ノ處分ニ對シ其命ニ從ハサルトキハ議長ハ尙ホ警察權ヲ實行シテ

- 一 當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止ス
  - 二 議場外ニ退去セシム
- 此二個ノ處分ハ最終ニシテ是レヲ行ヘハ紀律ヲ保持シ得タリ警察權ヲ實行シ得タリト云フヘ  
シ此場合ニ於テモ退去ヲ命スルトキト發言ヲ禁止スルトキト其模様ニ依リ議長ノ認ムル處ニ  
之レ依ル

### 第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又 ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

〔註〕本條ニ於テモ尙ホ警察權ノ一部分タリ

- 一 當日ノ會議ヲ中止ス
- 二 當日ノ會議ヲ閉ツ

此中止トハ一時其騷擾ノ靜マルマテ會議ヲ爲サ、ルモノニシテ靜マレハ更ニ引續ヒテ之レヲ  
議ス、之レヲ閉ツトハ當日ノ會議ヲ閉チ假令靜マルモ會議セス次日ニ之レヲ讓ルチ云フ其日  
ニ於テ之レヲ云ヘハ中止ハ一時ニシテ再ヒスルヲ得ルモ閉ツルハ終日ニシテ再ヒスルコトナシ  
ト云フカ如シ

### 第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必 要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得  
〔註〕本條ハ傍聽人ニ對シ行フ處ノ警察權ナリトス



傍聽人ハ議事ヲ傍聽スルモノニシテ發言スルコトヲ得サルハ勿論常ニ靜肅シテ議事ヲ妨ケサル  
ニ注意セサルヘカラス然ルニ罵詈又ハ稱讚等其他種々ノ方法ヲ以テ議場ヲ妨害スルトキハ其  
者ヲ退場セシム之レ勿論タリ

若シ其事柄刑法又ハ其他ノ法律規則ニ照シ相當ノ處分ヲ爲サ、ルヘカラスナルモノナルカ如キ  
必要ナルキハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得ヘシ其官廳トハ警視廳ノ如シ  
傍聽席ニ於テ前項ノ如キ妨害者ハ何人ナルヤハ認メサルモ總テ騷擾ナルトキハ假令其中ノ部  
分ニ在テ靜ナル者アルモ議長ハ總テ之レヲ退場セシムルモノトス之レ其者ヲ認メサレハ總テ  
處分セサレハ區別判然セサルカ如シ

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ  
注意ヲ喚起スルコトヲ得

〔註〕本條ハ議長ニ注意ヲ促スヘキ場合ヲ示ス  
前數條ニ於テハ議長ニ於テ之レヲ認ムルニ際リテア一々處分ヲ施サ、ルヘカラス然ラサレハ  
議場靜肅ニシテ議事整理ヲ爲スコト能ハス然ルニ議長ニ於テモ或ハ未タ認メサルカ又ハ認ムル  
未タ以テ其區域ニ達セサルカ其所ニハ關セサルモ議場ニ出テ、議事ニ關係ヲ有スル國務大臣

政府委員、議員ハ議長ニ注意スルコトヲ喚起スルコトヲ得ルナリ  
議長ハ議場ノ秩序ヲ保持スルノ權アル人ナリ故ニ他ヨリ之レヲ侵スコトヲ得ス故ニ只注意アラ  
ンコトヲ喚起スルニ止マルノミ

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

〔註〕本條ハ議長ノ第八十七條第八十八條第八十九條ノ處分ヲ行フヘキ原由ノ一ヲ示サレタリ

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用井ルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ  
言論スルコトヲ得ス

〔註〕本條モ亦前條ト同一ノ理ニシテ議員其他議場ニ在テ發言スルモノハ常ニ敬禮ヲ守ラサル  
ヘカラス又他人ノ身上ニ涉ルカ如キ内行ニ係リタルカ如キコト口ニスヘカラス尙モ堂々タル  
一國ノ法律ヲ議スル所ニ在テ如斯ノ醜體ヲ爲ス實ニ外國ヘ對シテモ耻ツヘキコトナリ故ニ常  
ニ第九十一條以下ニ付テハ慎マサルヘカラス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴

ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ議員ニ於テ誹毀侮辱セラレタルトキノ處分ヲ定ム



前條ニ於テモ説キタルカ如ク議院ニ於テハ無禮ノ語ヲ用ヒタリ又ハ他人ノ一身上ニ渉ル言ヲ發スルコトヲ得ス故ニ互ヒニ之レカ警戒セサルヘカラス然ルニ他人ヲ誹毀侮辱スル何トテ其被害者豈黙止スヘケンヤ然リト雖モ其被害者ハ之レカ議員ニ對シテ私ニ報復スルコトヲ許サズ今日ノ世界、昔日ノ如ク自ラ之レヲ處斷スルヲ得ス必ス之レヲ制裁スヘキ處ニ訴ヘテ正當ノ處分ヲ求ムヘシ故ニ復讐決闘ノ如キ野蠻ノ風ハ之レヲ行フヲ得サルモノトス

### 第十八章 懲罰

「註」本章ハ前章及ヒ前々章ニ於テノ禁令ニ背キタル者ヲ懲罰スル場合ヲ示セリ

### 第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

「註」本條ハ懲罰權ハ何レニアルヤヲ示ス

懲罰權ハ各議院之ヲ有ス之レヲ司法權ニ委セサルハ蓋シ一ノ行政處分取締法トシテ議員ノ合體タル議院之レヲ行フノ權アリトス

### 第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

「註」本條ハ懲罰ノ方法ヲ示シタリ

第一項 懲罰事犯ハ之レヲ懲罰委員ヲ設ケ其會ニ於テ審査セシム之レ議院全体ニ於テ議スル

ニ當テハ皆委員ヲ設ケテ審査スルノ例アルニ依ルモノナリ其委員ヲ設クルハ第二十條以下委員トアル章ニ於テ之レヲ知ル可シ

第二項 議員ノ懲罰事犯アルトキハ前項ノ如ク委員ヲ設ケテ之レニ付シ審査セシム其審査ヲ

經タルトキハ議院全体ニ於テ會議ヲ爲シ可否ヲ決シ之レヲ宣告スルハ議長ノ任トス之レ議院ヲ總轄スル人ナレハナリ而シテ其懲罰事犯者タル議員ハ之レヲ辨明スルハ格別ナルモ議決ノ數ニ加ハルコトハ出來サル勿論ナリ

第三項 議院中ニハ委員會アリ各部アリ之レ第二十條第四條ノ規定スル處ナリ故ニ隨テ其委員會又ハ各部中ニ於テモ懲罰事犯者アリトス然ルモ其會又ハ部ヲ總轄スル長アルヲ以テ其

長ヨリ之レヲ議長ニ報告スルモノナリ蓋シ其長ニ於テ處分スルコト能ハサレハ各一議院ノ議員ニシテ其會又ハ部ニ於テ長タルノミ其院ニ對シテハ議長ノ掌ル處ナレハ之レヲ議長ニ報告



シ處分ヲ求ム

議長ハ第二項ノ如ク委員ニ付シ審査セシメテ後處分スルハ勿論トス

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

〔註〕本條ハ懲罰ノ種類ヲ定メラル

第九十五條第二項ノ宣告スヘキ部類ハ本條ノ如ク四種アリトス

而シテ第四ノ場合ハ如何ナルモノヲ云カハ第九十九條ニアリ其他ハ皆議院ノ議ニ依テ定ムルモノトス

又除名ハ衆議院ニ在テハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決シ貴族院ニ在テハ第九十九條ノ如シトス

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

〔註〕本條ハ除名議員ノ再撰セシ場合ヲ示ス

除名者アリテ欠員ヲ生シタルトキハ第八十四條ノ如ク議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補欠撰舉ヲ求ムルモノナリ而シテ其撰舉ヲ行ヒ再ヒ既ニ除名シタルモノ議員ハ之レヲ拒ムノ權アリヤト云フニ決シテ然ラス此除名タルヤ其當時ノ處分ニシテ之ヲ永久ニ存スルモノニハアラス故ニ再撰セハ議員トナリテ議場ニ列スルヲ得ヘク又除名スヘキノ要件アルトキハ又之レヲ除名スルモ差支ナキモノトス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

〔註〕本條ハ懲罰ノ動議ヲ爲スヘキ場合ヲ示セリ

此動議ハ議員二十人以上ノ賛成アルヲ要ス然ラサレハ議題トナラサルナリ之レ苟モ人ニ懲罰ヲ加フルモノ豈輕々トシテ處分スルヲ得ヘケンヤ

又其動議モ事犯アリシ後三日以内トス之レ其期限ヲ定メサレハ際限ナク之レヲ經過セハ議院於テハ既ニ遺忘セリト見認メタルモノナリトス



第六十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若クハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

〔註〕本條ハ除名スヘキ場合ヲ示ス

除名スヘキ議員ハ左ノ行爲アルモノニ限ルヘシ

第一 正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間ニ召集ニ應セサルニ由リ

第二 正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ

第三 請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ

右ノ三箇ノ場合ノ外ニ尙ホ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其招狀ヲ受ケタル後一週間内仍故ナク出席セサルトノ一要件ヲ具備セサルヘカラス

以上ノ三箇ノ中ト前項ノ一條件ヲ加ヘタルトキハ實ニ除名セラル、モノナリトス而シテ兩議院ニ在テ其處分方法ヲ異ニセリ

衆議院ニ在テハ第九十六條末項ニ依リ多數ヲ以テ除名ヲ決スヘシ

貴族院ニ在テハ其院ニ出席スルヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フニアリトス



衆議院議員選舉法目次

第一章	選舉區畫	一
第二章	選舉人ノ資格	三
第三章	被選人ノ資格	五
第四章	選舉人及被選人ニ通スル規定	八
第五章	選舉人名簿	十
第六章	選舉ノ期日及投票所	十
第七章	投票	十九
第八章	選舉會	二十四
第九章	當選人	二十九
第十章	議員ノ任期及補欠選舉	三十三
第十一章	投票所取締	三十五
第十二章	當選訴訟	三十八



第十三章

罰則

四十四丁

第十四章

補則

五十四丁

衆議院議員選舉法附錄

五十七丁

衆議院議員選舉法

〔註〕本條ハ憲法第三十五條ノ明文ニアル撰舉法ナリ

第一章 選舉區畫

〔註〕本章ハ選舉區畫即チ選舉スル區域ノ事ヲ示サレタリ

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

〔註〕本條ハ議員ノ選舉ハ何レヨリ爲スカヲ定ム

議員ハ選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス其撰舉區ハ各府縣毎ニ數區ニ分チ其區ノ人員ヲ定メテ撰舉ス然ラサレハ漠然トシテ區域立タサルナリ其區及ヒ定員ハ附録ニアリ例ヘハ東京府内チ十二區ニ分チ第一區チ麹町麻布赤阪ノ三區トシ議員一人ヲ選舉スルカ如シ

第二條 府知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

〔註〕本條ハ監督官ヲ定ム

一 選舉區ノ選舉ハ其ノ區トセン郡ナレハ郡長之ヲ管理シ市ナレハ市長之レヲ管理シ而シテ選



二 舉長ナリトス

府知事縣知事ハ其管下ノ總テノ選舉ヲ監督ス之レ管理アリ監督アリ、選舉ヲ總理ス若シ之レ  
ヲ置カサレハ紛雜シテ事務舉ラヌ

第三條 一選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ

一人ヲ命シ選舉長タラシムヘシ

〔註〕本條ハ選舉長トナルヘキモノ數人アルトキノ場合ヲ規定セリ

大阪府下西成郡東成郡住吉郡チ一區トシテ二人ノ議員ヲ出スカ如シ而シテ西成ニ一郡長アリ  
東成住吉ニハ兩郡ニテ一郡長アリ左レハ兩郡長ニシテ皆選舉長トナルトキハ所謂兩立シテ管  
理シ難シ依テ府縣知事ハ其郡長中ノ一人ニ命シテ其區ノ選舉長ト爲サシム之レ管理ノ一手ニ  
出ルカ爲メナリ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選  
舉長タラシムヘシ

〔註〕本條ハ一市内ノ數區ニ分カレタルトキノ場合ヲ示ス

京都府ノ京都ノ如キハ本年四月以降ハ一市トシテ上京區下京區ヲ合併シテ一人ノ市長ヲ置キ  
市長ハ事務ノ整理ヲ計リテ上京ニ一人下京ニ一人ノ區長ヲ設ケタリトセンニ本法ノ選舉區ハ  
京都市市中チ第一區第二區ノ二ニ區別アリ然ルニ此ニ選舉區ノ選舉ハ之レチ市長一人ノ選  
舉長トナルヲ得ス第二條ノ如ク一選舉區ニ一選舉長ヲ置クヲナレハ今市長一人ニテ二區ノ  
長トナルヲ出來サルチ以テ市長ノ手足ノ如キ區長ヲシテ其ノ選舉長トナサシム  
此命スルハ京都府知事ノ權内ナリトス

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

〔註〕本條ハ選舉ニ關スル費用ハ地方稅ヲ以テ之チ支辨ス之レ其地方ノ利益ノ爲メナレハ之チ  
負擔スル勿論タリ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

- 第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者
- 第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定  
メ住居シ仍引續キ住居スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅



十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

〔註〕本條ハ選舉人ノ資格ヲ列記セリ即チ第一乃至第三ノ如シ故ニ本條ノ要件ヲ具備セサルモノハ選舉人タルコトヲ得サルハ勿論ナリ

人名簿ノ事ハ第十八條以下ニ於テ之ヲ解クヘシ

期日ヨリ前云々トハ四月一日ニ人名簿ヲ調製スルモノナレハ夫レヨリ以前ニ於テト云フノ義トス

國稅十五圓以上トハ一種ノ稅金ニアラスシテ數種合算シテ其者カ現ニ出金スヘキ高チ云フモノトナフ故ニ所得稅ト租稅トヲ納ムルモノハ之ヲ合算スルモノナリ

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

〔註〕本條ハ家督ニ由リ財產ヲ相續セシモノハ第六條第三ノ場合ノ如ク以前ヨリ納メ居ラサルモノ先キニ其財產ニ付財產主ヨリ納稅シ來リシニ依リ之レヲ捨テス其納稅モ算入シテ資格ヲ有セシム之レ元來家督相續人ニシテ共ニ財產ヲ相續セシモノナレハ決シテ他ヨリ新クニ代リタルモノトハ大ニ差アリトス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉

人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

〔註〕本條ハ被選舉人ノ資格ニシテ其要件左ノ如シ

第一 日本臣民ノ男子滿三十歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル



以上ヲ以テ見レハ選舉人ノ資格トハ一要件ヲ減セリ即チ第六條ノ第二是レナリ

故ニ被選人ハ其府縣内ニ本籍ヲ定メ住居スル人ニアラサルモ前第一第二ノ要件サへ具備セハ

西國人ハ東國人ヲ選ムヲ得ヘシ都人ハ田舎人ヲ選ムヲ得ヘキモノナリ

第九條 官内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

〔註〕本條ハ被選人ノ資格ナキモノヲ列記ス

本條中ノ官吏ハ或ハ政治ニ關係セス又黨派ニ關セズ獨立タルヘキモノ又ハ議會ニ關係セル會

計上ヲ證明スヘキモノ又ハ收稅上ニ關係アルモノ等ニシテ帝國議會ニ對シテハ局外ト爲リテ

政府ノ爲メ職ヲ奉スルモノナレハ之レニ資格ヲ與ヘス

其他ノモノハ其職務ニ妨ケナキ限リハ之レヲ兼ヌルコトヲ許スモ歳費ヲ與ヘサルノミ議院法

第十九條ヲ參看スヘシ

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

〔註〕本條モ亦被選人ノ資格ナキモノヲ示ス

然レトモ是等ノモノハ其制限セラレタルモノト云フヘシ何ントナレハ其管轄區域外ニ在テハ

被選セラル、モ敢テ差支ナキカ如シ假令ヘハ大坂府ノ官吏ハ奈良縣ニ於テハ被選人タル資格

アリ西成郡ノ郡吏ハ市中ニ在テハ被選人タル資格アルカ如シ

以上ハ皆其弊害ヲ防クモノトス然ラサレハ或ハ百方奔走又ハ選舉人ニ在テモ人情上選舉スル

ノ嫌アレハナリ

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タ

ルコトヲ得ス

〔註〕本條モ亦前第十條ト同一ノ精神ニシテ區域ノ狹キノミ假令ヘハ東京府神田區内ニアリテ

第八條ノ要件ヲ具ヘタルモノ東京ノ淺草區ノ區長トナリシトキハ其淺草區ナル東京府第六區

ノ被選人タルコトヲ得ス左レトモ神田區ナル第七區ノ被選人タルコトハ勿論ナリトス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

〔註〕本條ノ列記セルモノハ皆性質上政治ニ關係セサルモノナレハ被選人ノ資格ナキハ勿論タ

リ

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタル

七 トキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス



「註」本條ハ二個ノ職ヲ兼スルコトヲ止ムルモノナリ

二個之ヲ保ツトセハ其議會ニ差支チ生スルノミナラス人民選舉ノ希望ニ反シ又一方ハ一地方ノ經濟ヲ議スル處ノモノニシテ一方ハ政治ニ關シタル議ヲ決スル處ナレハ其ノ性質差異アリ之レヲ兼スルトキハ到底其ノ人ノ本心上於テ二個トナリ主義或ハ分カル、ノ嫌ヒ等アルカ爲メナラン

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一二觸ル者ハ選舉人及被選舉人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

「註」本條ハ選舉人タルコト又ハ被選人タルコトヲ得サルモノナリ即チ人事ヲ辨セサルモノ又ハ刑餘ノモノニシテ其罪狀ノ滅セリトスル年限ヲ過キサルモノ又ハ民事上ノ罪人ト云フヘキモノ又ハ公權ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタルカ如キモノ等皆純白ナル人民ナラザルカ故之レニ選舉ノ權ハ被選ノ權ヲ與ヘサルモノトス

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

「註」本條ハ軍人ノ選舉被選人タルコトヲ得サル旨ヲ示ス  
陸海軍ヲ問ハス凡テ軍人ハ國家ヲ守リテ紀律ノ嚴正ニ遵ヒ以テ國ノ爲メ 天皇陛下ニ對シ奉リテ忠實ヲ盡クスモノニシテ政治ニ彼是レ容助スヘキモノニアラス故ニ本條ニ於テ之レヲ禁ズルモノトス

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

「註」本條ハ華族ノ當主ニ於テモ選舉人被選人タルコトヲ得ス蓋シ華族ノ當主ハ皆有爵コシテ貴族院ノ議員トナルヘキ資格者ナレハ衆議院ニハ關涉セサルモノナリ從テ選舉權ヲ有セス被選

五

族院ノ議員トナルヘキ資格者ナレハ衆議院ニハ關涉セサルモノナリ從テ選舉權ヲ有セス被選

族院ノ議員トナルヘキ資格者ナレハ衆議院ニハ關涉セサルモノナリ從テ選舉權ヲ有セス被選

族院ノ議員トナルヘキ資格者ナレハ衆議院ニハ關涉セサルモノナリ從テ選舉權ヲ有セス被選

族院ノ議員トナルヘキ資格者ナレハ衆議院ニハ關涉セサルモノナリ從テ選舉權ヲ有セス被選

族院ノ議員トナルヘキ資格者ナレハ衆議院ニハ關涉セサルモノナリ從テ選舉權ヲ有セス被選



人タルコト勿論得サルモノトス  
 而シテ當主トアレハ其家族ニシテ第六條第八條ノ具備セルトキハ選舉人タリ被選人タルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ何トナレハ家族ハ有爵者ニアラサルヲ以テナリ  
**第十七條** 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ刑事ノ爲メ拘留又ハ保釋中ニアルモノニ付テ定メタリ是等ノ者ハ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス又被選人タルコトヲ得サルナリ  
 裁判確定セルハ其者或ハ有罪トナルヘク又ハ無罪ナルヘク有罪者トナレハ第十四條ノ第三ニ依リテ無論兩權ヲ有セス又無罪ナルトキハ其時ヨリハ兩權ヲ有ス何ハ兎モ角モ其身現時ニ在テハ自由ナラサルモノナレハ之レヲ行ハシムルモ到底目的ヲ達スルヲ得サルカ爲メナリ  
 右ヲ以テ考フルコ罰金科料ノ刑ニ係ルモノハ兩權常ニアリトス何ントナレハ罰金科料ハ拘留セル從テ保釋セサルカ故ナリトス

**第五章 選舉人名簿**

**第十八條** 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ

於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

〔註〕本條ハ人名簿調製時限ヲ示ス

人名簿ハ各町村長ノ作ルモノニシテ第二項ノ如ク要件ヲ記載スルモノトス而シテ其記載スル件々ハ皆選舉人タル權アリヤ被選人タルノ權アルヤヲ明瞭ニ知ルヲ得ヘキ爲メナリ  
 調製期限ハ毎年四月一日ヲ期トシ二本即チ二部調製シ其一本即チ一部ハ同月二十日マテニ選舉長ニ差出スヘシ

其投票區域内ノ事ハ第十九條ニ市ノ分アリ見テ知ルヘシ

**第十九條** 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲ



シテ其ノ区内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

〔註〕本條ハ人名簿調製ノ事ハ町村長ナルモ市ニ付之レカ例外ヲ示ス

市制ニ於テハ市ニハ市長アリテ大市ハ數區ニ區別シ各區長ヲ置キ町村制ノ如キ町村長ハアテ

サルナリ故ニ前條ノ如ク町村長之レヲ掌ルトハ適用シ難シ

市ニ依リ選舉區ヲ設ケタル場合ニ依リ人名簿調製スル人ヲ異ニス

第一ハ名古屋又ハ芝區ノ如シ是等ハ名古屋ノ市長又ハ芝區ノ區長之レヲ調製ス是レ第二條一項、第四條ニ依ル

第二ハ大坂市中ノ東區北區ヲ合シテ第二區トシタルカ如シ是等ハ各區長ヲシテ其区内ノ人名簿ヲ調製セシム

第三ハ石川縣ノ金澤區ト石川郡トヲ合シテ第一區トシタルカ如シ是等ハ本條ノ如ク市郡ノ人名簿ハ市長之レヲ調製ス

第四ハ第三ノ場合ニ於テ市長選舉長トナリタルトキハ市長ハ其市内ノ分ヲ調製シ郡長ハ其郡ノ分ヲ調製ス之レ第二條第二項ニ依ル

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテ

ニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

〔註〕本條ハ納稅金ノ調方ヲ示ス  
選舉人假令ハ西區ノ住居ニシテ東區ニ於テ直接國稅ヲ納メ居ルトキハ納稅地ノ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日即チ毎年四月一日マテニ其投票ヲ管理スル區長即チ西區ノ區長ニ差出スヘシ之レ人名簿調製ニ付テ納稅額必要ナレハナリ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿

ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

〔註〕本條ハ選舉長ガ人名簿ヲ受取リテ整理シ監督官ニ送致スルノ手續タリ



四 第二十二條

選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

〔註〕本條ハ投票スルニ其被選人ヲ知ル爲メ其人名簿ヲ人民ニ縦覽セシム故ニ選舉人ハ勝手自由ニ之レヲ見テ投票スルモノトテ投票ハ第二十四條以下ニアリ

第二十三條

凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證據ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ效ナシ

〔註〕選舉人名簿ニ載ルヘキモノカ脱漏シテ載セアラス又ハ假令人名簿ニ載セアルモ誤リテアル等ノ事ヲ發見シタルトキハ其理由書及ヒ證據ヲ具ヘテ縦覽期限内ナル毎年五月五日ヨリ十五日間内ニ選舉長ニ申立テ記載又ハ改正ヲ求ムヘシ其期限後ハ申立ルモ其効ナシトス

證據トハ戶籍寫或ハ第二十條ノ證據管轄町村又ハ市區長ノ證明書ノ如シ

第二十四條

選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ

正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ

町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

〔註〕本條ハ前條ノ脱漏ノ申立ヲ受ケ之レヲ審查シテ判定スル手續ヲ定ム本條ニ反シ申立不當ナリトノ判定ナルトキハ第二十六條ニ依リ訴訟ヲ起スヲ得ルモノトス

第二十五條

選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審查シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

〔註〕本條ハ第二十三條ノ誤載ノ申立ヲ受ケタル場合ニ於テノ判定スル手續ヲ示ス

脱漏ノ時ハ書面審査ニシテ本條ノ場合ニ在テハ人民ヲ召喚審問スルコトアル可シ其他ノ手順ハ

第二十四條ノ如シ誤載ノ申立ハ他人之レヲ申立ルコトアリ又ハ自身申立ルコトアリ他人ノ申立アルトキハ其申立ラレタルモノハ被告人ノ位地ニアルモノトス

五 第二十六條

申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長



ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

〔註〕本條ハ選舉長ノ爲シタル第二十四條第二十五條ノ判定ノ不服ヲ唱フルモノ、出訴シ方ヲ示ス

始審裁判所トハ其地ヲ管轄スル裁判所ナリトス

第二十七條 始審裁判所ニ於テハ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ速ニ之ヲ裁判ス蓋シ人名順序ニ拘ラズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

〔註〕選舉人名簿ニ付テノ出訴アルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ速ニ之ヲ裁判ス蓋シ人名簿ノ如キハ期限アリ且投票等皆一定ノ期限ヲ以テ完結スヘキモノナレハ速ニ是非ヲ斷セサレハ其効ナキニ至ル故ニ斯ノ如シ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

〔註〕第二十四條第廿五條ノ争ヒノ如キハ事實甚ダ單純ニシテ煩雜ノコトナシ故ニ事實上ニ付テハ覆審スルヲ要セス且期限アルヲ以テ時日ヲ遷延スルコト難シ故ニ控訴スルコトヲ許サス然レトモ大審院ニ上告スルコトヲ得レハ蓋シ法律ニ違ヒ又ハ裁判所ノ手續ニ違フ等法律上ニ係ルコトナ

レハ之レヲ許シテ正當ノ裁判ヲ受ケサシムルニアリトス

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取りタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

〔註〕本條ハ人名簿ノ効力期限ヲ示ス

人名簿ハ四月一日ニ之レヲ調製シ五月五日ヨリ十五日間之レヲ縦覽セシメ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ但シ書ノ場合ヲ除クノ外ハ如何ナル事アリトモ之レヲ變更スヘカラスシテ次年ノ調製即チ翌年三月三十一日マテ之ヲ据置クモノトス然ラサレハ常ニ定マリナクシテ際限ナシトス

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布ス



〔註〕本條ハ投票ヲ行フノ日ヲ定ム

投票ヲ行フノ日ハ通常七月一日ナリ衆議院解散ノアリタルトキハ勅令ヲ以テ特ニ選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ二十日前ニ之ヲ公布セラル、モノトス

衆議院解散ノ事ハ憲法第四十五條ニアリトス

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ  
町村長之ヲ管理ス

〔註〕本條ハ投票所ヲ定メタリ其指定場所ハ或ハ便利ヲ計リ町村役場ノ離レアルトキハ中央ニ之レヲ設クルノ類ヲ云フ

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサル  
トキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得  
此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

〔註〕本條ハ一町村ニ選舉人少數ナルトキハ投票所ヲ設ケスシテ之ヲ合併シテ一ノ投票所ヲ設

クルコトヲ得ヘシ之レ便利法ナリトス

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人  
二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通  
知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ  
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ立會人ヲ定ムルコトヲ示ス若シ立會人於テ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭シ參會セサ  
ルトキハ第百二條ニ依リ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處セラルヘシ

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

〔註〕本條ハ投票シ得ル時間ヲ定メテ一日中ニ於テハ午前七時ヨリ午後六時マテ何時タリトモ  
投票シ得ルモノトス

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管  
守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

〔註〕本條ハ投票函ノ管守者ヲ定ム



此管守者ハ二人アリテ其二入立會ハサレハ開ク能ハサルモノナリ何ントナレハ其函ノ構造ハ  
二重ノ蓋ヲ造リテ二種ノ鑰ヲ設ケ一個ツ、之ヲ管守スレハ之レ漫リニ開クヲ防ニアリトス故  
ニ鑰ハ同一ニナラスシテ町村長ハ一ノ蓋ヲ開クモ今一ノ蓋ハ開クヲ能ハス立會人ノ鑰ナラサ  
ルヘカラス立會人モ亦右ト同一ノ理ニシテ一蓋ハ何レモ開クルヲ得ヘキ一蓋ヲ開クヲ能ハ  
サル様ニ仕拂ケアリトス

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前  
ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示スヘシ

〔註〕本條ハ選舉人ノ疑ヲ抱カサル様注意スルモノタリ  
即チ投票函ヲ改メ示スモノトス

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ  
經テ投票スヘシ

〔註〕本條ハ選舉人ハ本人自ラ撰舉ヲ爲シ自ラ投票所ニ出テ撰舉人タルニ相違ナキ旨チ人名簿  
ニ對照シテ投票スルモノトス

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各々一定ノ式ヲ用井選舉ノ當日投票所ニ於テ

町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選舉人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名  
住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

〔註〕本條ハ投票用紙ト撰舉人ノ投票紙ニ記載スル例ヲ示シタリ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ツルトキハ町  
村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由  
ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

〔註〕本條ハ自己ノ自筆スル能サルトキ代書セシトキノ法ヲ示ス

代書ハ町村ノ吏員ナラサルヘカラス而シテ之レチ本人ニ讀ミ聞カセ捺印シテ投票ス  
明細書ノ事ハ第四十三條ニ解ク可シ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

〔註〕本條ハ費用ト手數トチ厭テ反テ便利ナル方法ナリトス

彼ノ長崎縣第一選舉區ノ如シ長崎區ト西彼杵郡トニテ二人ノ議員ヲ選舉スル類ナリトス

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ヌ但シ選



舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

〔註〕選舉人名簿ニ記載ナキ人々ハ投票スルノ權ナシトス之レ勿論タリ併シナカラ假令人名簿ニ記載ナキモ第廿七條第二十八條ノ如ク裁判ヲ受ケ其裁判言渡書ヲ所持シテ選舉ノ當日投票所ニ來リタルトキハ之レニ投票セシムルモ亦勿論タリ何トナレハ裁判言渡書ハ人名簿ト同一ノ効アルモノナレハナリ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

〔註〕投票時限ハ嚴ニセサルヘカラス然ラサレハ爭起ルノ原因トナルヘシ故ニ午後六時來レハ直ニ其由ヲ告ケテ投票函ヲ閉鎖スヘシ如何ナル事アリト雖モ閉鎖後ハ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

〔註〕明細書ヲ作ルハ蓋シ投票シタルノ景狀ヲ知ルヘク且爭起リタルトキノ證據トナスヲ得ヘシ故ニ其時ノ一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ町村長署名スルモノトス第三十九條第四十條ノ如シ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

〔註〕本條ハ投票函及投票明細書ノ處分方ヲ示セリ

投票日即チ七月一日ノ翌日即チ七月二日立會人ト共ニ町村長之レヲ管理スル役所ニ之レヲ持參スルモノナリトス而シテ同所ニ於テハ第四十八條ノ手續ヲ行フモノトス

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

〔註〕一選舉區内ニアル島嶼トハ東京府第十二區ノ伊豆七島ノ如キモノニシテ前條ノ如ク七月一日ニ投票ノ翌日之ヲ送致スルコト能ハス何ントナレハ海路或ハ風波ノ爲メ航海ヲ止メ又ハ假



令航海シ得ヘキ日ト雖モ數日ヲ費スカ如キハ到底前條ノ手續ヲ行フヲ得ス故ニ東京府知事ハ人名簿確定ノ日即チ六月十五日ヨリ七月一日マテノ間ニ於テ其期日ヲ定メ選舉會ノ期日タル即チ七月三日マテニ其投票函ヲ送致スルノ取計ヒテ爲スモノトス故ニ選舉會ノ期日ハ之レヲ延ハスヲ得スシテ投票ノ日ヲ繰上ケルノミ何ントナレハ選舉會ハ一時ニ其郡役所市役所區役所ニ於テ爲スヲ以テノ故ナリトス

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

〔註〕本條ハ選舉會ヲ開ク場所ヲ示シタリ

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

〔註〕本條ハ選舉委員ヲ設ケル場合ヲ示ス

選舉長タル郡長市長又ハ區長ハ第四十四條ノ如ク各投票所ヨリ立會人來リタルトキハ其一郡一市一區内ノ立會人中ヨリ選舉委員ヲ定メ第四十八條以下ノ事務ヲ取扱ハシム

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

〔註〕本條ハ第三十四條ノ投票ヲ取調フルニアリトス

投票函送達ノ翌日即チ七月一日ニ投票ヲ爲シ其翌日郡役所市役所區役所ニ送致シ其各所於テハ右函ヲ受取りタル翌日投票函ヲ開キ投票ト投票人ノ總數ヲ計算ス

原來投票ト投票人トハ同數ナラサルヘカラス然ルニ差異ヲ生スルトキハ其旨明細書ニ之レヲ明記シ置クモノトス其差アル場合トハ或ハ連名ニテ差出シ又ハ町村長ノ明細書ト照シテ其人アルモ投票ナキカ如ク投票アルモ人名ナキカ如キモノナリ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

〔註〕投票ノ點檢ヲ爲スコトヲ示ス

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

〔註〕選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルヲ得ルモ會内於テ騷擾等ヲナシタルモノハ第九十



五條ニ依リテ處分セラルヘシ

六第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
- 三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ
- 四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス
- 五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用井又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用井タルモノハ此ノ限ニ在ラス

〔註〕本條ハ投票ノ無効トスヘキモノヲ示ス

若シ有無ニ付疑アルトキハ次條ニ於テ決定シ無効ノ分ハ第五十三條ノ如ク處分スヘシ

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ投票効力ニ付テノ決定ヲ示ス

前條ノ如キ無効ノ投票ハ列記シアリト雖モ若シ是等ノ有効無効判然セサルトキハ選舉長ハ委員ノ意見ヲ聞キ決定ス

此ノ決定ニ付テハ選舉會場ニテハ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス或ハ裁判所ニ訴訟ヲ起スヘキトノトス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

〔註〕本條ハ後ノ爭ヒヲ防クカ爲メ無効ノ投票チ一ケ年間保存ス其期限ヲ過キ去レハ之レヲ燒棄ツヘシ故ニ故障アルモノハ一ケ年ノ期限内ニ申立サルヘカラス



然レトモ訴訟起リ又ハ告訴告發アルトキハ假令一ヶ年間經過スルモ裁判確定マテ之ヲ保存スヘシ之レ此ノ投票ハ證據物件トナルヲ以テナリ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其選舉スヘキ定員ニ足サルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

「註」本條ハ一投票ニシテ定員ヨリ多ク記載シ又ハ定員ヨリ寡ク載セタル場合ヲ示ス多キトキハ其超エタル人名ヲ末ヨリ除却シ假令ハ二名投票スヘキニ四名投票シタルカ如キハ其終リヨリ一ト二ノ二名ヲ除却スルモノトス甲乙丙丁ノ四名ナレハ丁ト丙ヲ除却スルカ如シ

連名投票ニシテ二名ヲ投票スヘキニ甲一名ヲ記載シタルトキハ其一名ニ付テハ有効タリ又二名ノ投票ニ乙ノ名前ヲ二箇記シタルトキハ一人ノ名前トシテ乙ヲ計算ス之レ二度同名前ヲ記スルモ其人ハ一人ナレハナリ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ保存シ期限ヲ

經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

「註」本條ハ有効ノ投票ノミニ付テ之レヲ定ム

投票保存期限ハ六十日ナリトス第五十三條ノ無効ノ分ハ一ヶ年ナリ之レ争ヲ起スモノアルニ當リテ證明スヘキモノナレハ此差アリ殊ニ争ヒハ無効ニアレハナリ然レモ第五十六條ノ如ク裁判確定ニ至ルマテハ之レヲ保存スルハ第五十三條ト同一タリ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

「註」本條ハ無効有効ニ係ラス投票ヲ保存ス蓋シ證據物件ナレハナリ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉点檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

「註」本條ハ第四十三條ト同一ナリトス

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス  
投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤



〔註〕本條ハ當選人ヲ定ム

原則ニテハ投票總數ノ最トモ多キモノヲ以テ當選人ト定メタリ然レトモ同數アル場合ニ於テハ其人ノ生レ年月ヲ以テ先後ヲ定ム若シ同年月ニ生レタル人ナレハ其抽籤ヲ以テ之レヲ定ムルヲ以テ結局ノ處分ナリトス

生年月ヲ以テスルナレハ何ソ其生日ヲ以テ定メサラントノ疑アルモ誕生日ハ其三十年モ經過シタルトキハ之ヲ遺忘スル人多シ或ハ戶籍ニ依リテ判然セサルカ如シト雖モ其日果シテ正確ナルヘキヤ其届出ノ場合ニ依リ時限ノ前後ニ依リ其正確ナル日時ヲ先後スルコトアリ且ツヤ夫レカ些細ナルニ至リテハ煩雜アリ其月ヲ以テ最終ノ標準トス

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

〔註〕前條及本條ハ當選人ヲ府縣知事ニ届出テ知事ハ之レヲ當選人ニ通知シ且管内ニ之レヲ告示ス

示シテ知ラシム

本條ニ各ノ字アルハ蓋シ大坂府ノ如キハ九區アリテ當選トナルヘキモノ十人アレハ各ノ文字ヲ以テ其十人ニ對セシムルモノトス

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

〔註〕本條ハ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ届出ルニアリ若シ承諾セサレハ第六十四條ノ方法ヲ行ハサルヘカヲサレハナリ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

〔註〕一人ニテ數區ノ當選人トナルコトハ出來サルコト勿論タリ故ニ自己ノ欲スル所ヲ擇ミ届出ツヘシ又數區トモ承諾セサルトキハ前條ノ如ク尙ホ届出サルヘカヲス

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ



〔註〕本條ハ際限ナキニ依リ法律上辭シタルモノト見做スモノナリ

被選人ハ其府縣内ニ住居ヲ有セサルモノニテモ當ルコトヲ得ルニ付府縣内外ノ區別實ニ必要ナリ殊ニ外ノモノハ數日長キハ其何レノ國府縣ニアルヤ知ルヘカラサルヲ以テ猶豫長シトス

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ム

〔註〕本條ハ再選スヘキ場合ヲ示ス

當選人辭スルカ又ハ第六十三條ノ如ク期限内届出サルカノ時ハ其區ノ當選人ハ次點ノモノトセテ更ニ選舉期日ヲ定メテ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ其方法ハ第二十條以下ノ手續ト同一ナリトス

然レトモ第五十八條第二項ノ如ク同年月ノ爲メニ抽籤ヲ以テ當選シタル人辭シタルトキ又ハ届出サルトキハ一方ノ抽籤負ケノ人當選トス之レ同一ノ資格者ナレトモ不幸ニモ抽籤ヲ以テ

敗ヲ取リタルカ爲ナレハ之レヲ代リトスルモ敗テ失當ノ處分ニハアテサルナリ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

〔註〕當選人承諾シテ確定シタルトキハ府縣知事ハ當選シタル證書ヲ其者ニ付與シ當選人タル

コトヲ管内ニ告示シ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スルモノトス

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

〔註〕本條ハ議員ノ任期ヲ定メラレタリ

衆議院ノ議員ハ其任期四ケ年トシ尙ホ任期後ト雖モ再選セラル、コトアリトス議員ハ公選ナレハ人民ノ希望ニ依ルモノナリ故ニ一度希望ヲ以テ選舉セラレタルモノハ二度目ヨリ希望アルモノ之レヲ許サ、ルカ如キハ人民ノ輿論ニ反スルモノナレハ本條ニ於テハ再選ヲ許スモノナ

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命



セラレタルトキハ府縣知事ハ其命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ關員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補關議員ヲ選舉セシムヘシ

〔註〕本條ハ補欠議員選舉會ノ事ヲ示ス

議院法第八十四條ニ於テハ關員ノリタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒スルコトアリ

依テ内務大臣ハ補欠選舉ヲ開クヘキ旨ヲ府縣知事ニ命シ府縣知事ハ其命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ欠員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行フヘキモノトス

欠員ノ選舉ヲ行フハ其欠員トナリタル區ニ限ルモノトス故ニ假令ハ大阪府第四區ニ於テ一人ノ欠員ヲ生シタルトハ西成、東成、住吉ノ三郡ニ於テノミ選舉會ヲ開キ他ノ區ニ於テハ之ヲ開カサルモノトス之レ當然ノ事ニシテ其區域最初ヨリ定マリテ其域外ニ出ルコト能ハサルカ故ナリ

### 第六十八條 補關議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

〔註〕本條ハ補欠員ノ任期ヲ定メテ前議員ト同一トス蓋シ前議員ノ補欠ナレハ第六十六條ノ如ク四個年ノ不足ヲ補フニアリテ新クニ選ミタルモノニアラサルカ故ナリ假令ハ議員二年ヲ務メテ其年ノ議會ニ於テ退職ヲ命セラレタルトキ其補欠者タルモノハ殘リノ二年間議員タルモノトス

## 第十一章 投票所取締

### 第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

〔註〕本條ハ投票場ヲ取締ルノ法ダリ

町村長ハ投票管理ノ職ヲ然ラハ秩序ヲ保持シ安寧ヲ計ラサルヘカラス然ルニ場合ニ依リ警察ノ處分ヲ行ハサルヘカラサルコトアリ假令ハ投票所内ニ於テ演說ヲ爲スカ故ニ之ヲ制スルモ聞キ入レサルカ如キハ警察ノ處分ヲ以テ之レカ場所ヲ退去セシメ又ハ相當ノ處置ヲ行ハサルヲ得ザルカ如シ

### 第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

〔註〕本條ノ如キハ實ニ危險ニシテ且投票ヲ爲スニ付テハ必要ナルモノナラネハ斯ノ如キモノヲ携帯スルモノハ之レヲ入ルコトヲ許サ、ルモノナリ若シ入場シタルトキハ第九十八條ニ依リ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處セラレヘシ

### 第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス



「註」本條ニ於テハ投票スルモノハ入場スルノ必要アリト雖モ選舉人ニ非サルモノハ投票スルノ權ナキモノナレハ投票所ニ入ルノ必要ナシ之レヲ許スニ於テハ或ハ騷擾ヲ來シ秩序ヲ紊スニ至ル故ニ之レヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

「註」本條ノ所爲ノ如キハ實ニ投票所ヲ騷擾シ秩序ヲ紊ル故ニ之レヲ禁ス

若シ之レカ制止ヲ用ヒス騷擾スルニ於テハ第九十四條ニ依リテ處斷セラル、モノトス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

「註」町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持スルノ職タリ故ニ投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルキハ之レヲ警戒シ若シ命ニ應セサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ之レ秩序ヲ保持スルノ方法ナリトス若シ之レカ第九十二條以下ノ所爲アルトキハ警察官吏ノ處分ニ付スルモノトス

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ル、コトヲ得

「註」前條第七十三條ノ投票所ノ外ニ退出セシメタルモノコシテ第九十二條以下ノ犯罪者ナルトキハ到底投票スルノ權ナキハ勿論ナリト雖モ其犯罪者ニ至ラサルモノハ之レカ投票ノ權ヲ剝奪スルコト能ハスシテ一時ノ處分ナレハ投票ヲサシムルカ爲メニハ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ル、ハ自由ナリトス成程其退出者ト雖モ一時ノ心得違ニ依リ秩序ヲ紊シタルモ之レカ後悔シタルニ於テハ再ヒ之レヲ入場セシムル政テ失當ナラサルナリ

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

「註」刑法又ハ此法律ニ依リ處分ヲ仰カサルヘカラサル選舉人ナルトキハ其投票スルコトヲ禁スルハ勿論ナリ蓋シ其失權タル自己ノ行爲ヨリ生シタルノ禍ナレハナリ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付キ町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ルコトヲ得ス

「註」本條ハ第五十二條末段ト同一ノ主義ナリトス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之